

第1節 紛争関係年表

年 月日

- 1802 イギリス、低地シンハラとタミル人地区を英領直轄植民地に編入
- 1815 キャンディ王国、イギリス支配下に
- 1915 シンハラ・ムスリム暴動
- 1919 セイロン国民会議 (Ceylon National Congress、CNC) 設立
- 1931 ドノモア改革を受け、立法参事に替わって国家評議会選挙 (State Council) ジャフナ青年会議派、完全独立を掲げてドノモア憲法に反対し、選挙ボイコット
ジャフナ教員組合 - 英語教育への部分的なスワバーシャ要求を決議
- 1937 S.W.R.D.バンダラナイケ Sinhala Maha Sabha を設立
- 1941 G.G.ボンナンバラムら全セイロンタミル会議 (All Ceylon Tamil Congress、ACTC) 結成
- 1943 シンハラ語をセイロンの公用語とする動議が上程される
- 1944 5. 国家評議会が英語に代わってシンハラ語とタミル語にする決議を採択 (43年動議の修正)
- 1945 ソールベリー委員会来訪、報告書作成
9. シンハラ語とタミル語を公用語 (official language) とするための国家参事会選任委員会が任命される
14才までの無償教育案、国家評議会を通過
- 1946 **ソールズベリー憲法発布**
統一国民党 (United National Party、UNP) 結成
特別委員会、英語に代えてシンハラ語とタミル語を公用語とする報告。つまり政府各省庁で使用
する言語、公務員試験、国会の議事録、法廷、教育機関における言語をスワバーシャにする。英語
からの移行期間は10年間。国家評議会この報告書を採択
- 1948 英連邦の自治領として独立。初代首相に D.S.セーナナーヤカ (UNP) 就任
S.J.V.チェルヴァナーヤカム、タミル FP (Tamil Federal Party、FP) タミル FP を結成
セイロン市民権法 (Ceylon Citizenship Act No.18) 成立
- 1949 ボンナンバラム入閣
インド・パキスタン市民権法成立
D.S.セーナナーヤカ、国会選挙法 (Ceylon Elections Amendment Act) を制定してインド・タ
ミル人から選挙権を剥奪
- 1951 5.23 国民言語委員会(National Languages Commission) シンハラ語とタミル語を国民語にする事
を勧告 53年に報告書
- 6.1 第一回公用語委員会(Official Language Commission)開催、シンハラ・タミル語を公用語とする
ための指針づくりを目的とした (53年10月まで)
FP、第一回大会
S.W.R.D.バンダラナイケ、スリランカ自由党 (Sri Lanka Freedom Party、SLFP) 結成
12. スワバーシャ教育を8年生まで延長
- 1952 3. D.S.セーナナーヤカ落馬で死亡。息子のダドリー・セーナナーヤカが首相に就任
4. 国会解散
第2回総選挙。95議席中、UNP42議席、SLFP9議席獲得
- 1953 ガルオヤ入植が始まる
ゼネストにより、ダットリー・セナナヤケ辞職、ジョン・コテラーワラが首相に。タミル・コン
グレスとの協力関係終了
国民言語委員会の報告書、シンハラ語・タミル語をともに公用語として認める。スワバーシャに
よる最初の公務員試験は58年に実施するとしたが、委員長が個人的な補足条項で二つを公用語
にするよりも一つを公用語にする方が容易と述べた

- 1954 チョークシー委員会、県開発評議会(District Development Councils、DDC)を提案(行政的な分権化提案)
- 1.8 インド・タミルにかんするコテラーワラ・ネルー協定
9. コテラーワラ首相、ジャフナでシンハラ語とタミル語パリティを確認
- 1955 9. コテラーワラ首相、議会でパリティ支持を表明
10. バンダラナイケ、国会でタミル人の脅威をうたえて、シンハラ語の公用語化を主張。タミル語は適切な使用に限られる
12. 月党の年次大会でS.W.R.D バンダラナイケ、SLFP の政策として、「シンハラオンリー」を打出す
- 1956 チョークシー委員会、ドノモア委員会と同様に、地方議会を勧告。県行政、カッチェリを廃止すべきだと主張
2. UNP の党大会でもシンハラ語を唯一の公用語にすると政策転換
- 2.18 国会解散
- 2.22 人民統一戦線(Mahajana Eksath Peramuna、MEP)結成
第3回総選挙 MEP の勝利 MEP51 議席、UNP 8 議席
- 6.5 「シンハラオンリー」法案、国会に上程される。このときゴールフェイスで FP 議員らが座り込み。シンハラ人暴徒による襲撃、全国に飛び火
- 6.15 シンハラオンリー法下院通過
- 7.7 **シンハラオンリー法(Act No. 33 of 1956 Sinhala Only Act)採択**
FP、トリンコマリーで開かれた集会でシンハラ語・タミル語を公用語化、シンハラ人入植の停止、北部・東部の自治(連邦制)、インド・タミル市民権解決を要求。
文化省設立
- 1957 1. 自動車ナンバープレートのシンハラ文字表記反対運動
- 4.27 バンダラナイケ、上院と下院の合同委員会を任命して憲法の改正を審議させた
- 7.26 **バンダラナイケ=チェルヴァナーヤカム(BC)協定**
- 10.23 J.R.ジャヤワルダナ、BC 協定に反対して、デモを組織
- 1958 4.9 バンダラナイケ、BC 協定の廃止を発表
- 5.末 民族暴動、非常事態宣言、FP 議員拘束
- 8.14 **タミル語特別規則 NO.28 of 1958**
- 1959 9.25 **S.W.R.D.バンダラナイケ、僧侶統一戦線(Eksath Bhikku Peramuna)の僧侶によって暗殺される**
12. 国会解散
- 1960 1.6 国会解散
- 2.2 シンハラオンリー法施行日。FP はストライキ(ハルタル)を呼びかけ
3. 第4回総選挙 UNP50 議席、SLFP46 議席獲得 ダッドリー・セナナヤケ首相に就任
短命少数派内閣=50/151 議席 SLFP46 議席 FP が協力
4. シリマボ・バンダラナイケが SLFP 首脳となる
- 4.26 UNP と FP の協力関係が崩れ国会解散
5. SLFP と LSSP の間に選挙協定
- 7.20 第5回総選挙 SLFP、151 議席中 75 議席を獲得。シリマボ・バンダラナイケ組閣
私立学校の国有化開始、私立のキリスト系学校の国立への編入に反対して父母らが教会占拠(移管は 60~61 年で完了)
- 1961 2. FP、北・東部州(ジャフナ)でサチャグラハ、ジャフナで独自の郵便サービスを開始。バンダラナイケ軍隊派遣。FP 議員の逮捕拘留 6 カ月
- 5.28 トングマン、首相に言語問題を解決するための 4 項目を提示
- 1962 1. 軍人・警察官(キリスト教徒中心)による内閣転覆失敗
- 1963 LSSP、シンハラオンリーを認め、SLFP 内閣に入閣
LSSP、CP、MEP、ULF (United Left Front) 結成
行政制度改革、ヘッドマン制度を廃しグラマセーワカ制度に移行

- 1964 10.30 シリマヴォ=シャストリ協定
12. バンガラナイケ夫人の新聞社国有化政策 (UNP よりの新聞社) に反対して CP デシルバ (議長で土地・灌漑・電力大臣) に率いられた SLFP 国会議員が党籍替え、政府案に反対する) 12 月 17 日、政府不信任案可決、国会解散
- 1965 JVP 創設
- 3.22 第 6 回総選挙。UNP66 議席獲得、FP、ACTC らと連立 (ダドリー・セナナヤケ首相)
- 3.24 セーナナーヤカ=チェルヴァナーヤカム協定 (UNP - FP)
- 1966 1.8 北・東部州におけるタミル語の適当な使用規制 (タミル語法) 施行
タミル語法に反対する SLFP、LSSP、CP (United Front) 主催のデモ
2. 軍によるクーデター未遂発覚
ポーヤデイが日曜の代りに休日になる (71 年に旧来の方式に変更)
- 1967 JVP 活動開始。
- 1968 6. R.G セーナナーヤカ、シンハラ人民党 (Sinhala Mahajana Peramuna、SMP) 設立
じゃがいもの輸入ストップ、70 年に再開
- 1969 4. DC 設置案廃案で、FP 連立離脱
セーナナーヤカ首相によりマハベリ開発促進計画発表
- 1970 大学入試の標準化政策 (Standardization)
- 1.22 G.G.ボンナンバラム、国会でタミル人とシンハラ人との協調を訴える
- 2.28 ポルゴッラでマハベリ計画着工式典開催
- 3.25 国会解散
- 5.27 第 7 回選挙 151 議席のうち SLFP (91 議席) LSSP (19 議席) CP (ソ連派) (6 議席) 3 派連合の統一戦線 (UF) が勝利 5.29 バンガラナイケ夫人首相に就任
ロハン・ヴィジェヴィーラなどの JVP メンバー、UNP 政府によって拘留されていたが、7 月に釈放される
- 7.21 制憲会議設立
- 1971 3.3 JVP、アメリカ大使館へのデモ
- 3.15 ケーッガラ県ネランデニヤで爆弾が発見され、JVP のヴィジェヴィーラは逮捕され、ジャフナの刑務所に投獄
- 3.16 政府非常事態宣言発令、77 年 2.10 まで継続
- 3.22 タミル会議派の国会議員、首相と会談し、党籍替え
- 4.5 JVP の主導する反乱 夜間外出禁止令発令
- 5.24 非常事態規制により、解説記事の検閲制度実施
- 6.20 インド人引き揚げ協定 (修正) 法案下院通過
- 6.28 FP 議員、タミル語の併用を主張して議会を退場。党員でこれに従わなかった議員が除名される
- 12.29 国会に憲法改正案提出
- 1972 ブラバカラン、18 オでタミル・ニュー・タイガー (Tamil New Tiger、TNT) 設立
- 2.1 全タミル政党、合同会議開催、6 項目要求決議
- 2.23 チェルヴァナーヤカム、マドラスで新憲法反対、非暴力的手段でタミル人自治国樹立に努力と表明
- 2.28 CWC トンダマン、インド・タミルは新憲法制定の相談を受けていないと非難
- 3.29 政府、国家への反逆罪裁判の刑事裁判特別法廷法案と閣僚への裁判所の強制命令不適用の解釈法改正案を準備
- 4.6 刑事裁判特別法廷法案、賛成 109 反対 29 で議会を通過
- 4.21 セイロン大学法学部学生同盟は、検閲緩和、憲法草案の公開討議、構内での非政治的集会の許可、学内施設からの軍隊引き揚げ、土地改革の推進、問題法案の慎重審議を要求
- 5.5 解釈 (改正) 法案、人身保護例と懸案中の事件の除外など一部を修正して議会を通過
- 5.14 トリンコマリでタミル統一戦線 (Tamil United Front、TUF) 設立。参加母体は ACTC、FP、CWC でイーラム共和国宣言
- 5.22 賛成 119 反対 16 で新憲法採択、国名をスリランカ共和国 Republic of Sri Lanka とする

- 1972 5.23 セイロン大学の集会禁止解除
- 6.24 TUF、タミル語の公用語化、市民権保証、宗教の平等待遇を決議、6項目計画提出
- 8.19 新聞審議会法案公示
- 9.20 閣議、新聞審議会法の改正を決定、新聞記者等の情報源を保護
- 9.27 TUF、タミル人の7項目の約束を発表(非暴力の堅持、一切の差別に反対、タミル人の解放、自由と権威の確認、地方の振興など)
- 9.30 首相、コミュニズム紛争に警告
- 10.3 チェルヴァナーヤカム、タミル人差別の憲法条項の改正を要求し議員を辞任
- 10.15 政府、新聞審議会法案の修正決定
- 1973 2.9 北部・東部州の法廷でのタミル語使用法案(Language of the Courts Bill)公示
- 2.22 新聞審議会法案、野党退場の中112対0で可決
- 3.23 裁判所言語(特別措置)法案、国会通過
- 4.23 TUF、インドのガンディー首相に書簡。インド・タミルの市民権登録再開の拒否を要請
- 4.26 4.13のD.S セーナナーヤカ死亡に伴い、ジャヤワルダナがUNP 総裁に就任
- 4.29 インド・ガンディー首相帰国、インド・タミル引き揚げ問題の検討開始などで合意
- 5. TUF 行動委員会がValvettiturai に集まり、議長チェルヴァナーヤカムの司会のもとに目標として独立国タミル・イーラムの実現を申し合わせ、国旗として朝日を決めた。
- 7.18 レイクハウス出版社収用法案(Associated Newspaper of Ceylon Ltd(Special Provisio)Bill)可決
- 9.2 TUF、不服従運動開始
- 9.7 FP、年次大会
- 9.16 TUF チェルヴァナーヤカム、少数民族の権利についてジュネーブ国際司法裁判所に報告を送る
- 9. 分権化予算 Decentralized Budget(DCB)、県政治部長(District Political Authority)導入
- 10.12 ACTC 執行委員会、政府の食糧増産運動支持、ジャフナでの大学設置要求、シンハラ人・タミル人の共存等を決議、また、FP の連邦主義要求放棄を歓迎
- 11.21 大学入試の県別割り当てを改訂して、30%は成績、70%は地域別、人種別割当制とする
- 11.28 政府、大学入試の人種別割り当て案中止、地域割り当て中心に変更。TUF はこれを批判
- 1974 1.4 第4回国際タミル研究会議(ジャフナ)で警察官が10人を殺害
- 1.7 非常事態規制により、国防・外務省に対し公共治安の破壊、食糧生産および自由な交通の妨害、宗教行為の混乱を招くデモ禁止権限を付与
- 1.23 ガンディー首相とバンダラナイケ首相、無国籍タミル人問題、国境問題について討議(27日終了)
- 4.21 外出禁止令
- 4.22 政府、反政府系 Independet Newspapers Ltd.を閉鎖
- 6.28 スリランカ・インド両国政府、Kachchatve 島のスリランカ帰属、ポーク海峡の了解範囲決定の協定調印
- 10.6 バンダラナイケ首相、ジャフナで演説、タミル人の国政協力を要請
- 11.8 国防・外務省、Peradige Sulang Kalliya(東部台風団)、Kalupahana(黒い光)、Lanka Viplavalkari Tharuma Sanvidanaya(ランカ革命青年組織)の3団体について緊急公安法によりテロ活動を理由に解散を命令
- 12.20 JVP 指導者のヴィジェヴィーラに終身刑
教育メディア別割当プラス地域別割当
- 1975 イギリスで EROS 結成される
- 2.8 チェルヴァナーヤカム、カンケサントライ地区補欠選挙、共産党のボンナンバラムを押さえて再選
- 5.5 ブラバカラン、TNT を母体に LTTE 創立
- 7.27 SLFP 党員のジャフナ市長 A. Duraiyappah、TNT メンバーによって暗殺される
- 10.3 チャルバナヤカム 北部、東部の耕作委員会の任命問題で首相に抗議
- 11.3 TUF、選挙区割り委員会でウヴァ州にタミル議席要求

- 1975 12.18 政府、1976年1月より北部の裁判所でのタミル語の試用を決定
- 1976 2.2 プッタラムで暴動、夜間外出禁止令発令
- 2.3 TUFの12議員、独立国家建設の動議提出。5日政府は新聞検閲令で分離独立運動の記事を検閲と発表
- 2.5 政府、非常権限により悪質流言取締(Prevention of Communal & Religious Discord Regulation)令を公示
- 3.24 政府、国家統一破壊防止法案提出準備(非常・国家転覆防止規則を改正して国家統一破壊目的の文書の所持、分配も非合法とすることに)
- 4.16 TUF、TULFと改名することを総会で決定
- 5.14 TUFに正式改名タミル統一解放戦線(Tamil United Liberation Front、TULF)分離独立国家要求の決議を採択、タミル人国家の設立宣言
- 5.22 国家転覆防止規制により、FP元議員V.N.Navaratnam、K.P.Ratnam、K.ThuraiaratnamとTULF書記長A.アミルタリンガムを逮捕、23日首相は分離州の設置は許さないと表明、24日法務長官は4人を最高裁に告訴
- 5.26 CWCトンダマン委員長、TULFの分離州案に反対を表明
- 7.9 TULF、トリンコマリーで年次大会、分離州、タミル青年釈放を要求
- 7.28 故ジャフナ市長Duraiyappa殺人事件で拘留中のタミル人青年12人釈放
- 8.10 北部、東部でタミル人逮捕者の釈放を要求して暴動
- 9.10 コロンボ高裁、TULF4指導者弁護人の国家転覆防止規則の違反告訴を棄却、アミルタリンガム書記長を釈放
- 9.26 司法省、1971年反乱事件関係者1万人に自由回復を発表
- 11.1 CWCトンダマン委員長、タミル人が分離独立国家要求にこだわる限り問題解決はないと表明
- 11.1 TULF書記長アミルタリンガム、次回の総選挙は事実上分離国家要求の国民投票であると語る
- 12.10 最高裁、コロンボ高裁によるTULFアミルタリンガム書記長釈放判決の取り消しを命令
大学入試制度変更得点上位より70%、地域別割当より30%(うち後進地域に15%割当)を合格させる
- 1977 1.4 政府、基本サービス維持令(Essential Service Order)発令、違反者を弾圧、コロンボでの集会禁止、報道管制
- 2.10 ゴパラワ大統領令、5月19日までの議会の停会を布告
2. G.G.ボンナンバラム死去
- 2.15 非常事態宣言失効
- 4.26 チェルヴァナーヤカム死去
- 5.18 国会解散
- 7.21 第8回総選挙、UNP大勝 議席の6分の5(168議席中140議席)を占める地滑りの勝利。J.R.ジャヤワルダナ首相就任。TULF、17議席獲得し第一野党となる
- 8.4 政府、タミル語の地位を考慮、大学入試の標準化廃止を発表
- 8.16 ジャフナで警官と民衆の衝突、各地にシンハラ人のタミル人への暴行、略奪が波及、コロンボにも及び、19日には外出禁止令発令
- 7.18 首相とアミルタリンガム、人種闘争を否定
- 9.22 首相、第2次憲法改正案発表
- 10.4 憲法改正を巡る討論、TULFは改憲案がタミル人問題に全く触れないとして、採択に不参加、128対0で可決
- 10.21 首相、刑事特別裁判所廃止と表明
- 11.2 ロハン・ヴィジェヴィーラ、釈放
- 11.8 アミルタリンガム、政府との交渉に応じると表明
- 1978 1.26 公安法改正法案、大統領特別査問委員会法案、公安法は1月31日通過、非常事態宣言の継続は90日まで
- 1.27 TULFからUNPに転じたカナガラトナム議員、タミル人青年に狙撃される
- 2.4 ジャヤワルダナ大統領就任、プレマダーサ首相に就任

- 1978 4.14 タミル・イーラム解放の虎運動 (LTM) ジャフナで警官 4 人を殺害
- 4.19 警察、テロリスト活動対策班設置
- 5.23 LTTE など、タミル人過激組織非合法化法公布、類似団体の容疑者に対する保釈不許可の刑事訴訟 (特別規定) 法案も成立
- 6.9 共産党、LSSP の左翼政党、刑事訴訟 (特別規定) 法、タミル人過激派組織非合法化法を非難
- 6.22 政府、県大臣の創設決定
- 7.7 地方自治 (市民権停止) 法案公示、国会通過は 8.9
- 7.8 情報省、各省に対して新聞の政府批判記事の収集を指示
- 8.3 TULF のアミルタリンガム書記長、新憲法案は言語問題に若干の譲歩が見られると語る
- 8.4 CWC のトンダマン委員長、新憲法案のタミル語条項を評価
- 8.9 ULF、新憲法反対集会
- 8.16 新憲法案 137 対 0 で可決、TULF、SLFP は審議に参加せず
- 8.22 CWC のトンダマン委員長、TULF のタミル分離国家政策固執を批判
- 9.6 トンダマン入閣受諾
- 9.7 新憲法、スリランカ民主社会主義共和国憲法公布
- 9.8 パティカロアで爆弾騒ぎ、TULF 青年過激分子ら 9 人逮捕
- 10.6 TULF 総裁シバタムパラム、大統領とジャフナ、ムライティブ権の県大臣への TULF 議員任命問題で会談
- 10.29 TULF ジャフナ執行委員会、対政府協力を主張する 3 議員について討議、タミル青年戦線、婦人戦線は政府協力を反対
- 12.6 TULF のアミルタリンガム書記長、議会での新聞のタミル人関係報道に対する情報省の態度を批判
- 12.19 議会で TULF アミルタリンガム書記長、北部州でのタミル人への軍人・警官の暴行に抗議、ブレマダーサ首相、TULF の人種扇動言説を批判
- 1979 1.17 大統領、人種融和のため学校でのシンハラ語、タミル語、英語 3 言語の学習を強調
- 1.20 TULF 幹部、暴力によってでも分離国家実現を図ろうとする青年組織を統制
- 2.4 インド・デサイ首相訪ス、分離国家構想の放棄と政府との和解を呼びかけ
- 2.10 TULF 執行委員会、青年組織の過激派排除とラジャドライ議員の副総裁罷免と後任議員の指名を討議、タミル青年会議は、独自の政策行動を言明
- 2.16 TULF のアミルタリンガム書記長、大統領とシンハラ人入植問題について会談
- 2.22 第 2 次憲法改正法案 131 対 7 で可決(7.26 施行)。TULF は欠席
- 2.27 JVP 集会、警官介入で乱闘
- 3.6 TULF 青年戦線、政府との和解反対表明
- 3.15 アミルタリンガム書記長訪印、分離独立国家支持運動を展開、3 月 31 日帰国
- 4.6 地域開発省(Ministry of Regional Development)設立、元 TULF 議員 C・ラジャドライが大臣に就任、北部州の開発、タミル語特別規定法の実施、ヒンドゥー文化・宗教の発展を所管
- 4.18 訪印中のトンダマン農村産業相、インド系無国籍者問題は大半解決と語る
- 5.19 地方選挙、UNP 大勝
- 5.27 S.シバタムパラム議員、訪米、米国政界にタミル人の苦境を訴える、マサチューセッツ州議会は 5.29 にこの問題にかんする決議を行った
- 6.24 シンハラ・ペラムナの会合で、TULF 結社禁止を求める決議を採択
- 6.24 インド高等弁務官、インドは TULF を支持しないと言明
- 7.1 ジャフナで警察署長射殺事件
- 7.3 大統領、TULF のテロ助長に警告
- 7.3 TULF 議員総会、バブニヤ県境変更の議会決議に反対、議会ボイコットを決定
- 7.10 在スリランカ米国大使、マサチューセッツ州議会のタミル人問題決議でキャンディ大僧正に陳謝
- 7.11 ジャフナに非常事態宣言
- 7.11 アミルタリンガム書記長、大統領に公開書簡、政府との交渉に門を開く
- 7.16 首相、アミルタリンガム TULF 書記長同時声明、国民にデマに動じず平静維持を要望

- 1979 7.19 **テロリズム防止法制定**
- 7.19 大統領、アミルタリンガムの 11 日書簡に回答。タミル人を差別せず、地方分権問題大統領委員会の設置を提案
 - 7.25 政府、地方分権、開発の大統領特別委員会を任命
 - 10.3 基本サービス法 128 対 21 で議会を通過、電力、水道、輸送等の公共サービスのスト禁止
 - 12.28 ジャフナに非常事態宣言解除
- 1980 2.28 地方分権大統領諮問委員会報告書提出、政府はこれに基づき地方開発評議会法案を作成
- 4.28 タミル青年組織、TULF と分派することを決定
 - 5.3 TULF、過激な党員を除名
 - 9.6 スリランカ外相、インド人引き揚げ問題でインド外相と協議
 - 10.16 シリマヴォの公民権 7 年間剥奪
- 1981 大学入試制度改正
- 3.3 閣議 県開発評議会 (District Development Council、 DDC) 選挙法案を承認
 - 3.11 テロ防止 (特別措置) 法修正案の国会通過
 - 4. テロ防止法に基づき暴徒 27 人を拘留
 - 5.25 ジャフナの UNP 支部長 PLOTE 党員に狙撃され死亡
 - 5.26 パプニヤ県大臣タミル人青年に狙撃される、アミルタリンガム TULF 書記長は暴力的な手段を批判
 - 5.26 インド・セイロン協定 (1967) 改正法案公示
 - 5.30 大統領、タミル過激派分子の分離国家運動は許さないと声明
 - 6.1 国防省、ジャフナを制圧、アミルタリンガム TULF 書記長を拘禁
 - 6.2 警官や兵士らがジャフナの公営図書館放火 非常事態宣言公布
 - 6.4 **DDC (District Development Council) 選挙**
 - 7.6 シリマボ・シャストリ協定延長案議会提出
 - 7.7 DDC 改正法案 (村評議会設置) 121 対 5 で可決
 - 7.18 ロンドンでタミル人が分離国家を要求するデモ
 - 7.28 西ベルリン当局、東独より流入のタミル人難民の強制送還決定
 - 7.28 ジャフナで、タミル人過激派テロ、警官 20 人死亡、TULF は暴力を非難
 - 7.30 **アンバラのスポーツ大会を発端に暴動が全土に広がる (ヒンドゥー寺院放火ラトナブラ、ネゴンボなどに波及)**
 - 8.3 TULF、政府に協議を希望
 - 8.11 ネゴンボ、ペリヤゴダで暴動、35 人逮捕
 - 8.13 コロンボ郊外夜間外出禁止令
 - 8.14 ラトナブラで暴動
 - 8.15 非常事態宣言公布
 - 8.21 在英スリランカ高等弁務官事務所にタミル人らが放火
 - 8.25 大統領、テロ行動に極刑と声明。与党一部議員の人種扇動を批判
 - 10. EROS から分離して Kandiah Padmanabha が EPRLF 創立
 - 10.5 TULF と政府協議、TULF は DDC の自主課税権要求
 - 10.19 アミルタリンガム TULF 書記長、ニューデリーでインド外相と会談
 - 11.2 政府と TULF 人種問題で会談
 - 12.6 シリマボ・シャストリ協定の行き詰まり打開交渉
- 1982 1.14 在英タミル急進派が主導する一方的独立宣言をするが不発に終わる
- 2.1 大統領、インドとの無国籍問題解決を強調
 - 2.23 UNP は TULF との会談で DDC 財政拡大を提案、TULF の自警団設置案に同意
 - 3.11 テロ防止改正法案 127 対 13 で通過
 - 3.12 CWC 年次大会、トンダマン委員長が無国籍労働者問題の解決要望
 - 4.24 政府、TULF との協定にあった自警団の 5 月発足を無期延期に
 - 5.17 スリランカ政府軍、北部のゲリラ訓練基地を急襲

- 1982 5.19 閣議、大臣権限の一部を DDC へ委譲決定
- 5.20 インド、タミル・ナードゥ州で LTTE の幹部ブラバカラン、クマランを逮捕
- 5.27 ジャフナのタミル人過激派、インドのタミル人幹部逮捕に抗議して警官 2 人を射殺
- 6.2 閣議、人種対立扇動文書の公安法取り締まり決定
- 8.26 **第 3 次憲法改正 138 対 1 で通過、就任から 4 年を過ぎた大統領には信任を問う選挙を行う権利**
(大統領任期延長の布石)
- 10.20 第 1 回大統領選挙 全投票数の 52.91% (320 万票) を得てジャヤワルダナ大統領再任
- 10.27 閣議、現任議員の任期をさらに 6 年延長する第 4 次憲法改正案の国民投票付託決定
- 11.6 インドよりブラバカランら送還決定
- 11.27 ジャフナで LTTE のシャンカールが死亡。この日が LTTE にとって初めての死者、89 年以降、
ブラバカランの誕生日とあわせて LTTE の英雄週間となる
- 12.22 第 1 次国民投票が現国会議員の任期の 6 年延長について実施される。投票率 71%、賛成票 54.6%
- 1983 1.4 大統領、全政党会議の設置提案、TULF 書記長は 1 月 6 日これを評価
- 1.7 TULF 議員、射殺される
- 2.24 第 5 次憲法改正、122 対 0 で可決
- 4.5 ジャフナで TELF デモ、警官と衝突
- 4.28 大統領、インド外相と無国籍者・テロ分子問題で討議
- 5.18 18 選挙区補欠選挙、46 地方議会選挙
- 7. LTTE、ニューデリーで開かれた第 7 回非同盟諸国首脳会議にタミル人の民族解放の戦いに理解
と支持を得るため、覚え書きを提出
- 7.2 ジャフナで TELF 幹部ダルマリンガム逮捕
- 7.7 マサチューセッツ州議会、タミル分離国家支持を決議
- 7.13 大統領、全政党会議招集を言明
- 7.16 大統領、TULF に全政党会議出席を要請
- 7.16 タミル・ナードゥ州首相、大統領にタミル問題で抗議
- 7.20 **全政党会議開催**、DDC の機能強化、タミル語国語化の促進、教育・雇用問題を討議するとして
が、UNP、CWC のみ出席し、TULF などは出席を拒絶
- 7.21 トングマン、全政党会議にタミル人無国籍問題の早急な解決を希望
- 7.23 ジャフナでテロが政府軍兵士 13 人を殺害
- 7.25 **コロンボで暴動、いわゆる 7 月暴動**
- 7.28 AIADMK ラーマチャンドラン、州政府首相、マドラスで全政党会議を招集してスリランカで
のタミル人殺害を批判
- 7.30 政府 JVP、CP、NSSP の政治活動禁止し、機関誌印刷所を閉鎖
- 8.5 **第 6 次憲法改正法案、国会で可決。分離独立要求の禁止**
- 8.9 大統領、弟の H.W.ジャヤワルダナをインドに派遣、インド首相と会談
- 8.9 議会で、TULF 以外の各議員分離国家否認を宣誓
- 8.9 TULF、国連事務総長に平和軍派兵要請
- 8.12 ガンディー首相、下院でスリランカの統一支持を言明、一方タミル・ナードゥ州野党は反スリ
ランカ抗議デモ
- 8.14 TULF 書記長、インド首相と会談
- 8.19 政府、アジア各国に H.W.ジャヤワルダナ特使派遣を決定
- 8.25 TULF 書記長、インドでインド特使パルティサラティと会談
- 9.22 第 7 次憲法改正 121 対 0 で可決
- 10.9 TULF 書記長、憲法改正はタミル人の政治的追放と非難
- 10.11 TULF 議員、マドラスへ避難
- 10.13 訪印中のトングマン、TULF 総裁、タミル・ナードゥ州首相と会談
- 10.13 DMK 党首、国連事務総長に平和軍のスリランカへの派兵を要請する署名を提出
- 12.29 **大統領、全政党会議に TULF 招待、14 項目提案**
- 1984 1.2 TULF 代表、ニューデリーで、ガンディー首相、ラーオ外相と円卓会議案について会談

- 1984 1.3 インド首相特使パルティサラティ来島、1.10 大統領と会談
- 1.5 共産党と平等社会党、全政党円卓会議出席を決定
- 1.7 1000 名を超える仏教僧が民族問題についての大統領提案を検討するため、ラトマラーナの集会に参加
- 1.8 イスラム教徒の6組織が大統領に会い、全政党円卓会議への参加を認めるよう強く要請
- 1.9 SLFP、全政党円卓会議への出席拒否を決定
- 1.10 **ジャヤワルダナ大統領、全政党・宗教界の代表者を集めて民族問題解決のための全政党円卓会議 (All Party Conference=APC) を開催。SLFP の参加なし**
- 1.11 キリスト教、ヒンドゥー教組織も仏教組織とともに APC 参加を決定
- 1.11 SLFP 中央委員会、APC への参加を決定
- 1.20 APC で、地方分権、テロリスト掃討、各民族の改善要求を検討中であると大統領が発表
- 2.1 TULF アミルタリンガム書記長、ニューデリーでパルティサラティ特使と会談
- 2.2 トンダマン農村工業開発相、マドラスで記者会見、APC の公正な解決を希望
- 2.4 大統領、独立記念式典で民族融和を強調、無国籍タミル人問題の解決を示唆
- 2.6 SLFP、APC をボイコットすると決定
- 2.9 在スリランカ、インド大使が SLFP 幹部と会談
- 2.13 APC 事務局長、バンダラナイケ前首相に民族問題解決のため SLFP の円卓会議復帰を強く要請
- 2.18 TULF は APC への政府提案を待望していると、アミルタリンガム書記長が談話発表
- 2.22 APC、14 日ぶりに開催されるものの、選出母体での討議が必要と、3 週間の休会を決定
- 2.23 大統領、北部のタミル民族の主張と南部のシンハラ民族の主張との間に埋めることの困難な深い溝があると議会で表明
- 3.9 A.ダサナヤカ SLFP 議員、無国籍タミル人にスリランカ市民権を与えるか否か、国民投票の実施を主張
- 3.11 TULF 書記長、アンバラとパティカロア県のイスラム教徒指導者との会談に満足表明
- 3.13 APC 再開、アスギリヤ派の P.チャンングナンダ管長は、バンダラナイケ前首相と会談後、DDC 以上の分権化は不適当と表明
- 3.15 **APC 委員会、9.3 万人の無国籍タミル人にスリランカ市民権を与えることで全員が一致**
- 3.20 TULF 書記長、仏教僧最高会議との会談で、タミル・ナードゥ州がスリランカ内政に干渉すると言う説は根拠がないと否定
- 3.20 APC、5 月 9 日まで休会することに決定
- 3.21 TULF は、適当な代案が提供されれば独立要求を撤回すると表明
- 3.21 ハミード外相、タミル・ナードゥ州におけるテロリスト訓練所問題をインド政府と話し合うよう閣議で提案
- 3.22 首相、政府はインドにおけるテロリストの訓練所に関する情報を入手したと議会で表明
- 3.23 インド政府、スリランカ人テロリストの存在やその訓練所の存在を全面的に否定
- 3.23 国内の治安維持のために国家治安省設立
- 3.24 ヨーロッパ諸国で亡命を求めているタミル人は 1 万 2000 人と政府発表
- 3.29 首相、テロリスト訓練の調査をインドに求める
- 4.6 ジャフナ刑務所が襲撃され、数名の囚人が脱走
- 4.7 ガンディー首相、ジャヤワルダナ大統領に親書を送り、スリランカの国家的統合の支持を表明
- 4.11 スリランカ海軍、北部水域に一定の監視ゾーンを設定
- 4.13 大統領、インド政府がスリランカのタミル人政党への支持を止めるよう要請
- 4.13 国家治安相、ニューデリーでガンディー首相らと会談
- 4.15 ガンディー首相、スリランカに対するインドの善意を強調、主権と領土の統合性を尊重するとスリランカ国家治安相に伝える
- 4.20 TULF、国連人権委員会に文書でスリランカの民族的殺人を中止させるよう求める
- 4.21 タミル・ナードゥ州のラーマチャンドラン首相、中央政府のガンディー首相にジャヤワルダナ大統領と局面打開の直接交渉を行うよう強く要望
- 4.22 マドラスのスリランカ・タミル人の諸集団は、武装独立闘争以外に代案なしと考えている、と表

- 4.30 武装独立闘争の指導者 R.ジャヤチャンドランをパティカロアの銃撃戦で射殺したことを警察が確認
- 5.5 タミル・ナードゥ州の政党代表が、ガンディー首相に会い、スリランカ・タミル人の窮状を救うよう要請
- 5.7 スリランカは、ジャフナ地区から軍隊を撤退させ少数民族問題の平和的解決に向かうべきであるとラーオ外相発言
- 5.9 再開された円卓会議でタミル人政党の代表は、委員会活動に参加しないことを通告
- 5.13 APC、大統領の判断で一時中断
- 5.18 再開された APC にタミル人代表は全員欠席
- 5.24 外相、アメリカ大使館にイスラエル利益代表部の開設を承認すると議会で説明、野党は従来の外交政策に反すると批判
- 6.4 インド大使、大統領にガンディー首相からの親書を手渡し
- 6.7 政府、非常事態宣言の下では、検死を経なくとも死体を処理できるように法案を準備したが、野党の強い反対により廃案すると決定
- 6.10 イスラム教徒の強い反対にもかかわらず、イスラエルの専門家による対ゲリラ活動の援助を得ると大統領が発言
- 6.15 イスラエルの情報機関モサド要員がスリランカの公安部隊を訓練していると外相が語る
- 6.18 大統領が米国を訪問、レーガン大統領と国際テロリズム対策や経済問題について会談
- 6.20 サッチャー英首相、ガンディー首相宛親書で、英国は傭兵をスリランカに派兵しないと確約
- 6.26 大統領、訪問中の英国で、記者団に対してスリランカのテロリストを支持したタミル・ナードゥ州政府を批判
- 6.28 大統領、サッチャー英首相と会談、タミル人分離独立運動のために英国で資金や武器が調達されないよう、適切な措置を執るよう申し入れ
- 6.30 大統領、インド訪問、7.1 には少数民族問題について会談
- 7.2 印・ス両国首脳会談で民族問題は内政問題との共通認識
- 7.5 スリランカ海軍を増強するため、3 席の艦艇購入に必要な 1 億 6822 万ルピーの補正予算が成立
- 7.13 アヌラ野党院内総務、TULF がシンハラ仏教徒の国を傷つけたと主張
- 7.14 APC は委員会審議を続け、全体会議を 7 月 23 日に再開する予定と事務局長発表
- 7.20 TULF 書記長、APC 再開を延期するよう申し入れ
- 7.22 TULF、この日から一週間、昨年の民族暴動の死者のために服喪するようタミル人住民に呼びかけ
- 7.23 14 団体が出席した APC で大統領は、県代表議員と政府任命議員で構成される第二議員の設立を提案
- 7.25 TULF の呼びかけでジャフナ市でゼネスト決行
- 7.28 SLFP、大統領の二院制提案を検討すると発表
- 7.30 M.モリス英国議員、スリランカのタミル人問題に対するインドの介入を非難する声明発表
- 8.6 スリランカ海軍がジャフナ北部のヴェルヴェティウライを砲撃、110 人が死亡とインド紙報道
- 8.8 ガンディー首相、インドのスリランカへの介入の可能性を否定したが、タミル人への同情を表明
- 8.11 国家治安相、北部のテロリストを根絶する意向だが、軍事作戦にイスラエルのモサドは参加していないと述べる
- 8.11 ジャフナ半島の銀行支店は全て無期限に休業
- 8.11 チュンナカン警察署爆破、テロリスト 19 名爆死
- 8.11 マンナール市近くの路上で地雷により兵士 6 人が死亡
- 8.16 APC 再開するも、TULF が欠席し 20 分で閉会、共産党は APC のボイコットを通告
- 8.21 大統領、APC で二院制案を説明
- 8.24 大統領、インド紙のインタビューで州評議会を創設する分権化を考慮中と発言
- 8.29 APC で分権化の水準をめぐる議論
- 9.2 北部ポイント・ベドロで 4 人の警官が爆死、複数の商店が焼かれ数名が殺害される。数千人の難民がヒンドゥー寺院に避難

- 1984 9.8 テロリスト組織の援助容疑で2人の宣教師逮捕
- 9.11 ジャフナ行きバスの乗客中、タミル人15人が射殺される
- 9.14 仏教僧団連合会、大統領の二院制案の拒否決定
- 9.17 軍や警察に逮捕され、拘留中の青少年の母親たちが大統領に早期釈放を請願
- 9.20 タミル・ナードゥ州首相が、スリランカの治安部隊がカッチャティブ島でモサドに訓練されていると主張
- 10.12 昨年5月からの検閲令が民族問題を除いて解除
- 10.21 出入国管理局、プランテーション労働者の不法残留を厳しく審査し、本国送還の手続きを開始
- 11.3 ガンディー首相の葬儀にジャヤワルダナ大統領出席
- 11.4 大統領、インドで各国首脳と会談、スリランカの民族問題についての理解と共感を得た
- 11.8 APCの最終会合は12月17日に延期
- 11.8 政党活動を禁止されたJVPの非合法会議をハンバントータで摘発
- 11.9 軍のパトロール隊とテロリストが交戦し、5人が死亡、34人が負傷
- 11.16 政府のメディア委員長、イラム国家独立運動に34党派があり、インドの組織とシンハラ人のJVPの支持を得ていると談話
- 11.19 北部軍司令官と兵士4人が爆死
- 11.20 チャワカッチェリ警察署襲撃される、署長を含む約30人の警官が死亡
- 11.27 アヌラ野党院内総務、テロリストの訓練所の存在を否定したインド政府を非難
- 11.29 国家治安省、マンナールからムライティブの海岸線を立ち入り禁止地帯に指定
- 11.30 政府発表、北中部の農場で市民35人が殺害される
- 12.1 インド外務省報道官、タミル人の武装集団がタミル・ナードゥ州の港湾からスリランカ北部に攻撃した、という事実はないと否定
- 12.1 マンナール県の漁村で11人の漁民が殺害される
- 12.2 治安部隊の掃討作戦でテロリスト68人が死亡
- 12.2 北部諸県で24時間の外出禁止令
- 12.3 パブニヤの収容所から脱出をはかったテロリスト容疑者20人を射殺、過去2週間の死者は277人
- 12.4 マンナール県で陸軍のジープが爆破され、1人死亡、その後バス乗客のタミル人約30人射殺
- 12.6 コロンボの夜間外出禁止令で、兵士に不審人物の射殺を指示
- 12.6 16人のシンハラ人とムスリム乗客がマンナールで焼き殺される
- 12.7 非常事態に住民自警組織を結成することを閣議で決定
- 12.11 ラジーヴ・ガンディー首相がスリランカ情勢について初めて声明を発表、インド漁民がスリランカ海軍に攻撃されていると主張、市民の殺害を憂慮
- 12.12 ハミード外相、インド首相声明に反論
- 12.14 大統領、APCで州評議会設立と州首相制を含む地方分権提案を行う
- 12.16 インド海軍、漁民保護のため、スリランカとの領海近くまで出動するよう指令を受ける
- 12.17 TULF、大統領提案は真の分権制でないと反論
- 12.21 APCで大統領が分権化の手続きを説明
- 12.21 民族問題についての検閲解除を国家治安相、発表
- 12.23 大統領提案に対して、仏教僧組織、SLFP、TULFがともに反対を決定、工業相も反対を表明
- 12.25 工業相解任
- 12.26 APCの諸団体が反対したため、大統領地方分権提案撤回、民族問題の政治的解決を追求と公表
- 12.27 タミル人独立運動グループ、警察官を誘拐
- 12.31 バンダラナイク前首相、民族問題解決のため、TULFも参加できる総選挙を要求

- 1985 1.2 ロンドン・タイムズ紙がジャフナにおける軍の行為を批判する海軍退役将校の談話を実名入りで報道
- 1.2 タミルの分離主義者がヌワラエリア地方に「マライ・ナードウ国」の樹立を企てているとスリランカ警察が発表
- 1.3 在印スリランカ大使がガンディー首相と会談
- 1985 1.4 在スリランカ・インド大使、ニューデリーでスリランカ情勢について政府に報告
- 1.6 カトリック神父を含む9人のタミル人がマンナール市近郊で軍に射殺される
- 1.8 インド外務省、2隻のインド漁船がスリランカ海軍の攻撃を受け、2名の漁民が領海内で射殺されたとスリランカの代理大使に抗議。同代理大使は、この抗議に対し事実無根であるとの反論声明を発表
- 1.10 LTTEの兵器庫を攻撃し、14人を射殺し、44人を捕虜にしたと国家治安相発表
- 1.12 前夜、公海で拿捕されたスリランカ海軍の監視艇と7人の乗組員の即時返還をインド政府に要求
- 1.19 キリノッチからコロンボへ向かう列車が爆破され、27人の兵士らが死亡
- 1.24 ガンディー首相、多くのスリランカ・タミル難民が安全に帰還できる条件が必要と述べる
- 1.25 スリランカ海軍の監視艇乗組員7人が釈放される
- 1.26 警官の乗ったジープ、東部州のカラワンティクディで地雷に触れ、警官3人死亡
- 1.30 大学入学許可比率を閣議決定、30%を全国一律の成績順、65%を各行政県より人口比率で、5%を5つの後進県に割り当てる
- 1.31 軍、ゲリラの東部州の拠点を急襲
- 2.1 分離独立問題にかんする報道規制を2月から強化すると国務相発表
- 2.3 CWC、政府がタミル人の代表と交渉を再開し、民族問題を政治的に解決しよう要求
- 2.4 独立記念式典、大統領、テロリストの脅威を絶滅すると声明
- 2.5 東部州の海軍と警察による共同作戦、7人のゲリラを殺害、武器弾薬を押収
- 2.7 TULF書記長、タミル人地区にシンハラ武装農民を入植させる計画が継続されるなら、闘争を強化せざるを得ないと警告
- 2.9 国家治安相、ニューデリーでガンディー首相、カーン外相と会談した後、スリランカ北部州での外出禁止令を緩和すると声明
- 2.11 検閲下の報道で隠されていた陸軍の残虐行為をロンドン・タイムズ紙が具体的に記述し掲載
- 2.15 58人のテロリストをムライティブ件のジャングルの隠れ家で殺害し、武器を押収したと政府発表
- 2.25 テロリストに誘拐されていたムライティブ県知事が射殺死体で発見される
- 3.1 キリノッチ警察署に対するゲリラ攻撃で少なくとも50人の死者
- 3.2 2月5日以来、タミル・ナードゥ州への難民は1万2000人に達したとインド政府筋発表
- 3.16 トリンコマリで8人の女性テロリストを逮捕した、と政府筋が明らかにする
- 3.17 国家治安相、インド指導部のスリランカ情勢に対する態度が良い方向に変わったと指摘
- 3.27 スリランカ訪問中のバンダリ・インド外務次官、民族問題解決の第一歩として政治上の対話を可能にするためあらゆる種類の武力行使を停止することで両国が一致したと声明を発表
- 3.30 大統領、訪問中のパキスタンで、スリランカの統一と主権を守る戦いにパキスタン政府が協力してくれたことに感謝を表明
- 3.31 インド政府、空軍と海軍によるポーク海峡の監視を強化したとナラシンハ・ラオ国防相が発表
- 4.3 インド内務相、1983年7月以来、8万5000人のタミル難民を受け入れ、タミル・ナードゥ州政府に6億700万ルピーの救済費を交付したと議会で報告
- 4.4 パキスタン大統領、ジャヤワルダナ大統領との共同声明で、スリランカの領土的統合の維持を支持すると表明
- 4.7 プレマダーサ首相、シンガポール放送のテレビ番組でもしインドがスリランカ北部の民族問題解決を望むのなら、タミル人のゲリラ活動に対する支援を中止すべきだと主張
- 4.7 東部州で8人の警官がジープで走行中に地雷で死亡
- 4.12 ヴィクトリア・ダム竣工式にサッチャー英首相が参席、英国はテロリストへの不法な武器供与を行わない、と述べる。ジャヤワルダナ大統領は、テロリストの活動を許しているインドの政策に疑問を投げかける

1985

- 4.12 ジャフナの警察本部が攻撃され、4人の警官と20人のゲリラが死亡
- 4.13 東部州でムスリムとタミル人との暴動が発生、双方で28人の死者を出し、600戸の家屋が焼失
- 4.22 LTTEのゲリラ20人が軍兵士をムライティブ県で殺害
- 4.28 新警察庁長官、1万人の警官を増員する計画であると発表
- 4.28 テロリスト集団がニカウエラティヤ警察署を襲撃し、警官1人を殺害した後で人民銀行の現金を強奪
- 4. **イーラム民族解放戦線 (Eelam National Liberation Front, ENLFF) 形成。**(LTTE、EPRLF、TELO、EROS)
- 5.3 インド外相、スリランカ政府が軍に規律を守らせ、第6次憲法改正条項を撤回するよう要請
- 5.4 分離主義者のゲリラ、トリンコマリーの海軍基地を攻撃
- 5.7 南インドのタンンジャウール県でスリランカ・タミル人を支援するデモ。4400人が逮捕される
- 5.10 ハミード外相、インド外相発言に抗議して南アジア地域協力会議のティンブー準備会議をボイコットすると議会で声明
- 5.12 インドとパキスタンの首相が、大統領に電話。ティンブー会議への代表派遣を要請したため、政府はボイコットを撤回
- 5.12 タミル人ゲリラによって陸軍少佐を殺害された報復にジャフナ住民70人を治安部隊が殺害した、と政府筋が発表
- 5.14 アヌラーダブラのバススタンドでゲリラ集団が自動小銃などを乱射、少なくとも145人を殺害、報復として北部デルフト島のフェリーが15日に攻撃され、28人のタミル人乗客が殺害された
- 5.16 5.16 警察、東部州の洞穴に潜んでいた18人のタミル人ゲリラを殺害
- 5.18 大統領、軍隊の規律維持を訴えると同時に、軍事予算を増額すると述べる。国家治安相は、タミル人テロリストに対抗するため市民を武装させ、民間組織を新設する案を検討している、と述べる
- 5.19 ゲリラに対抗するためパキスタンと中国から武器を購入する予定である、と政府筋が述べる
- 5.22 オーストラリア外相、タミル移民が分離独立運動に資金要請しているか調査すると述べる
- 5.22 バブニヤ市の南部地方の住民2万人、治安上の理由から2週間以内の退去を命じられる
- 5.25 大統領、ニューデリーを訪問
- 5.27 ガンディー首相の特命を受けて新たに着任したディクシット大使、ジャヤワルダナ大統領と懇談
- 6.3 ガンディー首相と計8時間に及ぶ話し合いの後、大統領が帰国、この首脳会談が平和の達成に有益なものであったと述べるともに、もしタミル人ゲリラが武器を捨てるなら追訴しないと声明
- 6.4 **印・ス両国首脳会談のコミュニケ発表。**あらゆる形態での武力行使を停止し、政治的な解決をはかり、北部州と東部州が正常な状態に復帰することにより、難民がインドから帰還しやすくする
- 6.6 国務相、インドの反テロリスト法をモデルに、法案を作成し、もしインドでも同様の措置がとられるのなら隣国に対するテロリズムを取り締まる条項を盛り込み、議会に上程すると表明
- 6.8 インド政府は、400万ドル相当の武器を南インドのスリランカ・タミル支援グループから押収した、とガンディー首相がルモンドの記者に語る
- 6.12 政治的解決のための停戦にLTTEが反対しているようだ、と国家治安相が情勢を分析
- 6.14 大統領弟、H.W.ジャヤワルダナ弁護士、印・ス首脳会談に基づき法的な細目を折衝するため、他の法律家とともにインドに向かう
- 6.15 北部州と東部州から追い出されたシンハラ市民は、民族問題の政治解決が実施される前にもとの居住地に帰れるようにする、と大統領が野党の院内総務に返信
- 6.18 5つのタミル人ゲリラ組織と政府が、政治的解決の前提として戦闘行為の停止に合意した、と国家治安相が発表。しかし、AP電によればマドラスのTELO代表はこの発表を否定
- 6.19 LTTEも国家治安相の発表を一方的と非難、ニューデリーでは、ジャヤワルダナ特使とガンディー首相が和平会談の進め方について協議
- 6.22 TULF幹部が野党の指導者と会談
- 6.24 大統領、年内に民族問題が解決できるとの見通しを話す。タミル人ゲリラ組織はインド政府に停戦に応じるよう説得されつつあるとの見解
- 6.29 ENLFF、和平会談をボイコットすると発表
- 6.30 過去1週間に18人のタミル人が警察への通報者として処刑されたと政府筋が表明

- 7.1 ティンブー和平会談のスリランカ政府代表が H.W.ジャヤワルダナに決定
- 7.8 **スリランカ政府と「イーラム国」独立運動グループとの和平交渉がティンブーで始まる。** ENLF も参加
- 7.11 テロリズム防止法により逮捕されていた 1197 人のうち 643 人が釈放。また北部に州における夜間外出禁止令が数ヶ月ぶりに解除
- 1985 7.11 ENLF スポークスマン、大統領が彼らをスリランカ・タミル人の真の代表だと認めてくれて幸せであると述べる。ENLF は、タミル地域の完全自治を認める連邦国家制に必要な憲法改正を要求
- 7.12 大統領を暗殺する EROS の陰謀が、11 日に警察により未然に防止されたと国務相が公表
- 7.13 ティンブー会談の第一段階終了、8 月 12 日の再開が決定、このときに永続的な政治解決を目指した諸提案が検討される予定
- 7.15 ガンディー首相、マドラスの集会でスリランカ・タミル人の基本的人権を犠牲にするような妥協はインドにとって受け入れられない、インド政府の意図は対立する当事者を交渉による和平に導くことだと説明
- 7.17 スリランカ・タミル人の自治権は、インド憲法によって 22 州に保証される権利を超えるものではない、とガンディー首相が限定
- 7.18 EROS によって組織されたティンブー会談に抗議するデモがマンナール市で行われ、約 150 人が参加
- 7.22 インドの Frontline 誌が 4 段階に分けた停戦から和平への諸条件を公表
- 7.25 5 人の代表からなるイスラム教徒の交渉団、8.12 までにマドラスを訪問し、「イーラム国」独立運動の幹部と分権化体制のあり方について話し合う予定
- 7.26 停戦により、観光客の来島が増加すると蔵相が期待を表明
- 7.29 インド大使、大統領と会談した後ニューデリーに帰国
- 7.30 TULF とゲリラ組織が会合、和平条件をまとめ、第 2 次ティンブー会談の準備をする
- 8.10 野党の SLMP、インド外務次官に和平会議を支持すると伝える、LSSP と CP も同様の立場
- 8.10 退職した前労働次官の N.サティエンドラ弁護士が TELO を代表してティンブー会談に出席
- 8.10 バブニヤ近郊で警察のジープが地雷で爆破され、5 人の警官が死亡、9 人のゲリラが射殺される
- 8.12 再開された和平会談で、スリランカ政府代表は「イーラム国」側の 4 原則のうち 3 つを拒否
- 8.15 マダワッチからバブニヤにかけて再び政府軍とゲリラとの衝突が拡大、約 100 人が死亡、200 人が負傷した模様
- 8.17 マンナール発の列車がゲリラに乗っ取られる。トリンコマリー県では 37 人のシンハラ漁民が虐殺されたと国務省が発表
- 8.18 ティンブー和平会談は中断されたままである、とインド政府報道官が発表
- 8.22 東部州での武力衝突により、シンハラ人とタミル人の難民が各一万人ずつキャンプに収容されている
- 8.22 ティンブーにおける和平会議の無期限休会とインド政府報道官が公表
- 8.23 インド政府、3 人の「イーラム国」運動の幹部に国外退去命令
- 8.24 コトマレダム竣工式で大統領が独立運動を批判
- 8.25 独立運動幹部の国外退去に抗議するデモがタミル・ナードゥ州の各地で行われた
- 8.25 スリランカ政府代ニューデリーで、バンダリ外務次官と分権化の妥協案を作成
- 8.31 スリランカ政府の妥協案をまとめたジャヤワルダナ代表は、ガンディー首相と会見してコロンボへ帰国
- 8.31 ジャフナ大学学生、長期にわたって拘留されているタミル青年の釈放を求めるハンストを決行
- 9.2 バブニヤ近郊で 30 戸のタミル人住居が武装集団に焼かれる
- 9.3 2 人の TULF 元議員がジャフナで射殺される。政府は LTTE の行為とする新聞発表
- 9.4 トリンコマリーで武力衝突が激化、午後 2 時から朝 6 時までの外出禁止令発令
- 9.7 トンダマン、タミル人組織に会議を再開するよう、呼びかける
- 9.10 TULF、インド政府とスリランカ代表でまとめた分権化案を検討すると発表
- 9.16 全島の 103 難民キャンプに収容された人々は計 5 万 2000 人に達し、そのうち 3 万人がシンハラ人であると復興省が発表
- 9.18 停戦期間の 3 カ月に 800 人のタミル人が殺された、という独立派の主張に対して、国家治安相は

虚偽であると反論

- 9.19 スリランカ政府は、停戦期間を無期限に延長すると決定したと国家治安相が発表
- 9.19 「イーラム国」運動派の6組織がニューデリーに集合、和平方針を協議、インド外務省とも協議の上、多様な階層の市民から構成される停戦監視委員会を設置し武力対決を少なくすることに合意
- 1985 9.20 国家治安相による議会報告。停戦期間中の衝突による死者は201人で、うち陸軍兵士が13人、海軍兵士が7人、警官が13人、民間人が168人であった
- 9.22 5大仏教宗派の大僧正が、CWC 提案の民族問題解決案に反対の意思を表明
- 9.26 インド・バンダリ外務次官、10 時間だけスリランカを訪問し、政府とゲリラの武力衝突を避ける方法について協議。直ちにマドラスに向う
- 9.26 停戦監視委員会の構成メンバーに関して政府とゲリラ側とが一致せず発足が遅れている
- 9.30 約250人のゲリラ隊がキリノッチ警察署を攻撃したが、3軍の協力を得て撃退したと警察が発表
- 10.1 バブニヤ県の全ての学校、商店、官公庁閉鎖、ポットヴィル警察署を225人のゲリラ隊が攻撃したが死者を1人出して撤退した、と警察発表。トリンコマリで59人のゲリラを政府軍が捕虜にした
- 10.4 パティカロアのセイロン銀行支店で27万5000ルピーがテロリストに強奪された
- 10.6 南アジア諸国の著名人をスリランカでの停戦監視委員会に含めるという提案に対して国家治安相が反発。受け入れないことに決定
- 10.8 8月24日にインドから国外退去を命ぜられたパラシಂಗム博士が再びインドへの入国を許可された
- 10.9 ガンディー首相、インド国防大学で演説、スリランカ民族問題の解決に楽観的な見通しを述べた、
- 10.10 スリランカ政府とゲリラ組織側が、停戦監視委員会の権限や公開性等について合意
- 10.15 トリンコマリとバブニヤで2人の警官がゲリラに誘拐され、行方不明となる
- 10.17 11人のメンバーからなる停戦監視委員会が発足、国家治安省、委員会が独立した活動を行い、事実を明らかにした上で公衆に知らせよう希望
- 10.18 コモンウェルス首脳会議開催中のパハマで、大統領、ガンディー首相と停戦の実施状況と監視委員会の活動について意見交換
- 10.22 LTTE プラバカランが、インドの国営テレビ放送のインタビューに出演したことに対して、スリランカ大使館は抗議の意を表明
- 10.24 3人の兵士がチェディックラムで地雷のため爆死、
- 10.25 大統領、BBC 放送のインタビューで、一年でテロリストを敗北させると語る
- 10.27 治安部隊、4人のテロリストを射殺
- 10.28 LTTE、マドラスで政府軍との停戦を一時的に取り止めることもある、と声明
- 10.29 ガンディー首相、ニューヨークでスリランカ国家の統合を尊重すると語る
- 10.31 スリランカ海軍がインド漁船を攻撃した、というインド紙の報道を国家治安相が否定
- 11.1 地雷のため、トリンコマリとポロンナルワで7人の海軍兵士が死亡
- 11.2 敵対行為の停止委員会が発足してから既に27件の違反事例が報告。その大半は軍の違反行為
- 11.3 マンナール市の北部で政府軍とゲリラ軍との交戦、ゲリラ側10人死亡と国家治安相が報告
- 11.4 インド大使、大統領を訪問、マドラスで行われている独立派と州政府との話し合いの進展状況について報告
- 11.6 ニューデリーでスリランカ・タミルの6組織とバンダリ外務次官が分権化の制度について協議
- 11.8 インド政府、タミル・ナドゥ州の政治家P.ネドツマラン氏のスリランカ不法入国について何ら関知してないと声明、
- 11.12 トリンコマリ地域で3カ所のゲリラキャンプが治安部隊によって発見
- 11.13 パティカロアの空軍基地付近で、地雷のために5人の警官が負傷
- 11.15 ガンディー首相、ENLF が政治的解決のためにもっと積極的の態度をとるようにと強調
- 11.17 ENLF 報道官、コロボ政府との政治的解決を望むが、直接交渉でなく、インド政府の仲介によるのみ交渉を続けたいと述べる
- 11.18 パティカロアで警官に密通したとして処刑された市民の死体を収容に出かけた警官隊のジープが地雷で爆破され、4人の警官が死亡、2名が負傷。その後の射撃戦で7人のゲリラ兵が射殺さ

れる

- 11.18 国家治安相、マスカットでガンディー首相にゲリラ側が停戦を守っていないと報告
- 11.20 ガンディー首相、下院で「ボールはゲリラ側にある」と述べる
- 11.20 トングマン、9万3000人の無国籍タミル人に早くスリランカ国籍を与える手続きを開始するよう要請
- 1985 11.23 軍事的な解決は可能だが、犠牲者が多いので好ましくないと大統領が記者会見で述べる
- 11.23 バブニヤ地区のタミル人約1000人がテロリストに反対するデモ行進を行う
- 11.24 警察、テロリストと結びついている戦闘的なシンハラ人活動家30人の逮捕を発表
- 11.26 EPRLF、バブニヤ地区でのLTTEによる活動家の殺害に抗議してストライキ
- 11.30 イスラム教徒組織の代表、大統領と会談。民族問題の解決にさいし、イスラム教徒の意思尊重を求める
- 12.1 武力衝突が続くため、多くのシンハラ住民がバティカロアからの脱出を試みている
- 12.5 TULF、スリランカ政府の自治権拡大案に代わる提案をインドのバンダリ外務次官に提出
- 12.6 国防次官、アムネ스티・インターナショナルの報告が誤りであると批判
- 12.6 ブーザ陸軍収容所に勾留されていた78人のタミル人が釈放される
- 12.7 ガンディー首相、大統領とダッカで会談、民族問題の政治的な解決のために、治安部隊とゲリラとの武力対決を避けるよう示唆。大統領は、テロリストを南アジアから根絶させるための方策を強調
- 12.10 東部州と北部州を統合して「タミル人のホームランド」と見なし、タミル自治州の新設を求めるTULFの提案を大統領が拒否
- 12.12 自転車で爆弾を運んでいたタミル人2人が自爆死
- 12.14 3人のPLOTメンバーがLTTE2人が殺害された事件に抗議してジャフナでPLOTがストライキを実行
- 12.19 停戦監視委員会、治安部隊の規律問題についてジャフナ県の調査報告を提出
- 12.21 8人のゲリラがジャフナで政府軍に射殺される
- 12.24 マドラスのLTTEスポークスマン宅に爆弾がしかけられた事件について、スリランカ政府は全く関与していない、と国家治安相が否定
- 12.24 バティカロアで軍と県庁のジープに放火
- 12.28 7人のスリランカ・タミル人がマドラスで爆弾事件に関与して検挙される
- 12.29 マンナール県で政府軍とゲリラ軍が衝突、1人の兵士が死亡、4人が負傷
- 12.30 7人のゲリラが殺害され、149人の容疑者がトリンコマーリー県で検挙される
- 12.30 大統領、東部州と北部州を一つの自治単位にする案をあらためて強く否定
- 1986 1.2 公民権を回復したバンダラナイケ前首相、政府がインド首相にタミル人分離主義者を武装解除させるよう求めるべきであると主張
- 1.5 国家治安省報道官、EPRLFの幹部シュレッシュを射殺したと発表
- 1.7 トングマン農村工業相、ニューデリーでガンディー首相と会談、40万のインド系無国籍労働者の処遇改善に協力するよう要請
- 1.7 ジャフナ出身のタミル人停戦監視委員、辞表を提出
- 1.11 タミル・イーラム軍(Tamil Eelam Army, TEA)が茶に青酸化合物を混入するといううわさが広がる
- 1.12 プランテーション産業省、輸出用紅茶に毒が混入されないよう、万全の検査態勢をとっていると声明を発表
- 1.15 スリランカ・インド両国政府間で、無国籍インド系タミル人問題について合意。スリランカ政府は、既存の協定よりも9万4000人多く無国籍タミル人に市民権を与えることに
- 1.20 EROS報道官、女性ジャーナリストを拘束したとニューデリーのロイター支局に電話。スリランカ政府はこの地域を支配していないので、我々の許可なしに、この地域にはいることを認めないと述べる
- 1.21 大統領、Hindu誌に、「もしインドがスリランカを助けてくれるなら、テロリストに関する問題は3カ月以内に解決する」と語る
- 1.23 インド系タミル人にスリランカ国籍を与えるための法案が閣議で決定され、近く議会上程される

る

- 1.26 コロンボの英国大使館、EROS に拘束されている女性ジャーナリストの安全に懸念を表明
- 1.28 政府、紅茶生産地帯での民族暴動を抑制するため、15 時間の外出禁止令を布告
- 1.31 市民権法、130 対 9 で可決される、SLFP と MEP は退場
- 1986 2.2 北部州のキリノッチ地区で、政府軍とタミル人ゲリラとの交戦が続き、1 日から夜間外出禁止令発令、ゲリラ側死者は 29 人と政府発表
- 2.2 マドラスでイーラム独立運動の指導者と話し合っていたバンダリ・インド外務次官、予定していたスリランカ訪問を延期
- 2.3 キリノッチ地区の 3 日間の戦闘で双方で 100 人以上の死者
- 2.4 独立記念日の演説で大統領、年内にテロリストを根絶すると宣言
- 2.7 国家治安相、政府とタミル人団体との話し合い再開に必要なイニシアティブはニューデリーから来るべきだと語る。インド政府だけが全ての当事者の声を聞ける立場にいるため
- 2.9 モルディブから帰国したガンディー首相、スリランカが民族問題の政治的解決のためにもっと確固たる方針をとるべきであると述べる
- 2.10 野党院内総務アヌラ、最近の紅茶生産地帯での暴動に責任のあるトンダマンを逮捕すべきであると政府に求める。
- 2.13 大統領、公安法に基づいて、「治安地帯」を布告、許可なくこの地帯に出入りすることを禁止
- 2.15 TULF、治安地帯の指定を撤廃するよう求める
- 2.15 3 人の年金生活者、ジャフナでゲリラと間違われ陸軍に射殺される
- 2.16 北部のヤカッチで政府軍とゲリラが衝突、軍兵士 2 人とゲリラ側 10 人の死者
- 2.18 イギリス人女性ジャーナリスト、EROS の拘束から解放される
- 2.18 政府、TULF の民族問題解決案を連邦制に他ならないとして拒絶
- 2.19 トリンコマリー郊外でしかけられた地雷のためバスが爆破され、32 人の市民と 4 人の軍人が死亡し、20 人が負傷
- 2.20 イギリス人女性ジャーナリストが拘束されていた EROS のキャンプを政府軍が攻撃。13 人のテロリストを殺害したと国家治安相が議会に報告
- 2.21 アンパラ県のラフガラ地区で 40 人のテロリストを殺害したが、在地の反政府活動の首謀者である P.L. ジャシーランは逃亡したと、治安筋が語る
- 2.21 LSSP、CP、SLMP、民族問題の政治的解決を求める共同声明発表
- 2.22 LTTE がマドラスより発表、ラフガラ地区の死者 40 人は活動家ではなく、耕作に従事していた農民だった
- 2.24 大統領、ラフガラ事件の真相解明のため、陸海空軍の司令官によって構成される委員会を任命
- 2.25 インド大使、大統領を訪問、最近の武力衝突事件について、インド政府の憂慮を伝える
- 2.26 国際人権委員会委員長、全ての援助供与国にスリランカ援助を停止するよう求める
- 2.27 ガンディー首相、議会でスリランカ政府が新しい解決案を提示し、若干前進したと語る
- 3.1 世界銀行、マンナール県とパブニヤ県における総合農村開発計画が民族対立のため実施不可能になったとスリランカ政府に通告
- 3.1 駐印スリランカ大使、インド外相の議会発言に反論する外交覚え書きをインド政府に手渡し、両国関係の悪化が表面化
- 3.5 インド外務省、1983 年 7 月以降 12 万 4828 人の難民がスリランカから流入したと報告、その費用分担をスリランカに求めると発表
- 3.6 インド政府の返書がスリランカ大使に手渡されたが、内容は発表されず
- 3.8 3 月末に予定されていたアジアカップ・クリケット大会にインドチームの派遣が取り消される
- 3.9 インド大使、ガンディー首相の親書をもって大統領を訪問、大統領はインド外務次官への招待は今も有効と述べ、関係改善の意向を表明
- 3.10 1985 年 1 月から 86 年 2 月までに 3000 人のスリランカ・タミル人が政府軍に殺された、とマドゥライタミル情報センターが発表
- 3.11 ジャフナ病院で行われた TELO 内部抗争の銃撃戦で 7 人が死亡
- 3.12 国家治安相と N. ティルチェルバム元議員 (TULF) との間で政治的解決への秘密交渉が進行中とインド通信社のロンドン電が報道

- 3.13 タミル・ナドゥ州のカルナーニディ前州首相、中央政府がスリランカに強硬手段をとるよう要望
- 3.13 国家治安相、政府軍がジャフナ半島での空襲を7日間停止すると公表
- 1986 3.16 タミル・ナドゥ州政府の与党（AIDMK）と共産党は、スリランカに対する経済制裁を中央政府に要求する決議案に署名を拒否
- 3.24 インド・パーガット外相、スリランカ政府に対して無実の市民殺害を止めなければならないと伝えたことインド放送が報道
- 3.25 インド・ガンディー首相、もしスリランカ政府が具体的な解決案を準備するなら、バンドリ外務次官をコロンボに派遣すると述べた
- 3.25 北部州への急行列車、ゲリラの攻撃を受ける
- 3.25 パティカロア郊外でムスリム団体により18人のタミル人が誘拐され、うち9人が殺害される
- 3.26 インド国籍を申請したプランテーション労働者は、帰国できるまで臨時労働者として雇用されることを政府が決定
- 3.27 北部州への鉄道の運行停止決定
- 3.30 パティカロア市民委員会、過去2カ月に行方不明になった50人のリストを公表、政府に訴える
- 3.31 インド・バンドリ外務次官退任、ヴェンカテスワラン新次官がスリランカ民族問題を引き継いで担当
- 4.1 北部と東部から農産物を運ばず、米、タマネギ、唐辛子や魚類を輸入しなければならなくなったと蔵相が語る
- 4.2 政府は、テロリスト作戦を抑制しているが、反政府側はこれに応じて軍事行動を抑制する様子がないので、和平に向けての特使をニューデリーに送る考えはない、と国家治安相が言明
- 4.4 観光客の来島が1982年の40万7000人から85年には25万7000人に減少したと観光局長公表
- 4.5 ジャフナとパティカロアでゲリラ戦が行われ、双方に10名ずつの死者を出した模様
- 4.5 タミル地域の代表を閣僚に含める解決案をスリランカ政府部内で検討中、とインド誌が報道
- 4.5 スイス外相、タミル人の亡命希望者を個別的に審査した上で、迫害の恐れがあるものをスリランカに強制送還することはない、とインド外相に確約
- 4.7 ハットン銀行ジャフナ支店に独立運動派が押しかけ、口座開設者名簿を要求したので、同支店は無期限に閉鎖する、と本店で決定
- 4.13 ハミード外相、新しい民族問題解決案をまとめ、国家治安相と協議
- 4.17 ハミード外相、ガンディー首相と会談、新提案の説明
- 4.20 大統領、オーストラリア放送局のインタビューで、「インドよりパキスタンのほうが良い友人である」と述べた
- 4.23 アヌラーダブラの石油公団タンクで爆発、9人が死亡
- 4.26 国家治安相、もし今回の政府提案をイーラム側が受け入れなければ、政治的解決とは別の解決が必要と、軍事作戦の強化を議会に示唆
- 4.28 スリランカの民族問題を担当するインドのP.チバダンバラム国務相、*Island*紙とのインタビューでインド政府の善意を強調
- 4.29 インド代表団来島、スリランカ政府関係者と民族問題について会談
- 4.30 大統領、インド代表団のチバダンバラム団長と会談、インドにおけるスリランカ・タミル人組織の基地を閉鎖するよう要求
- 5.1 3日間にわたって続いたジャフナでの分派闘争でLTTEがTELOに対して勝利を収める。死者数百人
- 5.3 エアランカ航空機爆破、2人の日本人を含む15人が死亡、41人が負傷
- 5.5 国家治安相、インド・スリランカ会談の進行中に航空機爆破が行われた事実には、テロリストが話し合いによる解決を望んでいない証拠と、言明
- 5.6 TELOの指導者S.サバラトナム、ジャフナでLTTEに処刑される
- 5.7 コロンボ中央電報局で爆破事件、死者12人、負傷者114人。国家治安相はEROSによる犯行と語る
- 5.9 首相、ロンドンでサッチャー英首相とテロリスト対策について協議

- 5.9 1億3685万ルピーの防衛支出追加が閣議で承認
- 5.11 トリンコマリ-地方裁判所長代行、自動車で行中射殺される
- 5.15 テロリストの犠牲者の遺族補償を7万5000ルピーとして、その受給条件の緩和を閣議決定
- 1986 5.16 インド新外相ジャンカール、スリランカの民族問題は政治的に解決されるべきであると強調
- 5.17 LTTEはENLRFの活動に過去3ヶ月間参加せず、実質的に脱退している
- 5.17 政府、重要な公的機関に働くタミル人を強制的に1カ月間休ませることを決定
- 5.19 政府軍、ジャフナ半島の支配を回復するため、ゲリラ軍と戦い、空襲による援護を遂行中。またLTTEは過去3日間に50人の政府軍兵士を殺害したと発表
- 5.20 ゲリラ側の抵抗が激しいので、政府軍のジャフナ平定作戦は一時的に停止
- 5.21 コロンボの中心地区で陸軍兵士と地域住民とが衝突。住民側6人、兵士1人の死者を出す
- 5.22 大統領、最近のジャフナ平定作戦について、インド政府の誤解を解くため大使と会談
- 5.23 インド大使、大統領を訪ね、スリランカ政府が軍事作戦を続行するならインドは調停役を止めると通告
- 5.23 トリンコマリ-県のシンハラ農村2カ所がゲリラ軍に攻撃され、20人の村民が殺害される
- 5.30 コロンボの大企業倉庫に爆弾がしかけられ、10人の労働者が死亡
- 5.30 トリンコマリ-で地雷のため21人の兵士と5人の市民が爆死
- 5.31 パティカロア行き列車が爆破され、12人が爆死
- 6.1 ジャフナ半島で再び銃撃戦と地雷攻撃、双方に数名の死者
- 6.1 インド・ジャンカール外相、インドのスリランカへの軍事介入を全面的に否定
- 6.3 大統領、民族問題解決のための全政党会議開催、というSLMP案に賛意を表明
- 6.3 コロンボ各地で爆弾の流言、学校や企業が一時休業
- 6.4 鉄橋が爆破され、ジャフナへの幹線道路が切断される、キリノッチでも激戦、全日の外出禁止令布告
- 6.5 非常事態宣言を議会の過半数で承認できるよう、政府は第10次憲法改正案を立案
- 6.5 地雷を避けるため軍の行動が歩行に改められる
- 6.5 トリンコマリ-県アンダクマラ村で16人のシンハラ人農民が射殺され、遺体が警察に収容される
- 6.7 過去3日間にコロンボで350人のタミル人がテロリスト活動の容疑で逮捕される
- 6.8 キリノッチの戦闘激化で約1000人の住民が難民化、50人が空襲で死亡
- 6.8 コロンボのウェリカデ刑務所で1900人のタミル人囚人がハンスト
- 6.8 トリンコマリ-県で、バス3台のタミル乗客を政府軍が自警団に引き渡し、密林で射殺、とBBCが放送
- 6.10 キリノッチの外出禁止令、解除
- 6.10 ガンディー首相の親書を持ってインド大使が大統領に会見
- 6.11 トリンコマリ-市内で2台のバスが相次いで爆破され、22人の乗客が死亡し、70人が負傷
- 6.12 コロンボの映画館が爆破され、観客1人が死亡し、約30人が負傷
- 6.12 マドラスのEPRLF、ヴェルヴェトゥライでスリランカ空軍がナバーム弾を使用したと発表
- 6.12 ジャフナ半島で漁業禁止令
- 6.13 マンナール県で3台のバンに分乗したタミル人26人が政府軍のヘリコプターから射殺される。テロリストの疑い
- 6.13 トリンコマリ-の南30キロの小村で19人のタミル人と2人のムスリムが兵士に射殺される
- 6.13 大統領、6月25日に開催する全政党会議への招請状を発送
- 6.14 キリノッチとトリンコマリ-でゲリラ戦が再開され、外出禁止令布告
- 6.17 スリランカ大使がニューデリーに帰任、新提案をインドの関係者に説明。この提案では州自治に分権化される分野を拡大
- 6.19 パリ・スリランカ援助会議で、民族問題についての批判が行われる
- 6.21 SLMP書記長、マドラスでタミル・ナードゥ州政府関係者およびイーラム独立運動の諸党派との話し合いを始める
- 6.21 SLFP、25日の全政党会議に参加せず、その前に大統領と会談すると発表

- 6.22 TULF、2日間にわたる政治局会議の後、25日の全政党会議に欠席することを決定し、大統領に通告。タミル民族への弾圧強化が参加を不可能にしたと主張
- 6.24 インドの外相、英国のハウ外相を訪問し、イギリスの警備会社がスリランカで果たしている役割について憂慮を伝える
- 1986 6.25 **全政党会議で、州議会の設立、州首相とその閣僚の選出、行政の分権化などを含む政府案が提示される**
- 6.25 全政党会議の直前、北部と東部で地雷が爆発。16人が死亡し、57人が負傷
- 7.3 米国大使、全政党会議の提案が交渉の基礎と語る
- 7.5 NSSP委員長、基本政策の違いを越えて政府の分権化支持を表明
- 7.6 大統領、個々の政党との個別の話し合いを開始。民族問題解決への協力を求める
- 7.8 トリンコマリでゲリラ戦により15人死亡。外出禁止令布告。武力衝突の比重が東部州へ移動
- 7.11 TULF書記長を団長とするTULF代表団がマドラスから帰国、インド大使と会談
- 7.13 TULF代表団と大統領との会談に反対して、イーラム独立運動のLTTE、PLOTEE、EROS、TELOの各党派がジャフナでデモ
- 7.15 全政党会議再開、SLFPとMEPはボイコット、タミル会議以外の参加政党は州議会制を受け入れる
- 7.16 過去3日間に92人のタミル人が政府軍に殺害された、とUNI通信が報道。アダンバン村では250人の村民が行方不明になっている
- 7.16 ジャフナ市では半島に出入りする車両は陸軍の許可書を必要とするという布告に対して、商店の休業を含むハルタルが決行される
- 7.18 23人の政府軍兵士を含む45人が東部州と北部州の軍事衝突により死亡
- 7.19 ボロンナルワ県ニケ村でシンハラ農民13人が20人のテロリストに殺害された、と政府発表
- 7.22 バブニヤ県の公営バスが爆破され、31人の乗客が死亡、22人が負傷
- 7.22 TULFと大統領の話し合い終了、双方は合意できなかったが、和解への前進が見られたと積極的な評価
- 7.22 TULF代表とSLFPバンダラナイケ前首相、意見交換
- 7.23 自警団員がテロリストに殺害された場合の遺族補償金を10万ルピーにすると政府決定
- 7.24 バブニヤへの列車運行は当分の間停止と決定
- 7.24 SLMPのクマラトゥंगा、書記長に就任。マドラスのイーラム独立運動諸党派との接触を続けるよう大統領が要請
- 7.25 PLOTEEで指導者であったU.マヘシュワラムが、党内で活動停止処分を受けていると報道される
- 7.28 ボストン訪問中の首相に、イーラム・タミル協会のティライアンパラム会長が面会。州議会制の政府提案に賛意
- 7.29 スリランカ政府、シンハラ市民への攻撃を巡ってLTTEとENLFが対立したと報告
- 8.10 北部州にLTTEの武器工場があり、インドから運ぶ必要がなくなっている
- 8.10 東部のカルムナイでタミル人とムスリムの対立が暴動に転化し、3人死亡
- 8.11 カナダのニューファンドランド島沖でスリランカ・タミル人難民152人が救助される
- 8.13 行方不明になったり、捕虜になった兵士や警官の家族に賃金を払い続けることを閣議で決定
- 8.18 イーラム独立運動の5党派、ニューデリーでインド外相と会談、大統領案について意見交換
- 8.19 ニューデリーから戻ったTULF代表団と国家治安相の会談が始まる
- 8.20 インド外相、イーラム運動の武装組織に対してTULFとスリランカ政府トリンコマリの話し合いが続行している間、武力行動を抑えるよう伝える
- 8.23 TULF、各州に高等裁判所を設置するよう求める
- 8.24 イーラム独立を求めるタミル人の武装組織、TULFに対抗して政党活動を考慮中
- 8.26 TULFと大統領との会談が続けられる一方、東部州と北部州での武力衝突も続く
- 8.27 東部のムスリム団体の指導者が集まり、和平案を検討、ムスリムの自治州を要求することに決め、大統領に要望書を送る
- 8.29 TULFとスリランカ政府の第2次協議も妥協に達することなく終わったが、今後も協議することに合意

- 8.30 TULF、マドラスに向かい、他の党派と話し合う
- 9.1 EPRLF、9月から北部州と東部州の郵便物にはタミル・イーラム切手を使用するよう呼びかけ
- 9.2 TULF 代表団、スリランカとの合意点が、法と秩序、司法制度、および財政上の分権化であり、対立点は入植事業、北部と東部の単一州議会、漁港管理などであると UNI 社に語る
- 1986 9.3 マンナールで鉄橋が LTTE によって爆破される
- 9.3 まだ公用語を習得していない軍人が 90 人いる、状況が深刻なので習得期限をさらに 1 年延長すると閣議決定
- 9.4 スリランカの在カナダ大使が陸軍時代にタミル人を拷問にかけたと非難される
- 9.7 1983 年 8 月まで西独駐在のスリランカ大使だった R.ナーガナーダン、イーラム独立運動に合流してニューデリーのイーラム代表を務めていると報道
- 9.10 国家治安省内にメディア・センターが新設され、治安情報を集中管理することになる
- 9.11 北部と東部の公務員に月額 500 ルピーの危険手当支給を決定
- 9.11 アムネスティ・インターナショナルの報告書が発表され、スリランカで 272 人が行方不明になったと強調
- 9.15 大統領、TULF との間に 90%の合意が成立した、と述べる
- 9.15 もし拘留中のタミル人 5500 人を釈放しなければ、スリランカ大統領を処刑するとイーラム革命的共産主義者党がマドラスで発表
- 9.16 パティカロアで政府軍とイーラム武装勢力との対立が続いている
- 9.17 大統領の誕生日を記念して 500 人が恩赦を受けた
- 9.18 パティカロアで自動車が爆破され、10 人の兵士と 5 人の市民が死亡、その後治安部隊が 47 人を射殺、150 人の青年が検挙された
- 9.19 パティカロア市民委員会、警察が無差別に市民を射殺し、商店に放火をした、と述べる
- 9.20 パティカロアでは、17 時間の外出禁止令布告。市民委員会、水田は収穫期に入っているが、戦闘が続いているので農作業に出るものが少ないと平和回復を切望
- 9.22 政府軍、ゲリラ掃討作戦で 16 人のイーラム独立運動派を射殺。パティカロアの商店は休業
- 9.23 州議会制度反対のデモを国家治安省が禁止決定
- 9.25 ガリガムワの人民銀行強奪事件で警察署の幹部が義務を履行しなかったという理由で停職処分を受ける
- 9.26 ジャフナ半島の 7 カ所で建設されていた燃料庫を政府軍が破壊。イーラム側の戦力低下をはかる
- 9.26 トリンコマリでドイツ人のラジオ技師が射殺される
- 9.26 米下院外交委員会で、国務次官が「スリランカが攻撃されても米軍は介入しない」と回答
- 10.2 イーラム独立運動の分派闘争や連合関係が再編されつつあり、最強の LTTE は TEA、EROS と連合し、EPRLF と PLOTTEE が連合し、TELO は組織の再建に努めていると *Hindu* 誌報道
- 10.3 モラウエワで地雷が爆発、郵便局長など 4 人が死亡
- 10.4 政府、アムネスティ・インターナショナルの報告書に反発し、個々のケースについてどちらが正しいか、法廷で白黒つけるよう呼びかけ
- 10.5 トリンコマリ県のサンバルティヴ地区で 10 人のゲリラ活動家が殺され、8 人が逮捕された
- 10.6 スリランカ政府と TULF の第 3 次協議は、10.16 からニューデリーで行われる予定
- 10.6 東部州のタミル人口は 41%に過ぎないので、TULF はタミル人が多数派の地区だけを北部州に編入するよう提案、スリランカ政府でも州の変更を検討中
- 10.8 LTTE、1987 年 1 月より「イーラム国通貨」を発行すると予告。また地元紙に交通警官の募集広告を掲載
- 10.8 首相、州議会の発足に必要な法案を近く議会に上程すると表明
- 10.8 TULF、インド外相にスリランカ政府の軍事作戦を休止させるよう要請する打電
- 10.9 タミル・ナドゥ州のラーマチャンドラン州首相、独立運動の諸党派に和平会議に参加するよう要請
- 10.13 マンナールのバブニヤ県でゲリラ戦が続き、24 時間の外出禁止令が布告される
- 10.13 TULF、スリランカ政府との協議で合意できる点と対立点を明示した 80 ページの文書を準備したと *Times of India* 紙が報道
- 10.14 マンナール県の 2 日間にわたる戦闘で政府軍 16 人、イーラム運動のタミル人 27 人およびシンハ

ラ農民5人が死亡

- 10.19 大統領、イーラム独立運動の武装闘争を中止し、政府との話し合いに参加を呼びかける
- 10.19 SLMP のクマラナトゥンガ書記長に、LTTE 報道官が電話。マンナールで捕虜になった2人の兵士の家族を連れてジャフナに来れば釈放すると連絡
- 1986 10.20 クマラトゥンガ、ジャフナで LTTE と折衝
- 10.22 インド外相、シャンカールから N.D.ティワリに交替
- 10.23 ジャフナでの捕虜釈放耕作に失敗したクマラナトゥンガ書記長、コロンボに戻り報告。政府の妨害が失敗の原因と語る
- 10.26 タミル・ナードゥ州首相、イーラム独立運動の諸組織を会談に招く
- 10.27 首相、全ての公務員がシンハラ語とタミル語の双方を習得すべきだと語る
- 10.27 アヌラ・バンダラナイケ、義兄のクマラナトゥンガ書記長の捕虜交換工作を批判
- 10.28 AFP 通信、LTTE が一方的に独立宣言を行う方針であると伝える
- 10.30 PLOTEE、LTTE がジャフナを独占的に支配しようとして圧迫を加えているので、一時的に解放運動を停止すると発表
- 11.1 食糧輸送が妨げられているため、ジャフナ住民の健康問題が深刻化
- 11.1 今後の2週間の動きがスリランカ史上もっとも決定的であろう、と国家治安相が語る
- 11.3 イーラム運動5組織は期待されていたような合同文書でなく、個別にラーマチャンドラン州首相に会い、スリランカ政府に対する回答を行う
- 11.3 大統領、インド大使と会談、和平交渉の進め方について話し合う
- 11.5 TULF、ジャフナから軍隊を撤退させるよう要求する電報を大統領に発信
- 11.6 LTTE は PLOTEE を北部から駆逐しようと圧迫しているが、まだ成功していない模様
- 11.6 スリランカ政府による反インド秘密放送が1日に1時間行われていると EPRLF が発表
- 11.8 タミル・ナードゥ州警察は州内のイーラム独立運動根拠地で武装解除を行う
- 11.8 ガンディー首相とラーマチャンドラン州首相が会談
- 11.9 前日逮捕されたイーラム独立運動諸組織の幹部が全員釈放されたが、自宅からの外出は許可されず
- 11.10 国家治安省、東部州でイーラム独立運動の根拠地を攻撃し、33人を殺害し、80人を逮捕したと報告
- 11.11 国家治安省、北部州のヴェルヴェットゥライ上空を飛ぶヘリコプターをゲリラ側が砲撃した、と発表
- 11.14 インド外相、ハミード外相に当分軍事作戦を抑制するよう要請
- 11.14 イーラム運動幹部の外出禁止令解除
- 11.14 ロンドンでイーラム独立運動団体間の対立、3人のタミル人が殺害される
- 11.15 大統領、SAARC の第2回首脳会談に出席するためバンガロールに着き、ガンディー首相の出迎えを受ける
- 11.16 ガンディー首相と大統領の会談が続けられ、ラーマチャンドラン州首相も参加。大統領は、東部を北部に統合することは不可能としたものの、アンパラ県を別個に扱う可能性を示唆。またブラバカランとも非公式に会談
- 11.17 バブニヤ県知事が襲撃される
- 11.18 タミル・ナードゥ州議会で、単一のタミル州を作ることに両国首脳が合意したと州政府が説明
- 11.19 印・ス両国外相、2日間にわたってニューデリーで首脳会談を引き継ぐ会議を続けたが、イーラム独立運動の諸組織を納得させる解決案をまとめることは出来ず
- 11.20 *Hindu* 紙、LTTE のバンガロールに招待はその地位が認知されたことを意味すると報道
- 11.20 ブラバカラン、状況が改善されたと語る
- 11.22 イーラム運動の諸組織がスリランカ各地との交信に用いていた無線通信施設を、タミル・ナードゥ州警察が押収
- 11.23 ブラバカラン、無線施設の返還を求めて無期限のハンストを行い、2日後に返還
- 11.25 インド・チダンバラム国務相とシン対外関係国務相が来島、大統領にあって後直ちにニューデリーに帰国
- 11.26 英国内務省、昨年入国したタミル人1000人以上の政治的亡命申請を却下

- 12.2 イーラム独立運動の主張をとりまとめ、インドの2人の担当国務相が12.17頃最終案作成のため来島する予定
- 12.5 大統領、SLMPのクマラナトゥンガ書記長を通じてLTTEプラバカランに招待状を発送
- 1986 12.6 アムネ스티・インターナショナル日本支部、スリランカの行方不明者についての集会を東京で開催
- 12.6 パティカロアのタミル人とムスリムとの対立で24人の死者を出し、27時間の外出禁止令が布告
- 12.9 大統領、イーラム独立運動の指導者と直接交渉の用意があると呼びかけ
- 12.11 インド・チタンバラムとシン国務相、マドラスに向かい、イーラム独立運動指導者の対案を聴取する
- 12.14 LTTEとEPRLFとの分派抗争は、45人の死者を出し、EPRLFの降伏で終わる
- 12.16 インド・チタンバラムとシン国務相と武装タミル人組織の各党派は東部と北部の統合を強硬に主張
- 12.17 トリンコマリイ県のモラウエワ地区で3人の軍兵士、1人の警官と3人の自警団員がテロリストに射殺
- 12.17 インド・チタンバラムとシン国務相、コロンボ到着、スリランカ政府関係者に会う
- 12.18 大統領とインド国務相の話し合いは、長時間にわたるが、内容は公表されていない、マドラスではイーラム独立運動側からも直接交渉を望む声も出る
- 12.19 ジャフナで捕虜になっていた2人の兵士が、スリランカ政府とLTTEとの秘密交渉の結果、無事に帰還。代わりにLTTEの2人の捕虜が釈放
- 12.19 3日間にわたるインド国務相との話し合いは、最終的に結論に至らずに終る。東部州をタミル県、シンハラ県、およびムスリム県に3分するジャヤワルダナ大統領案に双方が妥協点を見いだせず
- 12.23 アンパラ県でもLTTEとEPRLFとの分派闘争が行われ、双方で16人の死者を出す
- 12.23 政府、クリスマスに向けてイーラム独立運動との休戦を呼びかける。国家治安相は、捕虜交換がある種の親善をもたらしたので、直接交渉を希望すると述べる
- 12.25 TELO、逮捕者の釈放を求めて、釈放までは和平会談に参加しないと抗議
- 12.26 SLMPのクマラナトゥンガ書記長、政府が2人の捕虜交換をしたことを歓迎、この交渉はコミュニケーションギャップの縮小に役立つだろうと述べた
- 12.27 海軍部隊、北部のカライナガルでLTTEと交戦し撤退させる
- 12.27 与党のペレーラ国会議員を団長とする代表団、ジャフナに赴きLTTEのジャフナ代表と会談
- 12.28 政府、北部州と東部州との間に州間調整委員会を設置し、2または3州の共同事業を行えるようにする案を検討中。この件インドからの特使を通じてタミル・ナードゥ州のイーラム運動組織にも伝えられている
- 12.30 LTTE、1987年1月より徴税、教育、難民、農村開発などに加えて、テレビ放送、切手の発行、交通裁判などの行政を担当する計画を発表

- 1987 1.1 民事治安省発足、担当相は大統領が兼任、村レベルから民間警察組織を築き、テロリストに対抗する政策を具体化するために設置
 - 1.1 先週ジャフナで開かれた LTTE とペレーラ議会問題相との秘密会談で、勾留されている 3000 人のタミル人の釈放を LTTE が要求と報道
 - 1.2 LTTE が、ジャフナ半島の行政を行うのに対抗して、政府は同地区の燃料供給を制限することに決定
 - 1.3 ハミード外相、インド国内で押収した武器をイーラム独立運動組織に返還しないよう求めた、とインド大使が発表
 - 1.5 インド大使、大統領に会い、ジャフナ半島への経済制裁に対するインド政府の憂慮を伝える
 - 1.6 ジャフナ市民委員会、国際赤十字に経済制裁中止のため仲介するよう求める
 - 1.6 茶業研究所の農園で 3 人のタミル人労働者が殺害され、10 人が負傷。政府はイーラム独立運動が中央山地に浸透したと憂慮
 - 1.10 7日に始まった政府軍の構成により、ジャフナでイーラム側の兵士と市民 10 人が死亡、30 人が負傷
 - 1.13 G.ディサナーナカ土地相、ニューデリーでインド側のスリランカ問題関係者と解決案について協議
 - 1.13 ブラバカラン、マドラスより帰国とスリランカ政府が発表
 - 1.16 インドから帰国したディサナヤケ土地相、インド政府との間に誤解がなく、和平の展望ありと声明
- 1987 1.18 エレファント・パス近くの LTTE 拠点が政府軍に攻撃され双方で 14 人の死者
 - 1.18 バドゥラでバスが爆破され、乗客 7 人が死亡し、50 人が負傷
 - 1.22 バティカリア市で北部州に対する経済制裁に抗議して、ストライキと商店の休業が行われる
 - 1.22 北部では、政府軍とイーラム軍との交戦で 8 人死亡
 - 1.22 LTTE 指導部内の対立をシンハラ紙が報道
 - 1.22 国家治安相、ジャフナとコロombo間のダイヤル通話を禁止したと議会で発表
 - 1.25 バティカリア市のハルタル中止される
 - 1.26 バブニヤ近郊で 7 人のタミル人農民がイーラム軍兵士と誤認され射殺される
 - 1.26 LTTE が飛行機や爆弾を製造するとロイター電報道
 - 1.28 バティカリア近郊で政府軍とイーラム軍が交戦、双方とも各 8 人の死者、市民にも被害
 - 1.29 バティカリア近郊の交戦が続き、双方で死者 70 人に達した模様と PTI 電
 - 1.30 ジャフナ半島で政府の経済制裁に抗議するハルタル実行
 - 1.31 バティカリア近郊の戦闘は 4 日目に入り、計 60 人の政府軍兵士と 200 人のタミル人が死亡
 - 2.3 1983 年以来、5786 人のスリランカ人難民を受け入れた、とオーストラリア政府のハーフォード移民相が議会答弁
 - 2.6 LTTE 製の飛行機、初の試験飛行で墜落と政府発表
 - 2.7 政府、軽飛行機の使用を全島で禁止すると布告
 - 2.7 北部戦線で 22 人のイーラム兵士と 7 人の政府軍兵士が交戦により死亡
 - 2.8 アンパラ県東部の村で 5 人の女性、10 人の子供を含む 28 人のシンハラ村民が LTTE によって虐殺されたと国家治安省発表
 - 2.10 国家治安相、5000 人の兵士と空軍の支援によって、1 日 100 メートルずつ前進し、ジャフナ市をテロリストの支配から取り戻すと声明
 - 2.11 ジャフナにおける作戦のため、北部州 3 県で 36 時間の外出禁止令布告
 - 2.12 LTTE 報道官、マドラスで、スリランカ政府軍が 10 日にエレファント・パス近くの 2 村落を攻撃、住民 130 人とゲリラ兵士 20 人を殺害したと発表
 - 2.14 コロンボのスレープアイランド地区で地域住民と警官隊 50 人が衝突、双方に負傷者
 - 2.15 ジャフナで LTTE の石油給油船が爆発し、テロリストの幹部を含む計 28 人が死亡
 - 2.17 200 人以上のタミル人ゲリラが逮捕される前に青酸カリで服毒自殺したとジャフナ発の AP 電が報じる
 - 2.19 大統領、86 年 12 月 19 日に作成された解決案が和平実現の基礎となると議会で発言
 - 3.2 大統領、バンダラナイケ SLFP 委員長に民族問題の解決案を説明

- 3.2 ガンディー首相への大統領の返書をティラカラトナ駐印大使が伝達
- 3.3 LSSP、SLMP、共産党は、12月19日の合意を基礎とする解決案を支持すると共同声明
- 3.5 スリランカで雇用されているイギリス兵の多くは、元特殊空軍部隊である。彼らに訓練を受けたスリランカの大ゲリラ作戦部隊員がタミル人に虐殺行為を働くので困ると不満を漏らしていると *London Daily News* 紙が報道
- 3.7 LTTE、北部のウルクラマ近くの道路に地雷を仕掛け、軍用車を爆破して17人の兵士を殺害
- 3.9 3日間にわたる政府軍の攻撃により、ジャフナ市内の死者は50人、負傷者は150人に達したとインド各紙が報道。タミル・ナードゥ州ラーマチャンドラン州首相は、ガンディー首相にスリランカ政府軍のタミル人攻撃を抑制させるよう強く要請。TULFも同様の要請を行う
- 3.11 スリランカ政府、68日間続いた燃料輸送禁止を緩和、容疑の暗れたタミル人拘留者の釈放を決定
- 3.15 タミル・ナードゥ州のマルタヤル鉄橋爆破により列車が転落し32人の乗客が死亡、TELOのティルチラパッリ事務所が閉鎖される
- 3.18 スリランカ問題を担当しているインドのシン國務相、スリランカ政府が経済制裁を中止しなければインドがタミル人に食糧やその他の生活必需品を提供することもあり得ると下院で言明
- 3.22 ジャフナでガソリンやディーゼルを政府軍が供給するのは軍政であると市民団体が抗議活動を行う
- 3.23 東部州のセールネワ村で5人の子供と12人の女性を含む25人のシンハラ人がゲリラに殺害される
- 1987 3.23 LTTE 報道官、ジャフナの電信局を政府軍から奪回したと発表、双方で10人の戦死者を出す
- 3.25 兵士の雇用期間を12年から22年に改める法案を閣議決定
- 3.26 マドラスでイーラム独立運動諸組織と中央政府のシン國務相との話し合いが行われる
- 3.28 大統領、2カ月以内に北部州と東部州とで補欠選挙を実施すると演説
- 3.30 LTTEのジャフナ司令官、クリシュナ・ラマール、手榴弾で攻撃され、両足切断
- 4.5 LTTEが、EPRLFおよびTELOに対して司令官攻撃の報復をし、140人以上を殺したと英 *Times* 紙が報道。ジャフナ市は非公式の外出禁止状態
- 4.7 大統領、シンハラ・タミル正月期間(10日間)の停戦をイーラム側に呼びかけ
- 4.10 国家治安相、10日間的一方低停戦を公式に発表
- 4.12 首相、パキスタン公式訪問より帰国、約1500人のスリランカ軍人がパキスタンで訓練をうけており、約40人の元英軍人が島内で訓練している
- 4.17 トリンコマリ-南部のコロンボ道路上で3台の公営バスと2台の貨物自動車に乗っていたシンハラ人127人が機関銃で射殺される。政府は10日間の一方的停戦を中断し、トリンコマリ-全県に19日午前6時まで夜間外出禁止令を布告し、LTTEへの反撃を開始
- 4.18 インド外務省、バス乗客虐殺事件を厳しく非難する声明を発表。LTTEは事件への関与を否定
- 4.18 ニューデリーの軍人と警官が非合法化されているJVPの党员であることが判明したとPTI通信
- 4.19 JVPと関係があると見られている軍人37人が解雇される
- 4.21 コロンボ商業地区ビタコトウワのバス・ターミナルで爆発事件、約150人が死亡
- 4.22 政府軍、ジャフナのゲリラ基地に爆弾を投下して反撃を開始。他方、カンケントクライの軍駐屯地がゲリラに襲撃され、14人の兵士が戦死、コロンボでは、夜間外出禁止令布告
- 4.23 大統領の辞職を求めて仏僧がコロンボでデモ行進
- 4.26 大統領、カラデニヤの与党集会で「2年以内にテロリズム問題を解決できなければ、次の総選挙を取り止め、国民投票で議会の任期を延期してテロリズムを根絶する」という演説を行う
- 4.27 情報省、過去5日間に400人のテロリストを殺害したと発表
- 5.1 タミル・ナードゥ州がジャフナ住民に食糧、医療品など320万ドル相当の救援物資を送る計画を進めているとしてスリランカ政府が抗議。これに対してインド政府はこの動きに対して抗議
- 5.5 SLFPとMEP、議会議務局に大統領の不信任動議を提出
- 5.5 JVPが武装蜂起を準備しつつあると警察長官が報告し、大統領も与党議員に注意喚起の指示
- 5.7 インド・ヴェンカタラマン副大統領、スリランカ・タミル人の苦境を救うため最善を尽くすと言明
- 5.8 ジャフナ中央病院を閉鎖せず、平和地帯として認めるよう、政府がLTTEに提案

- 5.10 スリランカ政府、インド近くでの漁業操業を全て禁止し、武器の海上輸送を防ぐ方針を発表
- 5.11 政府、軍事支出増のため、18億4500万ルピーの補正予算案を議会上程する予定
- 5.12 国家治安相、ジャフナ中央病院に国際赤十字の代表を受け入れるというLTTE側の提案を拒絶、仏教僧なら認めても良いと返答
- 5.14 トリンコマリ州における地雷敷設のため2カ所で軍の車両が爆発、10人の政府軍兵士が死亡
- 5.17 政府軍の戦闘機が北部州のアイヤカッチ村近くで運行中のバスを爆撃、約50人のタミル人乗客を殺害したとインド各紙が報道。スリランカ政府は作り話と否認
- 5.19 LTTE、政府軍がジャフナ図書館の建物を軍事施設化しないよう、野天劇場とともに爆破
- 5.20 タミル・ナドゥ州首相の難民共済基金から3000万インドルピーがLTTEに、1000万インドルピーがEROSに与えられ、それぞれの組織の銀行口座に振り込まれる
- 5.21 政府軍とゲリラとの交戦で双方に30人を超える死者
- 5.23 ハミード外相、タミル・ナドゥ州政府のテロリストに対する資金援助に抗議
- 5.23 ガンディー首相、スリランカ政府にジャフナ半島での軍事攻撃を抑制するよう、駐印スリランカ大使を通じて要請
- 5.26 48時間の外出禁止令を布告して、スリランカ陸海空軍は、ジャフナ半島に解放作戦の大攻勢を開始
- 5.28 国家治安相、軍事攻撃によりヴェルヴェトライを支配したと発表
- 5.28 ガンディー首相、広く世界の世論に訴えスリランカ政府の軍事作戦を抑制させるため、各国が圧力を加えるよう呼びかけ
- 1987 5.31 ジャフナ半島では、24時間の外出禁止令が続き、激しい戦闘により軍人と市民の双方で約400人の死者
 - 6.1 インド政府、赤十字の旗を掲げ救援物資を積んだ船20隻をジャフナへ向けて出向させると通告、これを受けてスリランカでは緊急閣議と議会を招集
 - 6.2 アンバラ県でバスがゲリラに襲撃され、乗客のうち僧侶32人とシンハラ人4人が殺害された
 - 6.3 インド政府の救援物資を積んだ船は、スリランカ海軍に阻止され帰還
 - 6.4 **インド空軍の輸送機、ジェット戦闘機の護衛を受けてジャフナ上空に飛来、パラシュートにより食糧や医療品を投下**
 - 6.5 インド空軍の領海侵犯に対する抗議のため、外相、国連事務総長を通じて安全保障理事会に通告
 - 6.5 パキスタンとネパール政府は、遺憾の意を表明
 - 6.5 南部のブーサ収容所に勾留されていた7人のタミル人青年が射殺される
 - 6.7 コロンボ南部のコテラーワラ軍事研修所とカトナヤケ空港にある空軍基地がシンハラ人のJVPゲリラに襲撃され、多くの武器や弾薬を奪われる
 - 6.7 バングラデシュ政府、インドの領空侵犯を非難
 - 6.7 ジャフナ半島に60時間の外出禁止令布告
 - 6.9 8000人の民衆がインド大使官邸にデモ行進
 - 6.10 スリランカ政府、ジャフナ半島での軍事作戦を終了し、今後は和平交渉に向かうと表明
 - 6.10 今回の作戦で拘留のタミル青年450人を釈放
 - 6.11 ハミード外相、インド大使と緊急援助を協議
 - 6.11 北部と東部で地雷のため34人が爆死し、25人が負傷
 - 6.13 スリランカはSAARCに出席することを決定
 - 6.15 スリランカ政府、インドの救援物資をカンケサントウライ港で、赤十字を通じ受け入れることに合意
 - 6.17 SLFP、9月に予定の地方選挙に反対
 - 6.18 ハミード外相、SAARC外相会議で主権を尊重し、内政干渉を行わないよう地域憲章の必要性を強調
 - 6.23 LTTE、インドの救援物資がジャフナで配分されるまで軍事行動を全て停止すると発表
 - 6.24 インドの救援物資を積んだ貨物船がジャフナ着
 - 6.26 警察、JVP容疑者65人を逮捕
 - 6.28 トリンコマリ州南部にあるムットウールのLTTE基地を政府軍が襲い、12人のゲリラ兵士を殺害

- 7.3 インド・スリランカの両政府、ジャフナ半島への救援物資輸送をあと4隻分、計1万トンにする
と合意
- 7.5 南部のゴール県で与党の地方選挙候補者が暗殺される
- 7.6 北部のネルアディ兵舎が爆破され16人が死亡、LTTEは100人の兵士を死亡させたと戦果を
発表
- 7.9 最高裁の判決に従い、拷問を行ったパーナドゥラ地区の警官4人に停職処分が発令された
- 7.12 カナダ大西洋岸にスリランカ・タミル難民157人がボートで上陸、全員がカナダへの亡命を希望
- 7.14 北部州と東部州の補欠選挙が無期延期となる
- 7.14 大統領、インド大使と会談、東部州と北部州を単一の行政単位にする和平案を検討
- 7.16 インド大使、大統領と12人の閣僚に会い、新しい和平提案について話し合い
- 7.18 インド大使、和平交渉の報告に帰国
- 7.19 政府内部で、和平案について意見対立、6閣僚が東部州と北部中の統合に反対、首相帰国後に決
定せよと主張
- 7.20 首相、来日中、NHKの放送でインドを批判
- 7.21 メノン外務次官、マドラスでイーラム独立運動の指導者たちに会い、和平案について意見交換
- 7.22 大統領、同政権の10周年記念集会で交渉によって民族問題を解決すると表明
- 7.23 与党の議員総会で大統領、17項目の和平案を説明、首相不在のまま承認を得る
- 7.23 プラバカラン、インド軍用機でニューデリーに飛び、インド政府首脳と話し合い
- 1987 7.26 僧侶らの民族主義団体「祖国を守る会」、和平案は民族の裏切りであるとの声明発表
- 7.26 首相日本より帰国、和平案を検討
- 7.27 和平協定調印のため、ガンディー首相が29日にスリランカを訪問するとインド政府が公式発表
- 7.27 2時間半にわたる閣議の後、和平協定にかなする発表は行われず。首相は、調印延期を主張
- 7.27 ニューデリーで、LTTE指導部の説得工作が続く、しかしプラバカランは和平協定を支持できな
いと表明
- 7.28 コロンボで和平協定に反対する暴動のため、政府の役所新聞社、公営バスなど焼き討ち2人の仏
教僧を含む19人が警官隊に殺され、36時間の外出禁止令布告
- 7.29 **ガンディー首相来島、大統領との和平協定に調印**、スリランカの首相と農相は欠席。暴動は拡大
し、さらに15人の死者をだす。コロンボ以外の南部の都市でも警察などが襲われる
- 7.30 ガンディー首相が、スリランカの儀仗兵に打たれる。和平協定実施のため、3000人のインド平
和維持軍（IPKF）進駐
- 7.31 ジャフナ半島のLTTEは、プラバカランの帰国まで和平協定による武装解除をしないと主張
- 8.1 北部から政府軍撤退
- 8.1 和平協定調印後の暴動でコロンボの死者は少なくとも60人に達する
- 8.1 インドのフリゲート艦2隻がコロンボ沖合に停泊
- 8.2 プラバカラン、マドラス空港からジャフナに帰り、武装解除の方法を検討し始める
- 8.3 インド軍、トリンコマリから10台の戦車を含む250台の軍用車を上陸させ、兵員も6500人
に増強
- 8.4 プラバカラン、ジャフナ近郊で開かれた10万人の大集会でLTTEは和平協定を尊重すると演説
- 8.5 ジャフナのバリ空港でLTTEの武器引き渡し式が行われる
- 8.5 政府、8月15日に予定されていたの地方選挙を延期
- 8.6 政府軍もキャンプに拘留していたタミル青年のうち、和平特赦の第一陣として291人を釈放
- 8.7 大統領、ロンドン・タイムズ紙の会見で最大の問題は南部のテロリズムであると答える
- 8.9 首相、調印後初めての公開演説で大統領に全幅の信頼を持っていることを表明
- 8.10 東部州でLTTEの武器引き渡し開始
- 8.12 ジャフナで地雷撤去作業中の2人が死亡、2人負傷。インド進駐軍最初の犠牲者
- 8.15 LTTEのジャフナ司令官、民衆の安全が保障されるまで、自分たちの武装解除を中断すると宣言
- 8.18 国会議事堂で開催中の与党議員総会で手榴弾が爆発、2人死亡。国家治安相が重傷
- 8.20 首相、和平協定調印式への欠席は、インドの領空侵犯に抗議した行為と議会で演説
- 8.23 インド大使、後数日でイーラム解放諸組織の武装解除が完了する見込み、と表明

- 8.25 和平協定に強く反対するパンダラナイケ SLFP 委員長から TULF 書記長宛の書簡公開
- 8.27 北部と東部の自警組織 1 万人が武装解除を完了
- 8.30 ロンドンで麻薬密輸が LTTE の資金集めのために行われている実状を *Sunday Times* 紙記者が調査し、報告
- 9.1 州議会選挙までの暫定行政府長官に 2 人の元ジャフナ知事を内定。州評議会議員を LTTE に 3 人、TULF に 2 人、EROS に 1 人、シンハラとムスリム代表に各 1 人割り当てると *Island* 紙が報道
- 9.2 和平協定後、警察行政を担当していた LTTE が、武装解除のために、ジャフナ市が無政府状態となり、犯罪が増加した、と *Times of India* 紙が報道
- 9.3 ムットゥールでムスリムの郡長が射殺され、ムスリム住民がタミル人商店を襲撃、外出禁止令布告
- 9.5 パティカロア県で LTTE が、警察行政のあり方に抗議して東部州全体のストライキを呼び掛け
- 9.7 ジャフナのインド進駐軍司令部前で LTTE の抗議デモ
- 9.9 バブニヤ地区における LTTE と PLOTEE の抗争で、計 32 人の死者
- 9.10 LTTE とムスリム住民の抗争で、東部州カルムナイの約 15 商店が焼き討ちにあい、車両も数台破壊される
- 9.13 LTTE、PLOTEE、TELO、EPRLF の 3 組織がパティカロアで衝突、22 人死亡
- 9.14 LTTE とインド軍との最初の武力対決が東部のエラウールで発生
- 1987 9.14 ナッルール寺院で、LTTE の 100 人が、次の 5 つの要求を掲げてハンスト、すべてのタミル人拘留者釈放、タミル地区へのシンハラ人入植禁止、自治政府成立までは入植事業を停止、タミル地区の警察署再開を中止、農村や学校の軍とキャンプ閉鎖
- 9.16 スリランカの新聞報道の検閲が解除
- 9.17 LTTE の要求で、新設の 3 警察署が閉鎖
- 9.18 インド放送、過去数日間 LTTE があらゆる方法を用いて和平協定の実施を妨げていると批判
- 9.19 議会爆破事件で入院し、手術を受けていた国家治安相、ほぼ全快して退院
- 9.21 州政府による自治権の範囲に関し、インド・スリランカ両政府の事務レベルでの話し合いで結論に到達
- 9.21 LTTE、9 人の州評議会議員の候補リストを提出
- 9.22 20 人の PLOTE メンバーがバブニヤで LTTE に殺害される
- 9.22 UNP ウェリボタ支部長が射殺される
- 9.23 インドの中央警察機動隊 1200 人がスリランカに派遣される、平和維持軍も 2 個師団に増強される予定
- 9.23 マンナールで、平和維持軍が LTTE のデモ隊に発砲
- 9.23 運輸相、インド政府と協力し、マンナールとラーメシュワラム間のフェリー便を 1 月に再開させる
- 9.24 UNP ラトガマ選出の議員が和平協定反対で辞任
- 9.26 LTTE 幹部ディリーバンガ、ハンスト 12 日目に死亡、ジャフナ市の商店や事務所はすべて休業
- 9.27 インド大使とブラバカランの会談（3 回目）で、暫定政府についての妥協点に到達
- 9.29 大統領、暫定州評議会の 12 議員を任命、LTTE 7 人、TULF 2 人、シンハラ人 2 人、ムスリム 1 人の予定でタミルのグループは除外
- 9.30 州政府設置法案が閣議で承認され、官報に掲載
- 10.1 LSSP、共産党本部、共産党の元教育副大臣などがゲリラに襲われる。トリンコマリーでインド兵がスリランカ軍に撃たれて死亡
- 10.1 インドから帰国途上の LTTE 17 人が海軍に逮捕される
- 10.2 LTTE、パドマナーダンを暫定州政府長官に任命しなければ大統領提案を拒否するとの声明を発表
- 10.4 大統領、インド軍に対してトリンコマリー県の治安を回復するよう強く要求
- 10.5 スリランカ海軍に逮捕された LTTE 17 人は、コロンボ移送に反対して青酸カリを服毒、12 人が死亡
- 10.7 東部州で約 140 人のシンハラ人が虐殺される

- 10.8 パティカロア県知事と県警本部長を含む 23 人が地雷のため爆死
- 10.9 **大統領、和平協定による特赦を LTTE に適用しないと発表**
- 10.9 与党系労組のコロンボ港支部が爆破され、3 人が死亡、8 人が負傷
- 10.9 インドのパント国防相来島、大統領と協議
- 10.12 前日より、LTTE への攻撃を再開したインド軍、3 日間で 163 人のゲリラを殺害、18 人のインド兵が死亡、
- 10.14 30 人のインド兵が LTTE の攻撃で死亡
- 10.15 20 人のインド兵が、遠隔操作の地雷爆破で死亡、18 人が捕虜となって LTTE に捕らわれている。タミル・ナドゥ州警察、州内の LTTE 要員の検挙開始
- 10.16 LTTE の根拠地ウルンピライ、127 人の死亡者を出して陥落。インド軍の進撃が市民の抵抗に遭遇する
- 10.18 インド軍、ジャフナ市を包囲し、LTTE 全面降伏と武装解除を求める。LTTE は停戦を提案
- 10.19 トリンコマリーで、バスが爆破され、乗客 42 人死亡
- 10.20 インド軍約 6000 人増派、計 2 万人となる
- 10.21 バングラナイク元首相、国内の一部だけで国民投票を行い州統合を決めるのは違憲と主張
- 10.23 大統領、トリンコマリー港をインドの利益に反して他国に利用させないよう、両国間の友好条約を締結する用意があると演説
- 1987 10.24 SLFP のジャヤコディ議員、北・東部州情報がインド大使館に独占されていると議会で不満を表明
- 10.24 ジャフナで 700 人の市民が死傷したと市民団体発表
- 10.24 ジャフナで LTTE の船 4 隻が撃沈され、61 人が死亡
- 10.25 キャンディ市のインド総領事館で手榴弾が爆発
- 10.26 ジャフナのインド軍は、LTTE の掃討作戦を始める、半島内の難民に救援物資の配給を行う
- 10.28 捕虜になっていたインド軍兵士 7 人の遺体がコクヴィルで発見された
- 10.29 シン国務相が来島、大統領と会談し「最悪の時期は終わった」と記者会見で言明
- 10.30 大統領、和平協定以降、38 人の UNP 党員が JVP のテロリストに暗殺されたと言明
- 11.2 12 人のインド行政官、インド平和維持軍と協力して、ジャフナの復旧事業を担当する
- 11.3 大統領、SAARAC 会議に参加
- 11.4 大統領、ニューデリーに着き、ガンディー首相とスリランカ情勢について協議
- 11.4 インド軍、ヴェルヴェティドライ町を解放、LTTE 側は死者 12 人、捕虜 700 人を出し、停戦を提案
- 11.5 ガンディー首相、LTTE 案を拒否し、降伏を要求
- 11.6 大統領、州議会法案の修正を求める TULF 案を拒否し、決定を議会に託すと発言
- 11.7 UNP 支持の弁護士、警官、村役人が 3 か所で射殺されたが、いずれも犯人は検挙されず
- 11.9 コロンボのマラダナ地区で自動車爆弾が爆発、50 人以上が死亡し、199 人が負傷、警察は LTTE と JVP の双方の可能性を考え捜査
- 11.9 州議会法案のなかで、最高裁が国民投票を必要と判定した条項を政府は法案から削除することに決定
- 11.10 州議会法案の審議に抵抗して 50 地区で暴力事件
- 11.11 G.ジャヤスーリヤ農業開発相、州議会法案に反対して大臣と議員の双方を辞任
- 11.12 **州議会法案と 13 次憲法改正案、138 対 11 で可決**
- 11.13 北部と東部での情勢が正常化せず、政府は和平協定による年内選挙を断念
- 11.13 ティッサマハラマ UNP 支部書記長、JVP に射殺される
- 11.13 PLOTE のメンバー 13 人を含む 27 人のタミル人、マンナール県でバス走行中に地雷で死亡
- 11.14 ボロンナルワ警察署長宅襲撃
- 11.19 LTTE の航空機製造工場をインド軍が占拠
- 11.20 21 日午前 7 時より 48 時間の停戦を実施する、とシン国務相がインド下院で発表。前日 LTTE が無条件で 18 人のインド兵を釈放したのに応える
- 11.20 10 月 10 日以来、262 人のインド兵が戦死、927 人負傷

- 11.23 LTTE が、インド軍に 10 月 10 日以前の位置に後退させる攻撃に出た。インドは一方的停戦の延長を拒否
- 11.26 南部地域で、JVP によると見られる、電柱に縛る処刑がマクレッサのカッタワで発見される
- 11.26 民族抗争による直接的な被害は 700 億ルピーと蔵相言明。家を失った難民が 42 万 8461 人に達したと復興省発表
- 11.29 政府系新聞の輸送車が南部地方で攻撃される
- 12.2 非合法活動取締本部長、乗用車で出勤途中射殺される
- 12.2 バティカロアで LTTE と交戦し、インド兵 9 人死亡、7 人負傷
- 12.5 農相の辞任による空席を埋めるため内閣改造
- 12.5 32 人のムスリム住民が東部州でインド兵に殺害された、とバティカロア選出の議員が調査を要求
- 12.6 非合法化の JVP、2 万 5000 人のインド軍撤退を求め武装放棄を呼び掛けるパンフレットを配布
- 12.8 インド海軍、タミル人反乱軍を輸送中のボート 50 隻を捕獲もしくは撃沈とニューデリーで発表
- 12.9 ジャフナの市民生活は正常化され、各種の公的機関も日常業務を再開、とインド大使発表
- 12.11 バブニヤ地区で 15 人の LTTE が TELO の武装集団に攻撃されて死亡
- 12.12 TULF、LTTE に武装解除を呼び掛け
- 1987 12.12 大統領、600～700 人のインド兵が和平協定後に戦死したが、スリランカ兵は一人も戦死していない、と言明
- 12.13 インド外務省、戦死者は 319 人のみと反論
- 12.15 インド軍に協力したタミル人 6 人が殺害される
- 12.16 女性を暴行したインド兵 6 人に強制送還命令
- 12.16 LTTE、東部州でムスリムとシンハラ各 5 人射殺
- 12.18 大統領、LTTE が降伏するまでインド軍の駐留を要請する。しかし、JVP は自力で 1 か月以内に粉碎できると *India Today* 誌に回答
- 12.19 砂糖公社職員と運転手を人質にした LTTE が会社に対して 20 万ルピーを要求
- 12.20 LSSP、CP、SLMP、新平等党、共同声明、現政権を批判するとともに LTTE と JVP のテロに反対すると強く主張
- 12.23 UNP 議長の H.ウィクラマシンハ、乗用車で党本部に向かう途中、自転車で近づいた 2 人の男により 3 人の護衛官、運転出とともに射殺される
- 12.24 M.G.ラーマチャンドラン州首相の死は、タミル・ナードゥ州だけでなくスリランカ政界にも影響を呼ぶ
- 12.25 タミル・ナードゥ州首相の葬儀に LTTE 代表の参加は不許可
- 1988 1.1 LTTE と IPKF がジャフナ県庁前で交戦。IPKF に協力する公務員を処刑するとのポスターが張り出される。キャンディの市街地で爆破事件、5 人死亡。PTI 通信によればスリランカ全土で少なくとも 41 人が死亡し、80 人が負傷
- 1.10 LTTE、インド軍やスリランカ政府に協力するものを敵と見なすと主張し、公務員や教員の不服従を呼びかけるとともに、TELO の事務所を襲撃し、3 人を射殺、他方インド軍の攻勢により LTTE 兵士 23 人が報復し、17 人が逮捕されたと政府発表
- 1.13 南部のハンバントータ県で政府軍と JVP とが銃撃戦を行い、市民 4 人を含む 8 人が殺害される。射殺された JVP 兵士の 1 人は現職警官だった。
- 1.14 インド軍兵士 43 人がジャフナ市で、婦女暴行で告訴され、軍事法廷で有罪の判決を受ける
- 1.18 蔵相、非常事態を解除し、JVP を合法化した上で早期に総選挙を行うよう求めて辞任
- 1.19 タイポングルの祝日が終わり、インド軍支配の北部州では、諸官庁、学校、電気通信等が正常に復帰
- 1.21 LTTE の兵士がバティカロア刑務所を襲い、55 人を脱獄させる
- 1.21 駐留 IPKF が 4 万 80000 人に増強される
- 1.22 印・ス和平協定に基づく北部・東部合同州議会選挙の実施法案を議会で可決、比例代表制で 12.5% だった足切り得票率を 2.5% に削減

- 1.22 LTTE 指導部、北・東部州の臨時行政機構について、国家治安省との直接交渉を希望している、と *Daily News* が報道
- 1.24 南部のベリアッタにある、JVP の本拠地を政府軍の特別部隊が攻撃、元軍人を含む 5 人を射殺
- 1.25 インド独立記念祝典の主賓として招かれた大統領が、和平協定の実施についてガンディー首相と会談
- 1.26 大統領に同行したディサナヤケ土地相と国家治安相が友好条約の締結、州議会選挙の実施、インド軍の撤退時期などについてインドのパント国防相、シン国務相と会談
- 1.30 大統領インドから帰国、南部のテロリストを抑圧し、治安の維持をはかる必要を強調
- 1.31 JVP の拠点がある南部のタンガッラで政府系の自警団「緑の虎」と治安部隊の作戦により多くの青年が無差別に殺された、とイギリス *Times* 紙が報道
- 2.1 インド軍が前々日からの 3 日間にわたるジャフナ半島掃討作戦で 188 人のゲリラを捕虜にする。トリンコマリーの地雷爆発で政府軍兵士 13 人が負傷
- 2.3 武力抗争が深刻な各県に平和委員会を設置し、公務員や司法官が治安作戦に協力するよう閣議で決定
- 2.4 首都で独立 40 周年記念式典を開催、EROS はこの祝典に反対してパティカロアで抗議運動
- 1988 2.5 イーラム独立運動内の党派抗争が再び激化、北部のチェディクラムで LTTE が PLOTTEE を襲撃。9 人を殺害し、7 人を負傷させる。LTTE 側も 4 人死亡。このほかインド軍兵士 2 人、巻き添えの非武装市民 4 人も死亡
- 2.6 東部州における平定作戦を強化し、州議会選挙の実施に備えるため、IPKF を 2 月中に 7 万人に増強するとスリランカ政府筋が述べる
- 2.8 国家治安相、15 旅団編成で 7 万人に増強されるインド軍が 4 月末までにタミル反乱軍を掃討し、7 月までに撤退する予定であると声明
- 2.9 インド外務省、昨年 10 月のパワン作戦以来の 4 ヶ月間の死傷者数を公表。戦死者 316 人、戦傷者 1169 人、行方不明者 12 人
- 2.10 ヒンドゥー教徒が祝日を祝うため 2.16 に限って特別に北部・東部州の夜間外出禁止令を解除すると閣議で決定
- 2.10 トリンコマリー県のカッチェヴィリにおける地雷の爆発により 8 人の警官と 1 人の運転手が死亡
- 2.12 約 2 万人のインド兵がパティカロアに集結。LTTE ゲリラ兵の掃討作戦を開始。15 日までに 3 万人を尋問し、12 人を射殺、131 人を逮捕。この作戦が終わった 18 日から、同県内の諸官庁や主要な事業所は 33 日ぶりに業務を再開
- 2.13 インド軍のヘリコプター、東部州沖合の海上で LTTE のグラスファイバーボート 2 隻を撃沈
- 2.16 SLMP 委員長のヴィジャヤ・クマラナトゥンガが自宅前で暗殺される
- 2.21 暗殺されたクマラナトゥンガの葬儀にほとんど全ての党派の指導者と約 5 万人の民衆が参加
- 2.25 2.25 大統領は議会の開会式で非合法闘争をしている反乱分子が武器を捨てれば恩赦を与えるると述べる
- 2.26 パティカロアの戦闘で子供を失った母親戦線、インド軍と LTTE の即時停戦を求めハンスト
- 2.27 パティカロアに無期限外出禁止令布告
- 2.27 駐留インド兵、10 万 7000 人に達しているが、4 月末までにさらに 2 万 5000 人が増強されると *Island* 紙が報道
- 3.2 トリンコマリー西部のモラヴェワ入植村で女子供を含む 15 人のシンハラ農民が武装ゲリラに殺害された
- 3.5 トリンコマリー南部でシンハラ人を乗せた貨物自動車が爆破され、27 人が死亡、10 人が負傷
- 3.7 州議会選挙に立候補するため 4 人の UNP 国会議員が辞職
- 3.9 選挙管理委員会、9 州議会のうち北西部州、北中部州、ウヴァ州およびサバラガムワ州の投票日を 4 月 28 日と決め、立候補の受付を開始。SLFP やタミル諸党派はボイコット
- 3.11 アスラーダプラ県のホロウボタナ発の私営バスがタミルゲリラに襲われ、乗客 19 人が殺害され

る

- 3.11 南部州では村レベルの官職であるグラーマ・セーワカが、JVP の攻撃に対する恐れから 46 事務所
所で欠員状態にあると報道
- 3.13 ジャフナに次いでバブニヤにインド・テレビ中継局が設置され、ティルチラパッリから放送開始
- 3.19 SLFP、MEP、ELJP、DWC、LP、TC および SLMC の 7 政党委員長が連署して大統領に JVP
を合法化し人権を尊重するよう要請
- 3.20 東部州における LTTE グェリラ掃討のためにインド軍とスリランカ軍が合同作戦を行う
- 3.21 インドの 7 政党、インド軍がタミル反乱軍と即時停戦するよう、インド政府に要求
- 3.25 インドへ逃げていたタミル人難民は、約 500 人単位で金曜日毎にフェリーで帰還することになっ
た
- 3.29 アヌラーダプラ県の公営バスにしかけられた時限爆弾が爆発。9 人が死亡、14 人が負傷
- 3.29 南部のブーサ刑務所などに拘留中のタミル人政治犯のうち EPRLF と PLOTTEE の党員が近日中
に釈放される予定と *Island* 紙が報道
- 3.29 首相が長期間のインド・ネパール訪問に出発。4.27 帰国
- 1988 3.31 カルムナイで LTTE のゲリラ兵が約 100 戸のムスリム住宅やモスクに放火し、少なくとも 17 人
を殺害
- 4.1 UNP 内に 6 人のメンバーからなる小委員会を設置。大統領が来年末の選挙で再任され、3 期目
を務める場合の憲法上の問題を検討するため
- 4.2 30 人の LTTE グェリラがキリノッチの ENDLF 拠点を攻撃。2 人を射殺し、1 人を負傷させる
- 4.3 1983 年以来、スリランカ軍からの脱走兵は 1590 人に達する、このうち相当数が JVP に参加と
見られるとの報道
- 4.7 スリランカ陸軍、北部州での活動を再開
- 4.8 国会手榴弾事件の容疑者がマターレー県で逮捕され、コロンボへ移送
- 4.10 PLOTTEE のウマ・マヘーシュワラン委員長、大統領と会談、州議会選挙に立候補することを表
明
- 4.10 東部州のジャングルにあった LTTE の隠れ家をスリランカ軍が深夜に急襲。12 人が射殺され、
4 人が自殺、14 人が重傷
- 4.14 北西沿岸の漁村でスリランカ陸軍分派隊が LTTE グェリラに急襲され、7 人が死亡、6 人が負傷
- 4.15 シンハラ・タミル正月期間は、東部・北部の両戦線でも南部でも戦闘行為なし
- 4.20 貿易・海運大臣、南部の州首相を目指して立候補就任するため閣議で辞任を表明
- 4.20 バブニヤの北部 7 マイルの地点でインド軍が LTTE の訓練所を発見、27 人を射殺し、17 人を捕
虜にした
- 4.21 長い間友好関係にあった LTTE と EROS が激しい武装闘争を各地で行い、数日の間に双方で数
十名の死者を出したと見られる
- 4.22 約 50 人の武装青年がカトナヤケ空軍基地を襲撃、武器弾薬を奪取。銃撃戦で 7 人が射殺される、
空軍兵士も 3 人死亡
- 4.24 CWC のトンダマン委員長、インドのガンディー首相とプランテーション労働者の市民権と本国
送還問題で会談
- 4.25 首相、27 日ぶりにインド、ネパールから帰国
- 4.28 4 州議会選挙実施。投票率は 58.9% と低調。4 州とも UNP が勝利し、155 議席中 89 議席を得
て多数派となる。
- 4.1 LTTE、通行中の車両に爆弾を仕掛け、島内各地で 6 人の軍人を含む 39 人が殺害された
- 5.3 第 14 次憲法改正案を議会が絶対多数で可決。国会議員総数を 196 から 225 に変更
- 5.4 カトナヤケ空軍基地襲撃事件に関連して、非合法団体と関係を持っている 3 人の空軍兵士が逮捕
される

- 5.4 キャンディで UNP 州議会選挙候補者 2 人が殺される
- 5.8 ディサナヤケ土地相、ガンディー首相と会い、IPKF の段階的撤去方式について会談
- 5.10 国家治安相、JVP が武装闘争を放棄し、政府が政党活動の合法化を行うとの合意に達したと記者会見で発表
- 5.12 トリンコマリ県で 6 人のインド兵が、LTTE が仕掛けた地雷のために車両ごと爆破され死亡
- 5.12 JVP 委員長ヴィジェヴィーラ、書記長のガマナーナカ、政府といかなる合意に達したこともないと、国家治安相の発表を否定
- 5.15 マータラ県の州議会選挙候補者の自宅を武装青年が攻撃。警官 2 人、自警団員 1 人女性を含む市民 2 人を殺害
- 5.20 UNP の書記長 N.フェルナンド暗殺される
- 5.24 インド軍が LTTE 根拠地を攻撃、36 人を殺害し、50 人が負傷。インド軍側も 10 人が戦死し 21 人負傷
- 5.26 インド陸軍のシャルマ参謀長が来島、大統領と会談
- 5.26 LTTE、北部州でインド兵 25 人を殲滅と戦果を発表、インド大使館は、逆に 23 人の反乱軍を射殺と発表
- 1988 5.26 ヌワラエリアの UNP 演説会場で首相の来る直前に時限爆弾が爆発、2 人が重症
- 5.28 マターレーの USA 候補者が 2 人の支持者とともに射殺され、州議会候補者の殺害は 12 人となる
- 5.31 インドのバント国防省が来島、大統領と会談
- 6.1 政府、選挙妨害者を見つけ次第射殺せよとの命令をラジオで布告
- 6.2 中央州と西部州の州議会選挙実施
- 6.4 バント国防相とスリランカ政府との協議の結果、6 月 7 日から過剰なインド兵と重火器を駐留兵力から削減して部分的に撤退する、とインド大使館筋が言明
- 6.7 第一陣として T-72 型戦車と 2500 人の兵員がスリランカからインドへ撤退
- 6.8 南部州で選挙実施
- 6.11 LTTE、ロイター通信に声明文を出し、パティカロア県で 7 人のインド兵を殺したと主張。さらに駐留インド軍が強化され、13 万を超える軍人が少数民族の居住地を占領していると訴える
- 6.16 LTTE、北部州と東部州の統合をインド軍との停戦条件にすると *Island* 紙に伝える
- 6.16 インド大使館、9 カ月にわたる軍事作戦によるインド軍の損害は、戦死者 477 人、負傷者 1500 人であると発表
- 6.20 「チェックメイト」という名の軍事作戦が北部州で開始。IPKF による本年度最大の作戦
- 6.23 TULF 委員長や書記長など、元国会議員の指導者たち、5 年におよぶインド亡命生活を切り上げ、マドラスからコロンボに帰国
- 6.27 国家治安相がトリンコマリ地域から疎開していた避難民の 90%以上が治安回復に伴って自分の家に帰ったと発表
- 7.4 アヴィッサヴェーラでパトロール中の巡査部長、ペラデニヤの自宅で休養中の巡査部長が射殺される
- 7.5 外相、学生のストライキや JVP の活動などキャンパス内外の不穏な情勢のため閉鎖されたままになっている大学再開のための方策について各大学の学長と話し合い
- 7.6 スリランカにおけるインド軍の死者がパキスタンとの戦争時より多くなっているうえ、LTTE とのゲリラ戦がジャングルで行われるようになって目覚ましい戦果をあげることが困難になったため、インド外務省諜報部 (RAW) の使者がマドラスとジャフナに派遣され、LTTE と交渉を続ける
- 7.8 LTTE のワンニ本部、インド軍の「チェックメイト」作戦が続いている限り RAW と政治的な解決の話し合いはできないと *Island* 紙に伝える
- 7.9 東部州情勢を視察中のインド大使、LTTE がプラバカランとの和平会談に先立って 5 日間の停戦

と5カ月の武器引き渡し期間を要求したと語る

- 7.19 ディサナーヤカ土地相、和平協定に基づきテロリストの武装解除を行うという役割をインド軍が十分に果たしていないと外国人記者団を前に批判
- 7.22 スリランカ軍関係者、7月中旬に少なくとも40人のインド兵が北部と東部戦線で戦死したと語る
- 7.28 インド・スリランカ和平協定1周年を期して大規模な反政府行動が組織されつつあるとして、JVPの組織が強いゴール、マータラおよびハンバントータの3県で72時間の外出禁止令布告。JVPの呼びかけが郵送されるのでスリランカ全土の郵便配達が1週間停止される。北・東部ではインド軍が48時間の外出禁止令布告
- 7.30 83年7月から88年1月の間に民族問題のために陸軍646人、警察286人、海軍37人、空軍27人が戦死
- 8.1 ジャフナ沖のブンドティヴ島にあるLTTEの隠れ家をインド軍が急襲、主要な幹部を捕虜にする
- 8.2 ジャフナ半島ナッルールのLTTEの隠れ家でソ連製地对空ミサイルSAM-7が見つかり、ヘリコプターを軍事作戦に用いるインド軍が憂慮
- 8.5 政府、警察官を3万人に増員するため、年内に5000人採用し、さらに自警団員を8000人新規採用するとの計画を発表
- 8.8 タミル・ナドゥ州警察、LTTEの活動家154人を不法武器保有、旅券違反等の容疑で逮捕
- 1988 8.10 カトマンドゥウに到着したハミード外相、SAARC会議において国内情勢の悪化を理由に、本年11月にコロンボで開催予定の首脳会議をパキスタンに代わってもらうよう要請
- 8.16 警察庁長官、現在およそ900人のJVPメンバーを拘留していると発表
- 8.20 インドのパント国防相、スリランカの治安維持、タミル住民の権益保護、およびインドの安全への脅威除去の3目的が達成されなければIPKFを撤退させないと言明
- 8.23 大統領、誰も87年和平協定を破棄できないし、反対しているタミル人集団はLTTEのみと言明
- 8.25 インド軍とLTTEゲリラとの交戦により、北部州で2万人の住民が難民化したとIsland紙報道
- 8.27 バブニヤ県でインド軍の大佐と2人の兵士がタミルLTTEとの交戦で死亡したと大使館発表
- 8.28 インド軍、バブニヤ県で24時間以内に51人のゲリラ兵を捕虜にし、300台のオートバイを捕獲
- 8.28 ニューデリーから帰任したインド大使、大統領に会見。北・東部州で選挙を実施できると公式報告
- 9.1 駐留インド軍司令官がバブニヤ県の前線基地にて記者会見、LTTEの指令本部を陥落させ、主要幹部100人を殺し、100人を捕虜にしたと語る
- 9.3 8月25日以来、タンガッラ警察署で拘留されていた人権派の弁護士リヤナアラーラッチが死亡
- 9.5 JVPが与党の南部州議会議員をマータラ市で暗殺し、南部各地で6人の党員を殺害したと警察が発表
- 9.8 昨年の和平協定にしたがって、暫定的に北部州と東部州を単一の行政単位にすることを大統領が布告
- 9.8 陸軍、海軍、空軍、警察および自警団組織の防衛費11億6000万ルピーの補正予算案を政府が議会に提出
- 9.9 UNP運営委員会、大統領選挙を総選挙より先にして、12月の第3週に実施する日程を採択
- 9.9 インド政府、北部・東部州の統合決定を歓迎
- 9.12 拷問死したリヤナアラーラッチ弁護士の服喪のため、JVPが全ての商店や事務所の閉鎖を求める
- 9.13 南部の諸都市で交通機能が麻痺状態に陥り、州内の学校も学生管理が困難になり、全て閉鎖
- 9.14 タミル人組織が選挙に参加するよう、インド軍はスリランカ戦線で5日間の一方的な停戦を布告
- 9.16 大統領、テロリズム防止法で起訴されないまま拘留されている全ての女性容疑者の即時解放を命じる
- 9.19 インド軍、停戦期間の5日間延長を発表
- 9.23 インド・パント国防相、停戦期間をこれ以上延長しないと言明、出来るだけ多くのタミル人党派

が武器を捨てて州議会選挙に参加するよう呼びかけ

- 9.26 L.ジャヤティラカ復興・再建相がクリヤピティアの寺院に行く途中、待ち伏せに会い暗殺される
- 9.28 南部州だけでなく、コロomboの5高校でも、学生たちが授業をボイコットして街頭デモ行進を始めた
- 10.2 北部・東部6県庁が閉鎖されているので、全国の県庁で州議会選挙の立候補受付をして欲しいとSLMCが大統領に陳情
- 10.5 EPRLFとENDLFは選挙協定を結び、前者がトリンコマリー、ジャフナ、マンナール、パティカロア、およびアンバラ、後者がバブニヤ、キリノッチおよびムライティブの3県で立候補する
- 10.9 インド軍、マドラスに拘留中だったLTTE幹部のキットゥほか154人をジャフナに輸送する
- 10.10 北部州の3県では、州議会選挙の無競争当選が確定。LTTEがアヌラダプラ県北部のシンハラ農村で子供18人と女性13人を含む村民47人を虐殺
- 10.12 大学だけでなく、全島の学校を10月25日まで閉鎖する命令。キャンディには外出禁止令布告
- 10.14 各地で政治的な殺人が続き、外出禁止令が出されたり、商店が閉鎖されたり、停電や断水が報告されたりで、正常な市民生活が攪乱されている
- 10.20 国家治安相、政府軍が1週間だけ破壊活動分子の鎮圧作戦を停止すると発表
- 1988 10.22 スリランカ仏教3宗派の4僧伽の最高指導者が連盟で大統領に書簡。直ちに議会を解散し、選挙管理政府による大統領選挙と総選挙を行うよう求める
- 10.25 JVPは、ポスターやピラで和平協定に反対するため、全ての仕事をやめ1家族から2人が街頭デモに参加するよう求める。政府は外出禁止令布告でこれに対抗、コロomboのUNP集会の爆発物で7人死亡、70人負傷
- 10.27 大統領、7党連合代表と会い、JVPを議会政治に参加させられたら国会を解散して辞任すると答える
- 10.29 7党連合の代表、前夜の話し合いでJVPを説得できなかったことを大統領に報告
- 11.1 クルネーガラ県バンナラ陸軍訓練基地が約100人の武装青年に襲撃され447丁の最新式武器と爆薬を奪われる。応戦した陸軍の死者5人、犯人側の死者4人
- 11.5 大統領、バンダラナイケ元首相と会談。JVPが武器を捨てれば総選挙を実施すると約束
- 11.6 ペルワッタ収容所から拘留者約100人が脱走。ウェリカデ刑務所では暴動
- 11.9 インドの市民権を持たない全てのタミル人にスリランカ市民権を与える法案が議会で可決
- 11.10 大統領候補者3人で締め切り。JVPは地下放送で和平協定に抗議するデモへ市民の参加を呼びかける。軍が発砲して15人死亡、25人負傷、2000人を逮捕
- 11.13 南部州で政治的対立のために13人が殺害される
- 11.14 東部州でバスが襲われ、28人死亡、3人負傷
- 11.15 政府軍、マターレー県で政府に抗議する3000人のデモに発砲。5人が死亡、17人が負傷
- 11.17 SLMP集会で手榴弾により2人が死亡、85人負傷
- 11.19 北・東部州議会選挙
- 11.20 北・東部州議会選挙開票結果、EPRLF、SLMCが各17人、UNP1人当選、
- 11.23 鉄道やバスの運行が妨げられ、公共交通機関が麻痺状態に陥る。警察はJVPが18人を射殺したと発表
- 11.27 北・東部州以外の行政機関が麻痺状態に
- 11.28 北・東部州首相にP.ベルマルが選出される
- 11.29 上級公務員協会、大統領に書簡。脅迫状と軍の要請の板挟みで公務の執行が困難と訴える
- 11.30 10月15日から11月末までに国内の政治対立で約500人の死者が出た模様
- 12.1 カダワタのSLMPの集會に手榴弾が投げ込まれ、副委員長を含む4人が死亡、60人が負傷
- 12.3 大統領、テレビ放送を通じて12月20日に議会を解散し、2月15日に総選挙を実施すると発表

- 12.5 54人のEPRLFとENDLFの北・東部州議会議員が、トリンコマリーで州知事のN.セナヴィラトネ中将立会のもとで憲法の規定通りの宣言をする
- 12.9 国家治安省、5野党代表団がバブニヤ県でLTTEと会見したと議会で暴露
- 12.11 キャンディ県のポーガンバラ刑務所を10人の武装ゲリラが襲撃、6人の仲間を脱獄させる
- 12.12 大統領、JVPと戦うために香港のグルカ兵部隊を派兵するよう英国に求めた事実を明らかにする
- 12.12 JVP、17～19日に全国民の外出禁止令を布告
- 12.13 JVP 党員と見られる武装青年集団、ヴェリカデ刑務所を襲撃し、政治犯221人の脱獄を助ける
- 12.13 EROS 委員長、議会選挙に参加することを表明
- 12.15 **第15次、16次の憲法改正案**
- 12.16 SAARC 選挙監視員来島、3候補に会う
- 12.19 **大統領選挙**、投票率は55.3%
- 12.20 大統領選挙開票の結果、UNP プレマダーサ候補が256万票(50.43%)を獲得し、次期大統領に決定
- 12.23 議会解散により、非常事態布告も1月15日まで
- 1988 12.24 選挙後の暴力事件を避ける外出禁止令が解除
- 12.26 亡命していたTULF、総選挙に立候補声明
- 12.30 2月15日総選挙の立候補受付始まる
- 1989 1.1 ラナシンハ・プレマダーサ首相、2日にキャンディの仏歯寺で行われる式典において、行政権を持つ2代目の大統領に就任すべく辞表を提出
- 1.2 在コロombo・インド大使館、IPKFの2個大隊4000人を近日中に撤退させると発表
- 1.6 LTTEとJVPを除く主要党派、総選挙の立候補届を完了
- 1.7 政府与党支持の仏僧がマータラ県デクウェラで射殺されたと政府軍発表
- 1.10 プレマダーサ大統領、12日から68カ月ぶりに非常事態宣言を解除。再び宣言しなくても良いことを切望する、と述べる。非常事態宣言により、裁判なしに拘束されていた政治犯の釈放も進めると言明
- 1.11 インド、ガンディー首相、カンニャクマーリの政治集会で、スリランカ情勢が正常化すれば、インド軍は撤退すると演説
- 1.11 TULF、インド・スリランカ和平協定の完全実施までインド軍の駐留を望むと選挙で訴える
- 1.12 LTTE、2月15日の総選挙のボイコットを呼びかける声明文を発表
- 12.17 LTTE(北・東部州)とJVP(南部州)との待ち伏せ攻撃で、2人のインド軍兵士と6人のスリランカ軍兵士が死亡。16人の市民が殺害される
- 12.17 12人のJVP兵士がモラトゥワで2カ所の銀行支店を襲い、700万ルピーの現金を強奪
- 1.23 JVPに射殺されたSLFPの候補者とその支持者17人の葬儀の帰りに、SLFP候補者とその支持者3人が殺害される
- 1.26 UNP、SLFP、USAの支持者44人が総選挙に反対する勢力によって殺害される
- 1.29 コロンボ近郊の3警察署がJVPらしき武装勢力に襲われ3人の警官が殺され、武器弾薬を奪われる
- 2.3 東部州のアンバラ県で、子供を含む11人のシンハラ入植民がLTTEに殺された、と治安当局が発表
- 2.5 ポロンナルワ県ヒングラゴダ町で開催中のSLFP選挙集会で4個の爆弾が投げられ、35人が負傷
- 2.11 JVP過激派武装集団が、コロombo市ボラー地区のUNP集會に爆弾を仕掛け、また警察署を襲撃して34人を殺害する
- 2.12 国家治安省発表、アヌラダプラ県のシンハラ農村を約50人のLTTE兵が襲撃、僧侶を含む34

人の村民を射殺。アンバラ県のムスリム農村でも、同様に6人を射殺。他方 JVP は SLFP 国会議員候補を含む9人の政治家とその支持者を射殺

- 2.14 各政党の政治運動員19人が投票日前日に JVP に射殺されたと警察発表。夜間外出禁止令布告、選挙期間中に候補者14人を含む1140人が殺害される
- 2.15 **12年ぶりの総選挙**。投票日に67人が殺害される。投票率は63.3%と選挙管理委員会が発表
- 2.16 **開票結果発表、UNP125議席、SLFP67議席獲得**
- 2.19 20人のJVP 党員がアヌラーダプラ県の農村において、「黒猫」と称する武装組織に射殺される
- 2.22 インドのゴパラサーミ上院議員が密かにスリランカのジャングルへ渡航し、プラバカランと会った事実が公表される。タミル・ナードゥ州議会で州首相が答弁
- 2.22 警察官を増員して、JVP を鎮圧すると閣議で決定
- 2.25 本日までの1週間に少なくとも25人のタミル青年が党派間の戦闘で死亡した、と報道される
- 2.26 キャンディ市の観光ホテル前で、小学生が運んでいたと見られる爆弾が爆発し7人が死亡

- 1989 2.27 ポロンナルワ県ボラウェワ村で、38人のシンハラ人が武装タミル集団に襲われ、射殺もしくは惨殺される10人以上が負傷
- 2.27 JVP、アヌラダプラ県内でハルタルを呼び掛け
- 2.28 インド政府、1987年7月から89年1月までにスリランカに派遣した平和維持の費用として17億4000万ルピーを支出した、この期間のインド兵の死者は784人、負傷者は2013人である、とパント国防相が議会で報告
- 3.1 LTTEと見られる集団が、チエティックラムとマドゥとの間の鉄道を爆破したため、コロンボとタライマンナール間の列車の運行が停止される
- 3.4 LTTE 政治局がインド政府との交渉を拒否し、イーラム独立を目指す戦いを続けるとの声明をマドラスで発表。またこの声明では、ムライティブ県におけるインド軍とスリランカ軍との合同作戦のため、2日間で100人以上のタミル村民が殺された、と述べる
- 3.5 インド軍、ムライティブにおけるLTTEの拠点を3カ所攻撃し、約50人のゲリラ兵を殺害した、と発表
- 3.7 EROSの国会議員13人は、第6次憲法改正を撤回しなければ、議会開会式をボイコットすると主張
- 3.8 コロンボ大学の前学長、乱入したJVP 党員と見られる犯人に執務室で射殺される
- 3.9 大統領、第9回議会開会式の演説で、交渉による平和の回復、公務員規律向上および行財政改革による貧困を除去する計画の3点を強調
- 3.11 北・東部州のペルマル州首相、インドを訪問、今回の訪問期間中にガンディー首相、ラオ外相、タミル・ナードゥ州カルナニディ州首相らと会見
- 3.12 スリランカ政府軍、南部州を中心とする作戦により、1200人のJVP 党員容疑者を検挙し拘留
- 3.23 外相、19日から22日にかけてアヌラダプラ県などで140人のシンハラ人青年が殺害された事件に警察の関与がないか調査すると議会で回答
- 3.24 ムライティブ県における戦闘で、LTTE が声明を発表。20人以上のインド兵が戦死し、50人が負傷したが、LTTE 側の戦死者は6人に過ぎず、そのかわり300人の非戦闘員が殺され、数百人が負傷したと主張
- 3.28 タミル・ナードゥ州のマンガバン難民キャンプに収容されていた255家族のスリランカ・タミル人の難民が2隻のインド船に分乗して帰国
- 3.29 ウヴァ州で7人のSLFP 党員がJVP の軍事組織と見られる「愛国人民運動」(DJV) に射殺される
- 3.31 過去11日間、ジャフナの県庁や銀行等の公的な機関は閉鎖されたままである、と *Daily News* 紙が報道
- 4.1 大統領、ラジオ放送を通じてLTTE と JVP の党員に、和平提案を行う。内容は(1)政治犯の無条件恩赦(2)国会における代表権(3)テロリズム防止法の廃止(4)インド軍の撤退(5)反政府の活動家を殺害する武装自警組織の非合法化
- 4.5 JVP、1971年4月反乱の8周年記念日として、すべての事務所や店舗の所有者に1日休業するように要求
- 4.5 北部のワンニ県においてLTTEの仕掛けた地雷の爆発とその直後の攻撃により将校を含むインド兵15人が死亡。LTTE 側の戦死者は20人と報道
- 4.7 南部州のハンバントータ県において地雷爆発が相次ぎ、警官11人が死亡し、3人が重傷。治安当局はJVP の軍事組織が仕掛けたものと見ている
- 4.8 本年1～3月にテロリズム防止法によって検挙され、現在も拘留されているJVP 党員の数は722人であり、キャンディ県がもっとも多いと国防省発表
- 4.10 スリランカ軍とインド軍はともに、シンハラ・タミル正月の始まる12日から一週間の一方的停戦を実施すると発表、LTTE と JVP に平和を呼び掛け、この期間に投降するならば恩赦を与えると発表
- 4.11 大統領宛の公開状で、LTTE が停戦を拒否
- 4.13 政府、公開状でLTTE に平和会談を提案
- 4.13 トリンコマリ市市の市場で停車中の乗用車に仕掛けられた時限爆弾のため、シンハラ人を中心に住民45人とインド軍兵士7人が死亡。インド軍はLTTE が仕掛けたと見ているが、スリランカ政府の外相はEPRLFの犯行であろうと語る

- 1989 4.15 **大統領宛の返書で、LTTE が和平会談を受諾**
- 4.15 EPRLF のパドマナーバ書記長、前日の外相談話に反論、プレマダーサ政権が LTTE に武器を与えて IPKF と戦わせていると非難
- 4.16 大統領秘書、ロンドンの LTTE 事務所にスリランカ国内で開催する和平会談への LTTE 側代表を指名するよう要請
- 4.17 LTTE、アントン・パラシガムを和平会談の代表に任命したとのメッセージを大使館に伝える
- 4.17 インド外務省、LTTE とスリランカ政府との和平会談を歓迎する、とのスポークスマン談話を発表
- 4.22 4カ所で計6人の UNP 支持者が射殺される
- 4.22 ゴール県のピティガラにおいて、21日に警官と兵士が各1人射殺されたが、同じ場所で JVP 党員と思われる青年の首なし死体が発見される
- 4.22 大統領、JVP との和平会談のためならいつでもどこへでも出かけると UNP の会議で声明
- 4.26 LTTE の代表であるパラシガム夫妻がロンドンから到着、VIP 扱いの歓迎を受ける
- 4.27 JVP は国家による弾圧と物価高に抗議して全国各地でストライキと一斉休業を呼び掛ける
- 5.1 インド外務省、クマール・シン次官、首相特使として来島。LTTE との和平会談の進め方についてスリランカ政府の説明を聞く
- 5.1 バブニヤのインド軍捕虜収容所が襲撃され、46人の LTTE グリラが脱走。4人の捕虜がその場で射殺され、3人が再逮捕される。6人のインド兵が死亡
- 5.1 ジャフナ県知事 LTTE の狙撃兵により暗殺される
- 5.3 ヨーガラ・ナムを代表する9人の LTTE 交渉団がコロンボに到着
- 5.4 LTTE 交渉団、大統領に表敬訪問
- 5.6 南部州と中央州の各地で、僧侶を含む5人が電柱に縛られ、射殺される。遺体に「裏切り者に対する処刑」と書いた紙がとめられていた
- 5.10 反政府活動の温床として15ヶ月間閉鎖されていた大学が再開
- 5.11 LTTE とスリランカ政府との政治会談が始まる
- 5.11 JVP ヴジェヴィーラの心臓治療のため、ロンドンへの渡航を援助する用意ありと政府発表
- 5.13 ムライティブ県における戦闘でインド兵18人が死亡と LTTE が発表
- 5.14 インド大使館、ジャフナ近郊における LTTE との戦いで、10人のインド兵が死亡と発表
- 5.17 LTTE が和平会談後の公式コミュニケでアムネ스티・インターナショナルの報告書を引用し、インド軍は平和維持軍ではなく、占領軍であると述べた点に対し、インド大使が反論
- 5.18 アンパラ県サマントライで、ムスリム住民とタミル住民の対立が激化、50戸以上が炎上
- 5.19 本年だけでも2500人の政治的殺人を行ったとして治安部隊が鎮圧につとめている JVP は、ウェサックの一週間一方的に停戦すると発表
- 5.21 PLOTE のバブニヤ基地を LTTE が襲撃し、PLOTE に40人、LTTE に11人の死者
- 5.22 インド製品やインド系銀行などのボイコット運動を JVP が呼びかけ
- 5.26 州政府の権限を強化するため、州議会法改正案が134対66で可決
- 5.28 陸軍司令長官、インド軍の撤退後に備えて東・北部州を防衛するにはスリランカの現有兵力3万2000人を倍増する必要があると語る
- 5.29 陸軍が、南部を中心に反政府武装勢力の検束に力を入れ、200人以上を拘留する、「黒猫」、「緑の虎」、「サソリ」、「ライオンのたてがみ」、「コブラ」、「プラー」等の私的な武装組織が次々に生まれ、警察や正規軍の別働隊のような形で JVP 狩りをし、その場で処刑する事件が各地で発生
- 5.29 LTTE 代表団は、方針協議で根拠地へ帰る
- 6.1 大統領、外国軍駐留下で SAARC 首脳会談を主催できないのでインド軍に7月末に撤退するよう求める、と演説
- 6.2 インド大使、撤兵要求の通知を受けていないと述べる。EPRLF は、北・東部州政府が人民を自力で保

- 1989 護できるようになるまで、インド軍の駐留が必要と声明
- 6.3 ティラカトナ外務次官、大統領の撤兵要求を携えニューデリー到着。カルムナイでインド政府寄贈のバス3台が放火される
 - 6.5 ガンディー首相、ティラカトナ外務次官と会見。インド軍の撤退について協議して取り決めるよう伝える
 - 6.9 外相、7月末までの撤退が困難というインド政府の回答を議会で報告
 - 6.9 ティッサマラマ警察署が襲われ、武器を奪われる
 - 6.10 北・東部州議会で、インド軍撤退はスリランカ・タミル人の大量虐殺を招く恐れがあると反対決議
 - 6.11 LTTE 第二次交渉団のバラシンガム夫妻がロンドンから到着
 - 6.12 インド外務省報道官、7月末撤退を一方的かつ非現実的な期限と拒否、協議による撤退を主張
 - 6.13 反インド運動が激化、在住インド人の多くは家族を帰国させて大使館に近いタージホテルに避難
 - 6.14 ガンディー首相、インド軍撤退時期は1987年7月の和平協定の完全実施に依存すると語り、北・東部州への権限委譲がいまだに不十分であると指摘
 - 6.14 キリノッチ県の戦闘でインド兵12人殺害とLTTEが発表
 - 6.16 LTTEと政府の第2次交渉開始
 - 6.19 LTTE、北・東部州がインド軍の支援を得て4505人の青少年に軍事教練を強要していると非難
 - 6.20 政府は、国内の秩序回復のため非常事態宣言を布告。外相は年初から本日まででに政党活動家650人、公務員120人、警官91人、軍人50人、市民740人、その他54人、計1705人が殺害されたと国会に報告
 - 6.23 大統領、インド軍は7月末に撤退できなければ、兵舎内に止まるべきだと演説
 - 6.25 キャンディ選出与党議員ダニエルが射殺される
 - 6.25 外相、インド政府の非妥協的態度のためSAARC外相会議に欠席するとパキスタンに通知
 - 6.27 政府、7月3日に予定されていた、合併州の可否を問う東部州における住民投票を90年に延期
 - 6.28 政府とLTTE、敵対関係の停止に合意と発表
 - 6.29 SAARC外相会議、無期限延期
 - 6.29 大統領、ガンディー首相にインド軍によるLTTEへの攻撃をやめるよう要請したと公表
 - 6.30 ガンディー首相、攻撃の停止はLTTEの方針次第と回答
 - 7.1 非常事態宣言に基づき、政府軍が南部州を中心に反政府分子の取締強化を行い3200人を検挙。インド軍は北部州に外出禁止令を布告。LTTE鎮圧作戦
 - 7.2 前日の作戦で、LTTEの死亡者70人以上、インド軍の死者12人と発表、LTTEはインド兵の死者を93人と発表
 - 7.5 前日から病院、銀行がストを始め、政府は全ての学校を無期限に閉鎖、国内報道機関に対する検閲が実施される、マハーオヤ川の下流に13体の首なし死体が漂着したとSun紙が報道
 - 7.6 外国報道機関も検閲の対象となる。集会は禁止され、治安部隊に法秩序を乱す現行犯の射殺が命じられる
 - 7.7 6月1日以来の大統領とガンディー首相の往復書簡全文がスリランカ議会で公表される
 - 7.8 2月の総選挙で13議席を獲得した「イーラム民主戦線」(EDF EROSの議会交渉団体)は、議会政治に参加することを決め、大統領に通告
 - 7.12 ガンディー首相、インド軍の撤退問題を打開するために、大統領宛の書簡を秘書に託してコロンボに派遣
 - 7.13 大統領、スリランカの主権尊重を求める返書とともに往復書簡を公表
 - 7.13 TULF書記長のアミルタリンガム、同党幹部のヨーゲスワラン前議員とともに暗殺される。3人の犯人もその場で射殺されたが、LTTE党员と見られている
 - 7.16 ガンパハ県に外出禁止令布告

- 1989 7.16 PLOTE のマヘシュワラン書記長、暗殺される
- 7.19 ポーヤディのカタラガマ寺院における祝祭の最中に手榴弾が投げられ、13人死亡、60人負傷
- 7.20 法相、6月21日から7月15日までの25日間に政治抗争により南部で472人、北部で70人が殺害されたと報告し、非常事態宣言の延長承認を求める
- 7.22 前日来島したパキスタンのカーン外相、SAARACの将来について大統領と話し合い
- 7.23 主任検閲官である放送公社総裁が射殺され、後任が見つからないので、報道の検閲が解除される
- 7.23 ブラバカラン死亡説が伝わる
- 7.24 コロンボで僧侶5000人が反政府のデモ行進
- 7.26 北・東部州におけるLTTEの軍事組織が攻勢に出て、過去48時間以内にインド兵37人が死亡
- 7.27 政府、インド軍撤退要求の混乱を恐れ、本日の深夜から29日まで外出禁止令布告。緊急閣議でインド軍の段階的撤退を協議するため外相をニューデリーに派遣することを決める
- 7.29 **インド軍がトリンコマリから象徴的な撤退**
- 7.31 前日までの56時間の外出禁止令に違反し、インド軍の駐留に反対する示威行為で計193人が殺害される、北部の戦闘では、インド兵とLTTE兵が計38人死亡
- 7.31 ニューデリーで両国外相が撤兵の協議を継続
- 8.1 大統領、統一スリランカ人民党セーナヤカ委員長の斡旋で、JVPの政治局員と秘密会談をして、妥協点を模索している、と*Times of India*紙が報道
- 8.2 コロンボ市内の4カ所で爆弾が投げられる事件があり、8時から全国に夜間外出禁止令布告
- 8.4 先週末に多くの市民が殺害されたことに抗議し、DJVとJVPがハルタルを呼びかけ、交通機関が麻痺し、ほとんどの官公庁や商店が休業
- 8.5 ニューデリーでの滞在を延長してインド軍の段階的撤退について交渉を続けていた外相とハミード高等教育相とがインド政府との合意に達しないまま帰国、大統領に報告
- 8.6 JVP、ポスターなどでインド軍の撤退を要求して、7・8日の両日を「外出禁止」と告示
- 8.8 外相、1週間にわたるニューデリー会談における対立点3点を議会に報告
- 8.9 タミル人実業家のグナラトナム射殺される
- 8.10 シン対外問題國務相、インドに避難したスリランカ・タミル人の総数は13万4053人であり、そのうち4万5166人が帰国したと下院に報告
- 8.12 ジャフナ県ヴェルヴェイトライで、8月2日にインド軍が過剰な軍事作戦を行い、51人の死者、70人の負傷者を出す。170の家屋や商店などが被害を受ける
- 8.13 JVP、公営テレビ放送が政府の宣伝機関化したと、職員の辞任を要求、有名な放送記者が射殺される。14日、JVP党員を含む7人殺害される
- 8.15 JVPがハルタルを呼びかけ実行される、5日目の病院ストライキがコロンボから各地に拡大
- 8.17 LTTE、マンナール島のインド軍基地を攻撃。インド兵24人死亡、11人負傷と大使館が発表
- 8.18 大統領特使のウィーラコーン、インド訪問
- 8.23 コロンボ近郊で、63人が射殺され、24死体が遺棄された
- 8.24 法相、15日までの1ヶ月間に840人が殺害されたと報告
- 8.25 LTTE、ブラバカランの生存を示すビデオを発表
- 8.27 LTTE、インド軍が2月に6000人のタミル人を殺害したと国連少数民族保護小委員会に報告
- 8.28 JVPの呼びかけた1週間のハルタルが始まる
- 8.31 工業相、政治的困難の打開のため、近く全政党内閣を開催すると閣議決定を発表
- 9.1 全政党内閣の開催期日は9月11日に決定
- 9.1 コロンボ南部のゴールロード沿いに半ば焼け焦げた遺体が少なくとも12体、放置された状態で発見される

- 1989
- 9.2 内務省、軍事以外の民生部門でインド軍の指示を受けてはいけぬ、と各県庁に通達
 - 9.3 アヌラダプラ県ティラバナ村において、特別治安部隊工作員の家族が住む家に放火される
 - 9.4 本日より徐々に病院、銀行、郵便局、鉄道、公営バスなど昼間の業務は正常化される。しかし、北・東部州以外の学校は全て閉鎖されたまま
 - 9.8 国会に議席を持つ主な政党は、大統領の呼びかけた全政党会議に参加することを表明
 - 9.11 モラトワ大学のバトワダヴィタナ学長、執務室で射殺される
 - 9.13 21 政党が参加する全政党会議が開催される。当日まで期待された JVP の参加は実現しなかった
 - 9.16 13 日に 3 人の陸軍兵士の家族 15 人が殺害された。その報復として JVP を支持しているといわれるキャンディ近郊 3 農村の住民約 150 人が殺害され、家屋焼失
 - 9.18 7 月からの協議の結果、インド軍の撤退に関して両国政府が妥協点に到達し、89 年末の撤兵を取り決めた協定を締結する、これに先立ち、インド軍は州政府の志願兵と合同作戦で LTTE の根拠地を壊滅させたと発表、戦死者はインド兵 5、志願兵 2、LTTE40
 - 9.21 インド外務省高官、撤兵期限に縛られない、と示唆
 - 9.21 政府、JVP との和解を図るために、9 月 27 日朝 6 時を期して 72 時間治安部隊の軍事作戦を停止すると発表
 - 9.21 ジャフナ医学部解剖学部長であり、熱心な人権擁護活動家のティラナガマ射殺される
 - 9.24 停戦予告に対する JVP からの応答はなく、基幹産業である茶園やゴム園への攻撃が激化している
 - 9.28 IPKF 司令官、カルカト中尉 87 年 10 月以降の死亡者を発表。インド軍の死亡者は将校 49 人を含む 1109 人、負傷者 2834 人。LTTE の戦死者は 2592 人、負傷者は 1159 人、歩書 1587 人
 - 9.30 27 日から 72 時間の停戦は一方的なものに終わったが、政府はさらに 72 時間の恩赦と停戦を続けると発表
 - 10.2 LTTE とスリランカ政府の第 3 次交渉始まる
 - 10.3 政府、6 日間にわたる JVP に対する一方的な停戦を本日で終了。工業相が停戦は失敗と語る。76 人の市民が殺害され、1149 人が投降する
 - 10.3 JVP のガマナーヤカ書記長、1 日に 20 人の命を奪っている政府の大量虐殺を停止させるよう、国連に介入を要請する事務総長宛の書簡を報道機関に公表
 - 10.5 ペラデニヤ大学構内に 18 人の青年の死体放置
 - 10.6 「中央山地の鷲」を自称する武装集団、キャンディ近くの村で 22 人の JVP 党員や支持者を殺害
 - 10.6 インド政府、9 月 20 日の停戦協定以来、LTTE の協定違反は 34 県に達したとスリランカ政府に報告
 - 10.6 大統領府、JVP のヴィジェヴィーラ委員長に対する逮捕状が無効であり、彼は自由な市民である、と発表
 - 10.8 テロリズム防止法によって検挙され、現在も拘留中の反政府活動の被疑者数は 7200 人と議会に報告
 - 10.11 カルタラ県のマトウガマ道路沿いに JVP 党員と見られる青年 80 人の黒こげ死体が遺棄される
 - 10.12 10.12 全政党の全体会議で大統領が、SLFP のバンダラナイケ委員長が提案した青年層の反乱を引き起こす社会問題の調査委員会設置を発表
 - 10.14 コロンボで、11 月に開催予定の SAARC 首脳会談を来年 3 月まで延期するよう、インド政府が要請
 - 10.15 西部州における小学校の授業が再開される
 - 10.15 大統領に招かれた国際赤十字人権問題調査団が到着
 - 10.19 法相、反乱分子が 14 日までの 4 週間に 43 人の政治的殺害、852 人の殺人、21 人の治安要員を殺害を犯したと議会に報告し、非常事態宣言の延長要請
 - 10.23 アンバラ県のインド軍が全面的に撤退を完了する
 - 10.27 コロンボ紅茶生産貿易協会代表、暴動の激化によって茶園の生産が阻害され、前年の生産量 22 万 6000 トンから 18 万トンに減る見込みと語る
 - 10.29 LTTE、インド軍が EPRLF のタミル国民軍を援助しているので、平和委員会に参加しない、と主張

1989 10.30 SLFP、今後全政党内閣に不参加しないと決定

- 11.3 JVP、大統領のマータラ訪問に反対して、住民に3日間の外出禁止令を呼び掛け
- 11.3 大統領、反政府分子による破壊活動の結果、政府や国民の財産 89 億ルピーが失われたと述べ、武器ではなく話し合いによる解決を、と訴える
- 11.4 北・東部州のペルマル州首相、2万人のタミル兵を国軍に3年間で採用する案が認められたと語る
- 11.5 LTTE 部隊約 500 人がアンバラ県の EPRLF と TELO の軍事キャンプを襲撃、44 人を殺害し、90 人を捕虜にした
- 11.6 南部や中央産地で夜間外出禁止令の時間帯に 100 人以上の青年の死体が人目に付く道路に遺棄される。死体は両手を縛られた射殺され、古タイヤで焼かれるなど惨殺の跡
- 11.7 7月27日以来の外出禁止令が解除される
- 11.12 LTTE 部隊 250 人がアンバラ県の EPRLF と TELO の軍事キャンプを襲撃、22 人を殺害、LTTE 側も 16 人死亡、
- 11.12 JVP ヴィジェヴィーラ委員長、治安部隊によりキャンディの茶園で逮捕され、コロンボへ護送される
- 11.13 **ヴィジェヴィーラ JVP 委員長、政治局員に射殺される。**遺体は直ちに火葬され、埋葬されたと外相が説明
- 11.14 JVP ガマナーヤカ書記長、射殺される
- 11.17 アンバラ県の4警察署を TNA が襲撃。政府軍 18 人 TNA 軍 25 人の死者
- 11.23 アンバラ県で1万4000人以上の避難民が出る
- 11.25 90年に警察官を2万5746人から3万5000人に増員
- 11.30 インド外務省、政権交代は和平協定に影響を与えないと確認した、と外相が語る
- 12.1 北部のタミル武装組織間の戦闘で16人、南部の政府治安部隊による JVP 掃討作戦で17人が死亡
- 12.2 空軍ヘリコプターが南部州と中央州の JVP 党員に投降を勧告する文書をまき、ラジオ放送も4日までに出頭すれば安全と恩赦を保証すると呼びかけ
- 12.5 シンハラ人の反政府分子、恩赦の期限までに395人が投降し、ほかに16人が射殺されたと政府発表
- 12.9 「中央山地の鷲」が31人の JVP 党員を殺害
- 12.11 南部で JVP が71人を殺害、バス60台を破壊
- 12.13 パティカロア県の支配をめぐり、LTTE と EPRLF とが激しい戦闘。数十名の死者を出す
- 12.13 非常事態宣言下で司法手続きなしの処刑が行われ、月1000人以上の死者を出した。とアムネスティ・インターナショナルが報告
- 12.15 LTTE のバラシンガムとヨーガラトナ代表、タミル・ナードゥ州のカルナニディ州外相と会談
- 12.17 LTTE のバラシンガム、マドラスで記者会見。民族問題の恒久的な解決まで武力を放棄することも分離独立の目標を捨てることもないと言明
- 12.19 LTTE による前日の記者会見の内容は、スリランカ政府関係者にショックを与えている。LTTE はアンバラ県とパティカロア県の武力制圧に成功し、タミル国民軍から没収したインド製の武器をスリランカ政府が要求しても引き渡すことを拒んでいるためである
- 12.19 インドのメートートラ大使、インド・スリランカ友好条約締結に必要な作業が両国で進んでいると述べる
- 12.20 LTTE、選挙管理委員会から政治団体として認定を受け、「解放の虎人民戦線」の名称で政治活動をする
- 12.21 ハンバントータ県の路上に射殺された青年の死体170以上が遺棄されていたと AP 電が報道
- 12.23 多数の武装した LTTE 兵士が南インドへ渡航してきたとラマムルティ州会議派委員長が語る
- 12.26 155人の EPRLF 兵士がスリランカ陸軍に投降
- 12.28 JVP の最後の政治局員で軍事作戦の責任者だったフェルナンドが検挙後に死亡

1989 12.28 インド外相、IPKFは90年3月に撤兵完了と発表

12.29 IPKF 撤退直後のバブニヤ県でEPRLFとLTTEの戦闘が始まり、220人以上の死者

12.30 反政府の落書きをしたコロンボ大学20職員逮捕

- 1990 1.2 ペルマル北・東部州首相、インド軍早期撤退計画に反対するためニューデリーに出発
- 1.2 LTTE と TNA、ジャフナで衝突し、TNA 側に 61 人の死者
- 1.4 外相、インドによる 1990 年 3 月末までの IPKF 撤退通知を一方的とし、協議のためニューデリーに出発。スリランカ政府は、2 月 4 日までの撤退を要求
- 1.7 タミル・ナードゥ州首相 EROS 指導者とマドラスで会談
- 1.9 JVP の政府転覆計画に備えて、職場・大学などでのストライキ・デモなどいっさいの政治活動を禁止すると政府発表
- 1.9 ジャフナで LTTE と IPKF 軍が衝突。インド兵 2 人、LTTE 5 人死亡
- 1.12 スリランカ外相とインド外相が会談。スリランカ外相は IPKF の 1 月 31 日までに撤退することを要求
- 1.13 インド外相、インド・スリランカ友好条約の調印は来月行われ、両国は敵対するタミル諸党派の停戦に協力すると述べる
- 12.14 LTTE の政治団体 PFLT、最初の会合をキリノッチで開催
- 1.16 政府、閉鎖されていた 6 大学を 3 年ぶりに再開
- 1.18 外相、東部州と北部州の合併に関する住民投票は 6 月に延期と発表
- 1.21 北・東部州首相、タミル・ナードゥ州首相に IPKF 撤退について再考を申し入れ
- 1.22 LTTE と IPKF、ENDLF、ジャフナで衝突
- 1.23 21 日逮捕された JVP 活動家によると、JVP は指導者不在で混乱し、資金も不足している
- 1.25 法相、89 年 12 月 15 日から 90 年 1 月 14 日までに警官・治安部隊の 101 人が死亡したと報告
- 1.28 インド高官と交渉中のランジャン外相、3 日間の討議を終える。タミル人への権限委譲、インド・スリランカ友好条約、IPKF のスリランカ撤退、が議題
- 1.30 政府、インド・スリランカ友好条約草案に特定条項の留保を求め、インドはそれを了解
- 1.30 LTTE、SLMC に対して東部州で政治活動をしないよう警告
- 1.31 LTTE はジャフナ市民の支持を得ており、市民は IPKF の撤退を希望していると LTTE が発表
- 2.1 国務相、東部州の危機について複数のムスリム指導者、LTTE 政治局員との緊急会談を開き、暴力の中止と捕虜釈放で合意を得たと発表
- 2.2 LTTE が封鎖したジャフナ県チェバカッチェリ警察署が 6 年ぶりに再開
- 2.4 独立記念日祝典、パティカロアでの記念祝典が LTTE の脅威により中止
- 2.6 インド政府、スリランカ武装タミル人の潜入と武器の密輸を阻止する監視塔をタミル・ナードゥ海岸に設置したと *Hindu* 紙が報道
- 2.6 EPRLF、TNC を脱退して独自の道を歩むと発表
- 2.6 アンパラ県のジャングルで LTTE と TNA が交戦、双方で 60 人死亡
- 2.8 LTTE、TNA のジャフナ入境を禁止
- 2.8 SLMC によると、IPKF 撤退後の東部は無政府状態でタミル・グループが対立している、イスラム教徒は暴力の対象となっている
- 2.9 2 月 14 日開催予定の APC に SLFP、MEP、USA は欠席を表明
- 2.10 政府、SAARC サミットがモルディブ開催の場合、欠席すると発表
- 2.11 政府、全国で 6700 人以上の JVP 被疑者を拘束中と発表
- 2.13 タミル・ナードゥ州首相、LTTE に武装放棄を要請
- 1990 2.14 大統領、APC を召集。非常事態宣言の緩和、投降者受入委員会、反政府ゲリラ作戦停止などの大統領委員会による 51 項目提案に出席者大方合意
- 2.14 IPKF、拘留中の青年 700 人を 2 月下旬までに両親のもとへ返還すると発表

- 2.17 タミル・ナードゥ州首相、北・東部州首相の辞職と州議会の新選挙を望むと語る
- 2.18 リチャード・デ・ソイザ記者、自宅付近で誘拐され、翌日コロボ近郊で遺体が発見される
- 2.19 LTTE、もし IPKF が 3 月 31 日までに撤退しなければ、インド軍を攻撃するだろうと発表
- 2.22 法相、90 年 1 月 15 日からの 1 ヶ月間で 111 人が殺害されたと発表
- 2.23 大統領、LTTE 代表団と討議。すべての民族は同一の権利・機会を享受し、それぞれの民族社会・経済の進歩は妨げられないと言明
- 2.27 LTTE、IPKF 撤退後のトリンコマリー市内に駐屯、市内を掌握中
- 2.28 マドラスからの通信によると、タミル・ナードゥ州首相の斡旋によるスリランカのタミル諸党派間の和平交渉は LTTE と EPRLF の合意が得られず頓挫
- 2.28 LTTE、北・東部州の安全が確保されるまで武装解除を拒否すると発表
- 3.1 **ベルマル北・東部州首相、イーラム国の独立を一方向的に宣言**
- 3.2 北・東部州の独立宣言に野党・インド政府は反対を表明
- 3.3 ベルマル前北・東部州首相、LTTE に提携を申し入れ
- 3.5 LTTE に反対する約 3000 人がインドに避難
- 3.6 EDP、タミル語を話す人々は、ベルマル前州首相の独立宣言に反対だと表明
- 3.8 AFP、インド政府は、EPRLF メンバーを含む 750 人のスリランカ・タミル人のマドラス上陸を拒否
- 3.10 ベルマル前北・東部州首相、家族・秘書を伴いインド特別機でトリンコマリーからオリッサに向かう
- 3.11 タミル人 300 家族がインド空軍ヘリコプターでトリンコマリーからオリッサに向かう
- 3.12 タミル・ナードゥ州首相、すべてのスリランカ武装タミル人キャンプの設置を拒否すると発表
- 3.13 インド大使、IPKF は 90 年 3 月 31 日までに全軍を撤退させると発表
- 3.15 カルカト・インド軍司令官の来島で 24 日のインド軍完全撤退が決定
- 3.17 高等教育相、LTTE とトリンコマリーで会談、3 月 18 日夜から相互に軍事行動停止で合意
- 3.18 インドの DMK 所属国会議員、RAW はガンディー前首相の支持下で活動と証言
- 3.19 オリッサ州の難民キャンプからタミル・ナードゥ州に約 8000 人が再潜入と AFP が報道
- 3.20 運輸相、エステートの青年 1500 人を警察に雇用すると発表
- 3.20 大統領、イスラエルと外交関係を断絶すると発表
- 3.21 オリッサ州で逃走難民 800 人逮捕で、外相は彼らが市民なら引き取る用意があると国会で答弁
- 3.21 LTTE、北・東部州で今後緊張を起こさないと政府に約束
- 3.22 国防副相、IPKF のトリンコマリー撤退を検証
- 3.22 90 年 2 月 25 日から 1 カ月の死者は 52 人へ激減したと法相が報告
- 3.24 **最後の IPKF 約 2000 人がインド国家とスリランカ国家吹奏の中をトリンコマリー港から完全撤退**
- 3.25 大統領、IPKF はスリランカの主権・領土保全・独立を尊重して予定より 1 週間早く撤退してくれたとインド首相に感謝を表明すると同時に、北・東部州議会の解散、中央による直接統治を宣言
- 3.26 国防副相、北・東部からの治安状態から判断して、LTTE は武装解除するべきと語る
- 3.27 政府、LTTE に重ねて武器供出を要求
- 3.28 大統領、内閣改造を宣言
- 3.29 LTTE、インド漁民 311 人と漁船 33 隻をジャフナ沖で拿捕。30 日釈放
- 1990 3.31 LTTE 委員長ブラバカラン、2 年半ぶりにジャングルから姿を現す
- 4.1 ブラバカラン、最近の平静化は大統領の功績だと讃辞を述べたが、完全な平和がくるまでは、LTTE は武器を手放さないと言明

- 4.2 大統領、新法相の勸告で 1970 年 12 月 31 日以前からの服役囚 700 人に恩赦
- 4.3 警察、LTTE に対しシンハラ・タミル正月の間、トリンコマリーの安全に協力を要請
- 4.4 大統領、非常事態宣言をできるだけ早く解除すると国会で答弁
- 4.6 LTTE、ACTC と話し合い、ジャフナにある本部を LTTE が接収
- 4.7 大統領、IPKF 撤退後初めて LTTE 首脳と会談。北・東部州の平和回復について話し合い
- 4.7 EPRLF 政治局、北・東部州議会を 3 ヶ月に 1 度コロンボで開催すると発表
- 4.8 LTTE、スリランカ了解に侵入のインド船 70 隻を 7 日拿捕したが、8 日釈放したと発表
- 4.9 LTTE、北・東部州の民族自決権についてインド政府の支持を期待すると表明
- 4.9 EPRLF、政府に自治に関する 19 項目要求討議を要請
- 4.10 大統領と LTTE 代表、コロンボで会談。LTTE は第 6 次憲法改正条項の廃止と活動停止中の北・東部州議会の活動を再開させよと政府に申し入れ。また、ジャフナ県バラントンの化学工場生産再開を決定
- 4.10 国会、非常事態宣言から集会禁止条項削除を決定
- 4.12 政府、EPRLF 提出の 19 項目要求を拒否
- 4.12 LTTE、北・東部州での徴税中止を発表
- 4.13 プラバカラン、ジャフナで法相とジャフナの治安状態について討議
- 4.14 シンハラ・タミル正月、政府は、シンハラ過激派に対してすべての軍事行動停止を呼びかけ
- 4.16 警察、シンハラ・タミル正月に大きな事件・交通事故の報告もなかったと発表
- 4.16 法相と LTTE、北・東部州問題の解決のため、全政党が参加する暫定州議会発足に関する州議会改正法案を提示
- 4.19 国防副相と法相、今週中に EPRLF の代表と話し合うと発表
- 4.20 政府、反乱分子に投降を呼び掛け
- 4.21 北・東部州で 2000 人以上の市民義勇軍が収容キャンプから武器を持って逃走
- 4.24 政府、EPRLF 要請の 19 項目討議は拒否したが、国防副相と法相がこれに関して 5 月 15 日に EPRLF と会談すると発表
- 4.29 タミル・ナードゥ州首相、スリランカ・タミル人難民は州および隣州でも受け入れられないので、アングマン諸島に送るよう、インド中央政府に進言
- 4.30 国防副相、インド市民権を有する農園労働者 10 万人に無料航空切符を与えると発表
- 5.2 政府、インド農園労働者 10 万人送還について、CWC と協議を準備
- 5.2 LTTE、タミル・ナードゥ州に対し、北東部海上への侵犯せぬよう要求
- 5.3 国防副相、EPRLF のベルマルが帰国すれば独立を一方的に宣言した罪で逮捕すると言明
- 5.5 警察、タミル人国会議員の身辺警護強化を発表
- 5.7 EPRLF 国会議員でパティカロア選出のタムビットウ、コロンボで殺害される
- 5.7 首相、ニューデリーでインド首相と会談
- 5.7 インド大使館、インド人農園労働者送還は、インドにおけるスリランカ農民の送還と相殺すると語る
- 5.8 LTTE、タムビットウ殺害に無関係と宣言
- 5.11 CWC トングマン、政府はインド人農園労働者送還問題に関してインド政府との話し合いに合意と発表
- 1990 5.11 タミル・ナードゥ州首相、タミル・ナードゥ州は、インド人農園労働者の受入反対を中央政府に伝達したと語る
- 5.13 EPRLF 幹部、国防副相と法相に会見

- 5.14 政府、インド人農園労働者送還問題でインドへの交渉団派遣を準備中と発表
- 5.15 EPRLF、国防副相と会談。イーラム独立宣言を陳謝し、共同コミュニケを発表
- 5.16 タミル・ナードゥ州首相、タミル・ゲリラの活動を警告
- 5.16 ブラバカランら LTTE 代表、タミル・ナードゥ州首相と会談
- 5.17 国防副相、国民の相互理解のためにタミル諸党派に対して統一を要求
- 5.20 トングマン、インド人農園労働者問題の解決を大統領に期待
- 5.21 LTTE によるインド人農民労働者送還反対のストライキのため、北・東部州の行政が麻痺
- 5.22 政府、青年・少数民族社会の代表を決める地方自治体選挙改正法案を APC に提出
- 5.22 LTTE、法相に北・東部州の新選挙を要請。政府と EPRLF の協議に反対すると述べる
- 5.23 国防副相、北・東部州の治安を LTTE に任せないと語る
- 5.23 EDF、第 6 次憲法改正条項の廃止動議の提出を決定
- 5.24 国防副相、LTTE の武器所有下での選挙は不可能と発言、繰り返し武装解除を要求
- 5.25 国防副相、ランカ・ジャティカ農園労働組合長に任命される
- 5.27 政府、州議会法改正で北・東部州議会の解散を討議
- 5.28 法相、LTTE が武器を保持している中で北・東部州議会選挙は不可能と説得
- 5.30 トングマン、インド農園労働者の送還問題の早期解決は困難と語る
- 5.31 国防副相、北・東部州議会の解散には、新立法が必要。新立法の作成に着手すると語る
- 5.31 LTTE 代表マハッタヤ、大統領と会談するためにバブニヤを出発
- 5.31 警察、中央州の JVP 訓練キャンプを急襲。少なくとも 15 人のゲリラを殺害
- 6.1 大統領と LTTE 代表団、コロンボで会談。民族問題解決を強調
- 6.1 アムネスティ・インターナショナル、LTTE のテロ活動を非難
- 6.3 法相、LTTE の代表団と会談
- 6.4 政府と LTTE、パティカロアで会談
- 6.4 最高裁判事、EPRLF ペルマルに反乱陰謀で新たに逮捕令状を申請
- 6.6 国防副相、州議会法関連法を改正、大統領に北・東部州議会解散権の付与を検討中と表明
- 6.7 **政府軍と LTTE、バブニヤで衝突、13 ヶ月続いた停戦が破られる**
- 6.8 LTTE、政府軍の停戦協定破棄を非難
- 6.8 EPRLF、北・東部州議会解散法の最高裁提訴を決定
- 6.10 インド政府、タミル・ナードゥ州でのタミル人集会を禁止
- 6.10 アムネスティ・インターナショナル、9 月にコロンボ事務所を閉鎖すると発表
- 6.11 東部州カルムナイで LTTE10 人が軍兵士を殺害し、警察署を襲撃
- 6.11 EPRLF、ペルマルに国会議席を割り当て
- 6.12 法相、LTTE とジャフナで交渉し、13 日正午より休戦に合意
- 6.12 LTTE、パティカロアで汽車を止めシンハラ人 24 人を連行
- 6.12 TELO、LTTE を非難
- 6.12 政府、陸海空軍および東部州警察に対し、LTTE に報復的措置をとるよう命令
- 1990 6.13 12 日合意の休戦破棄される。LTTE が東部から連行した警官 100 人以上を殺害したと報じられる
- 6.13 政府、東部に特別部隊 3000 人を派遣

- 6.14 戦闘、北部にも拡大
- 6.14 カルパゲ駐インド大使、タミル・ナードゥ州首相と会見
- 6.14 LTTE、シンハラ人居住区に攻撃を命令
- 6.15 法相、ジャフナで LTTE と交渉。16 日午後 6 時より休戦に合意
- 6.15 スリランカ・アラブ協会、イスラエルが LTTE に武器を密輸していたと非難
- 6.16 タミル・ナードゥ州首相、インド首相と会談
- 6.16 EPRLF、政府に LTTE との交渉を望む
- 6.16 15 日合意の休戦協定破棄される
- 6.16 政府、11 日以来の死者は LTTE 側 135 人、政府軍 35 人と発表
- 6.16 カルパゲ駐印大使、インド外相と会談。インド外相はインドのスリランカ不介入を約束
- 6.16 大統領、LTTE に JVP のような運命になると忠告
- 6.17 アンバラ難民キャンプにムスリム 1 万 3000 人が流入
- 6.17 LTTE、政府による休戦協定破棄を非難
- 6.18 国会で国防追加予算 50 億ルピー可決
- 6.19 EPRLF 書記長、バドマナーバ、ヨサンガリ議員ら 15 人、マドラスで LTTE と見られるテロにより殺害される
- 6.20 インド政府、スリランカの内戦中止を要望
- 6.21 国防副相、ブラバカラン死亡説を語る
- 6.21 インド野党、LTTE 支援を理由にタミル・ナードゥ州首相の辞任を要求
- 6.22 11 日以来の戦闘で、700 人の LTTE、135 人の政府軍兵士が死亡
- 6.23 大統領、LTTE に協議か対決かの選択を迫る
- 6.23 政府、90 難民キャンプに少なくとも 21 万 8670 人が避難していると発表
- 6.24 ジャフナ病院閉鎖
- 6.24 政府軍、ジャフナ要塞の兵士 200 人に食料など物資投下
- 6.25 政府軍、ジャフナ要塞付近で一般市民に向けて退去勧告のビラを散布
- 6.25 政府軍、25 日から 4 日間ジャフナ要塞の安全確保のため空爆
- 6.25 大統領演説、北・東部州議会の解散。新選挙の動向は北部の状況次第であり、国民投票は 91 年まで延期されると述べる
- 6.25 政府軍、パティカロアを解放。地雷除去
- 6.26 タミル・ナードゥ州、州内でのスリランカ・タミル人の運動を制限
- 6.26 TELO、インド首相に介入を要請
- 6.26 タミル・ナードゥ州首相、インド首相と会見、スリランカ内戦に介入を要請
- 6.28 国防副相、インドの不干渉に感謝。タミル・ナードゥ州首相の親 LTTE 発言を批判
- 6.28 タミル・ナードゥ州首相、インド首相にスリランカ政府のタミル人攻撃を中止させるよう要請
- 6.28 基本サービス委員会、難民 10 万世帯と発表し、窮状を訴える
- 6.28 ウブヴェリで 14 人の警官の銃殺死体が発見される、未だに 600 人の警官が行方不明
- 6.28 インド政府、スリランカ空軍のジャフナ空爆との関連で、公式にスリランカ政府の対タミル掃討作戦に対する重大関心を表明
- 1990 6.29 政府、パティカロアに外出禁止令布告
- 6.29 TELO、タミル・ナードゥ州首相の LTTE 支持を批判

- 6.29 EPRLF の新書記長に K. プレマチャンドラン就任
- 6.29 インド政府、スリランカ政府にタミル人殺害を止めるよう要請
- 7.2 国防副相、北・東部州陸軍キャンプ周辺の住民に立ち退き要請
- 7.2 インド政府、訪印中のティラカラトナ大統領特使に北・東部への介入はしないと約束
- 7.4 陸・海・空軍、ムトワルで合同作戦開始。LTTE によって 21 日間包囲されていたジャフナ要塞から重傷の兵士たちを救出
- 7.6 TULF、国連または英連邦仲介による休戦を主張
- 7.6 国会、北・東部州議会の解散・選挙と州議会法改正を可決
- 7.7 大統領、北・東部州議会の解散を公布
- 7.8 大統領、LTTE に対して憲法の範囲内ならば分権の用意もあると発言
- 7.9 軍筋によれば北・東部戦闘でタミル・ゲリラ 78 人、政府軍 10 人が死亡。最近 1 カ月の死者は 342 人、負傷者 412 人
- 7.9 タミル難民 3624 人タミル・ナードゥ州のラメスワラム港に到着。さらに 1 万人がスリランカで待機中
- 7.10 西ドイツ、スリランカ北・東部州への緊急援助・医薬品購入用に 20 万マルク供与
- 7.11 国防省、コロンボから 12 台のトラックに米・砂糖・小麦・ミルクなどの食料品を積んで北・東部州へ出発と発表
- 7.11 インドのラジオによると、スリランカで抗争が始まって以来、1 万 5200 人のタミル人がタミル・ナードゥ州に漂着
- 7.11 EROS、停戦と LTTE との対話について法相と会談
- 7.12 政府、非常事態を考慮し、北・東部州議会選挙候補者登録を延期
- 7.12 ENDLF 代表団、SLFP 総裁と会談
- 7.13 76 人のイスラム教徒がバティカロア付近のカットンクディのモスクで殺害される
- 7.14 コッペカドワ將軍、軍事的成果を上げても最終的に政治的解決以外の方法はないと発言
- 7.14 インド政府、スリランカ北・東部で継続中の戦闘に関心を示す
- 7.15 国防副相、政府軍が北部のテロリスト掃討作戦を開始と発表
- 7.17 大統領、戦いはタミル人社会を敵とするものでなく、正義・公正のためのものと述べる
- 7.18 国防副相、6 月以降の政府軍・警察の死亡者は 440 人と発表
- 7.19 TELO の広報によれば、SLFP は近々すべてのタミル諸党派と話し合いをする
- 7.20 LTTE、エレファント・パスを爆破
- 7.21 インド、スリランカへの軍隊派遣を否定。ただしタミル人難民キャンプ設置でスリランカ政府と話し合う意向を表明
- 7.21 タミル人系 6 グループ、コロンボに集結、北・東部州議会解散後の政治的空白について話し合い
- 7.21 6 月 10、11 日に東部で誘拐されたと見られる 200 人の警官の焼死体が発見される
- 7.23 国防副相、治安部隊はその重点を東部から北部に移すと語る
- 7.24 EPDP、EDP の国会議員、辞任を表明
- 7.24 インド前首相、DMK と LTTE が協同してパンジャブ州のテロに武器を供与していたと暴露
- 7.26 政府軍、ジャフナ攻撃態勢を整え、48 時間以内に出動と決定
- 7.26 在スイスのタミル人難民、スイス社会の人種差別に抗議し、3 日間のハンストを開始

- 1990 7.26 政府、LTTE の停戦申し入れを拒否したと発表
- 7.26 政府とタミル政党、反 LTTE の共同戦線を設置

- 7.30 再建復興省最近 8 週間の戦闘で家を失ったものは 61 万 8000 人と発表
- 7.30 インドのラジオによると、この 1 ヶ月の間に 4 万 8000 人のスリランカ難民がインドに漂着した
- 8.1 APC、15 政党に権限の委譲など 7 項目について意見の提出を求めた
- 8.2 LTTE、分権成就まで戦うとの書記長発言を *Hindu* 紙報道
- 8.2 政府、LTTE に ICRC を通じてジャフナに非武装中立地帯の設置を提案
- 8.3 LTTE、カッタクディのイスラム寺院を襲撃、ムスリム 116 人が死亡、90 人負傷
- 8.4 LTTE、カッタクディ地区のムスリム 4 万 5000 人に 8 月 10 日までに立ち退きを要求する最後通告を提示
- 8.6 パラシガム LTTE 政治顧問、インドの外向的介入を要請（6 月 11 日より 3 回目）
- 8.7 国防副相、東部でのテロ対策強化を言明
- 8.7 外相、政府は LTTE との戦闘のために外国の軍事援助は求めないと国会答弁
- 8.9 タミル 6 政党、SLFP 総裁と会見
- 8.9 国防副相、LTTE と戦闘中の今、ジャフナ要塞周辺付近に非武装地帯の設置案はないと表明
- 8.9 国防次官、8 月 2 日から 8 日までの間に 204 人の民間人が内戦で死亡したと発表
- 8.10 政府、ジャフナ進行を宣言、住民 10 万人避難を命じた
- 8.10 タミル・ナードゥ州首相、6 月以来、インドに流入したスリランカ難民は 6 万 4000 人と語る
- 8.11 LTTE、エラヴァのモスクを襲撃。127 人のムスリムを殺害
- 8.13 治安筋、アンバラ、バブニヤ、トリンコマリー地区でシンハラ村民 24 人が殺害されたと発表
- 8.14 大統領、インド独立記念日を前にインドのスリランカ内政不干渉に感謝を表明
- 8.15 タミル・ナードゥ州首相、インド中央政府にスリランカ和平介入を求める
- 8.16 国防副相、紛争は人種的なものではない、スリランカ政府はインドの介入を望まないと表明。同時にタミル・ナードゥ州が LTTE に武器援助していると非難
- 8.16 国防次官、6 月 11 日から 8 月 15 日の間に、警官・政府軍の死者 630 人、民間人 682 人、負傷者は 817 人、行方不明 352 人と発表
- 8.17 インド首相、南インドのスリランカ難民に深い関心を表明。難民キャンプに資金援助の用意ありと表明
- 8.19 インドのガンディー前首相、訪印中のスリランカ国会代表団にインドの非合法武器市場から LTTE に武器が運ばれていると語る
- 8.20 **政府軍、ジャフナ空爆**
- 8.21 インド首相、スリランカ政府のジャフナ空爆に重大関心を示す
- 8.22 政府軍、ジャフナ地区に退去勧告のピラを投下、無期限外出禁止令公布
- 8.23 国会で、国防副相がタミル・ゲリラを全包围して爆撃することを約束
- 8.23 ジャフナのコパイで外出禁止令違反の 150 人の LTTE が空爆により死亡
- 8.24 インド首相、ジャフナ攻撃を激しく非難
- 8.25 6 野党、政府軍のジャフナ空爆により民間人が多数死亡したと非難
- 8.27 タミル・ナードゥ州首相、インドはスリランカ・タミル人とスリランカ政府の和平交渉の中立的保証人たれと主張
- 8.27 インド政府、インドへのスリランカ難民は 8 万 7000 人と発表
- 9.1 ムライティブ、マンナール、バブニヤ県に無期限外出禁止令公布
- 1990 9.1 外相、北・東部の対立に関わりなく、LTTE ゲリラと政府はいつでも交渉する用意があると語る
- 9.2 ENDLF、北・東部に臨時行政機関を設置するよう、大統領に提案

- 9.3 SLFP 総裁の率いる 16 政党の代表団、大統領に会見し、北・東部州の窮状を訴える
- 9.3 国防副相、政府公報で無差別攻撃の事実はない、90 万人の難民に 1 日 3000 万ルピー支出していると主張
- 9.4 国防省、LTTE がジャフナで徴税などの行政活動を行っていると発表
- 9.7 政府、6 月 11 日以来の死者は警官・治安部隊併せて 585 人、行方不明者 458 人、負傷者 1010 人と発表
- 9.9 パティカロアで連続爆破事件
- 9.10 ラリト高等教育相、ジャフナ要塞に包囲された兵士らを救出するには空爆するしか方法はないと語る
- 9.10 政府筋によると、91 年 1 月の州議会選挙の立候補受付を 10 月中旬に予定
- 9.13 軍、ジャフナ要塞を奪回。200 人の兵士・警察官の救出に成功。LTTE 側の死者 50 人
- 9.16 インド首相、マドラスでインド外相のコロンボ訪問を示唆。インドはタミル人の安全のためにスリランカ政府にジャフナの空爆停止を要請
- 9.16 ランカブバト紙が LTTE 指導部の混乱を報道
- 9.17 政府筋によれば、法相は 18 日から各政党の指導者、APC メンバーと北・東部州のシンハラ、ムスリムの安全に関して会合を行う
- 9.18 軍によれば、ジャフナ市街地の復旧作業は LTTE の仕掛けた地雷の影響ではかどっていない。ジャフナに公布されていた外出禁止令が解除され、ムライティブの外出禁止令も近々解除される予定
- 9.18 3 ムスリム・グループ、ハミード平和委員会委員長と会談。融合北・東部州においてムスリムの分離議会を要求
- 9.19 アムネスティ・インターナショナル、この 3 年間でスリランカ南部で数千人が治安部隊により殺害・誘拐されたと政府を非難
- 9.19 30 人の LTTE、ブッタラム県のシンハラ漁村を襲撃、40 人殺害
- 9.20 ジャフナ半島一帯に外出禁止令布告
- 9.21 ムスリム・グループによる東部独立議会要求を討議するため、6 タミル人グループが会合
- 9.21 ムスリム自警団らしき暴徒、パティカロア付近の村を襲撃。19 人が重傷。コロンボの TELO 報道官は、ムスリム自警団を非難
- 9.24 6 タミル・グループ、ムスリム自警団の解散、または統制強化を要求するキャンペーンを開催。EPRLF によれば 8 月以来、東部州において自警団によりタミル人 108 人が殺害されている
- 9.24 国防省、LTTE 内部に北・東部州の青年の強制徴兵にかんして意見の不統一があると述べる
- 9.24 LTTE、北部のシンハラ人村落を襲撃
- 9.25 ENDLF 報道官、パティカロア県で 3253 軒の民家が襲われる 478 軒が放火され、156 の商店が放火されるか破壊された
- 9.26 政府軍、ジャフナ要塞、マンガティヴ島から撤退、ICRC にジャフナ半島を引き渡す。その直後 LTTE ジャフナ要塞を占領
- 9.26 インド筋によると、スリランカはインドの提案したスリランカ難民の帰国に関する双務的援助に応じなかった
- 9.26 インド海軍とタミル・ナドゥ州警察、LTTE のタミル・ナドゥ州からの燃料密輸防止のため沿岸警備を強化
- 9.27 SLMC およびムスリム団体、政府に対しムスリム自警団の増加・強化を要望
- 9.29 国防副相、ジャフナ要塞に入った LTTE は考古学上価値の高いいくつかの建物を破壊したと報告
- 9.29 SLFP 声明、北・東部の合併を拒否するが、統一国家・統一憲法のもとでの北・東部州への権限の委譲は平和と民族協調のためにも認める方針
- 9.30 ムライティブ、アンバラ、トリンコマリーで、軍が LTTE の基地を襲撃。大量の武器、日用品を奪回
- 1990 9.30 LTTE、難民キャンプの運営に関与していた東部大学の書記官を誘拐（10 月 5 日に解放）
- 10.1 政府、ジャフナ半島に公布していた無期限外出禁止令を解除

- 10.3 6ムスリム・グループの代表、ハミード北・東部州平和委員会委員長と会見し、マンナールをムスリム自治区にするよう要求
- 10.5 国防副相、ジャフナへの攻撃再開を発表。ICRC に対して 24 時間以内に撤退するよう要求
- 10.6 政府高官が明らかにしたところ、政府は 2000 人のタミル自警団結成を認める
- 10.7 3ムスリム・グループ、APC 特別会合でムスリム居住区における分離州議会制を要求
- 10.11 国防副相、LTTE から話し合いの申し入れはない、政府軍は新たに攻撃を開始すると言明
- 10.14 プラバカラン、ヴァダマラッチの集会で 5000 人を前に演説。イーラム国家実現の日まで戦い続けると誓う
- 10.15 治安部隊、トリンコマリーで大がかりな LTTE 搜索活動
- 10.16 治安部隊、ジャフナ半島に無期限外出禁止令を公布
- 10.17 政府軍、北部の LTTE 支配地域住民に退去勧告のピラを散布し、爆弾を投下
- 10.20 情報筋によると、11 月 11 ~ 13 日、インド外相が北・東部州問題、87 年の印・ス協定について話し合うためにスリランカを訪問する
- 10.21 LTTE、マンナール、パブニヤ、ジャフナのムスリムに 28 日までに退去するよう命じる
- 10.23 軍高官によると、ジャフナ半島の約 10 都市からテロの脅威を払拭した
- 10.28 マンナールでムスリム 1 万 5000 ~ 2 万人が避難
- 10.31 SLMC、政府にムスリム保護策を即時講じるよう要求
- 11.1 国防副相、マンナール島を含む北・東部州に無期限外出禁止令公布、2 大隊がマンナール入り、LTTE はジャフナからムスリムを完全に撤退させたと発表
- 11.2 SLMC、マンナールからのムスリム難民は 6 万 5000 人に達したと発表
- 11.3 軍、マンナールの町を支配下においと発表
- 11.4 SLMC アシュラフ党首、いくつかのアラブ諸国がスリランカのムスリムに援助を申し出たと発表
- 11.5 大統領、マンナール、パブニヤ、プッタラムの難民キャンプを視察
- 11.6 ICRC、ジャフナ病院は 8 日に再開するが、これ以上激しい戦闘が続けば、ジャフナ病院を放棄すると声明
- 11.9 軍高官、ジャフナ半島のマニパイ地区を空爆と発表。ICRC、空軍が病院周辺の停戦協定を無視したと政府に嚴重抗議
- 11.9 EPDP、北・東部州を戦争の惨禍から回復させるために西欧諸国に援助を求めたと発表
- 11.11 ムスリム難民の帰還促進のため、マンナールに無期限外出禁止令を発令(13 日解除)
- 11.19 政府、ジャフナ、キリノッチ、ムライティブの 3 地区に外出禁止令発令
- 11.21 LTTE、28 日までに紛争で死亡した兵士をたたえる「英雄週間」を行う。この間 LTTE はジャフナ住民の移動を禁止すると発表
- 11.21 政府、非常事態宣言に基づき、JVP 指導者ヴィジェヴィーラの動産・不動産をすべて没収すると発表
- 11.22 インド新政府、タミル・ナドゥ州をタミル・ゲリラの基地としないと声明
- 11.22 情報筋が伝えたところ、LTTE の英雄週間は、住民の協力不足と治安部隊、他のタミル・グループの軍事圧力によって失敗
- 11.24 大統領、治安部隊とともにジャフナ半島各地を訪問し、治安部隊・EPDP と会見するとともに北部の人々の現状を視察
- TELO、SLMC を含む 8 政党、北・東部州の民族問題解決を促進する歴史的な合意に達し、一つの州
- 11.24 政府のもとに議会の機能をムスリムとタミル人で分けると共同声明を発表
- 11.25 LTTE、22 日からの激しい戦闘の末、マンクラム軍事基地を占領。政府軍兵士はジャングルに逃走
- 1990 11.26 国防省、マンクラムの戦いで政府軍兵士 100 人以上、LTTE 側 200 人以上が死亡したと発表
- 12.2 政府軍、北部の病院・難民キャンプに移送されるはずの衣類・生活必需品が LTTE に奪われたと発表

- 12.3 国防副相、政府とLTTEがロンドンで対談したとの報道を否定
- 12.4 軍筋、PLOTEがワンニ地区で政府軍を援助したと発表
- 12.5 政府高官、2000人のシンハラ人青年がJVPに対する非常事態宣言に基づく拘留から解放されていたと明らかにした
- 12.5 大統領、北・東部州の住民投票をさらに延期して91年8月22日にすると発表
- 12.6 国防副相、北・東部州で現在軍に協力しているPLOTE、TELOは、LTTEが壊滅した後に正規軍あるいはボランティアとして吸収されると発表
- 12.6 6タミル、ムスリム政党、一つの最高裁判所とタミル・ムスリムの2つの行政組織を備えた永久融合州設立で合意、10日以内に大統領に提出する予定
- 12.8 大統領、東部州を訪問・視察
- 12.13 空軍、ヘリコプターでコキラのLTTE基地を4時間にわたって攻撃。LTTE側の死者は40人と報道される
- 12.14 タミル・ナードゥ州警察、LTTEと思われる81人を逮捕したとHindu紙報道
- 12.21 復興省、12月19日の時点でスリランカ全土に難民は92万8954人、難民キャンプは714と発表
- 12.22 ジャフナで軍とLTTEが大規模な衝突
- 12.27 国防副相、政府は新年の間も一方的な停戦を提示する予定はないと表明
- 12.27 インド議会で、スリランカ・タミル・ゲリラがAIADMKの指導者ジャヤラリタを襲撃したと問題化
- 12.29 TELO幹部、Island紙にLTTEが一方的な停戦を提示する可能性を示唆
- 12.30 国防副相、LTTEがICRCを通して31日24時からの無期限停戦を提示したが、政府はLTTEに対する攻撃を止める予定はないと表明
- 12.31 政府、LTTEの停戦提示の検討に少なくとも3日間必要であると発表、TULFは停戦提示を歓迎

- 1991 1.1 大統領、タミル・グループと話し合い、政府はLTTE に対して武装放棄と APC 参加を要求
- 1.2 LTTE、停戦を申し入れる一方で、北・東部で政府の軍事基地 2 カ所を攻撃
- 1.3 政府、3 日深夜から 7 日間の攻撃停止を発表
- 1.3 LTTE 指導部の 1 人サタシバム・クリシュナクマール(キットゥ) 政府との交渉の前提して 3 条件を提示(1)タミル人の自治権を認める(2)北・東部がタミル人のホームランドであることを認める(3)武装放棄はしない
- 1.7 国防副相、LTTE の停戦破棄を非難
- 1.8 ICRC、中立的な立場を保つため、スリランカ政府による停戦監視要求を拒否
- 1.8 インド首相、タミル・ナードゥ州政府は、タミル・ゲリラに対するチェック機能を果たしていないと不満を表明
- 1.10 LTTE、政府に停戦延長と無条件和平会談開催を要求
- 1.11 政府、停戦の延長について討議すると発表。タミル・グループの多くは停戦に賛成したが、政府は停戦の延長を拒否。本格的な攻撃は 14 日から再開すると発表
- 1.13 大統領、行方不明者調査委員会を任命
- 1.15 LTTE、一方的停戦は継続すると発表
- 1.20 キリノッチに外出禁止令公布
- 1.22 LTTE、アンパラ県のシンハラ人農村を襲撃し、27 人を殺害
- 1.26 タミル・ナードゥ州首相カルナニディ、DMK はスリランカの武装ゲリラを全面的支援すると発表
- 1.30 訪問中のインド外相と大統領会談、相互主義と領土の独立を確認しあう
- 1991 2.1 国防副相、90 年 6 月 11 日以来の戦闘で 1441 人の警官・軍兵士が死亡あるいは行方不明、1981 人が負傷、270 人が地雷で足を失ったと報告
- 2.1 インド外相のスリランカ訪問の成果に関する共同声明発表
- 2.4 イギリス高等弁務官、PLOTE がイギリス政府に対し、LTTE の同国における反スリランカ政府活動を直ちに排除するよう要請
- 2.6 LTTE、トリンコマリで公営バスを爆破。少なくとも 8 人が死亡し、28 人が負傷
- 2.6 インド首相、インドはスリランカから要請されない限り介入しないと声明
- 2.8 LTTE、住民にジャフナで戦死した兵士をたたえるストを要求
- 2.11 LTTE のマヤッタヤ幹部、政府の 3 条件を拒否すると *Hindu* 紙に語る。3 条件とは(1)LTTE は武装解除すること(2)全てのタミル・グループも交渉に加わる(3)全政党が交渉に参加する
- 2.11 TULF、大統領に対し 91 年 1 月 20~23 日のバブニヤの学校、民家対象の空爆を抗議
- 2.12 バブニヤ県に非公式の外出禁止令が発令され、集中的攻撃が継続
- 2.12 TELO、会議派のリーダーとニューデリーで会談、タミル・ナードゥ州に拘留されている 1200 人のタミル・ゲリラの釈放に関し討議
- 2.14 政府、19 日に予定されている母親戦線の集会を許可。しかし、デモは禁止
- 2.15 大統領、パティカロアで北・東部州議会選挙を 91 年 6 月 30 日以降に行うと発表
- 2.16 8 タミル・グループが構成する連盟、91 年半ばに開催される予定の北・東部州議会選挙に参加すると表明
- 2.17 パティカロア件に無期限外出禁止令公布
- 2.17 ロイター電によると、ブラバカランが政府の爆撃で被害を受けた北・東部を訪問
- 2.17 マンナール県コンダッチで、45 人の政府軍兵士が LTTE の待ち伏せによる攻撃で死亡
- 2.24 EROS、政府に反 LTTE 支援を申し出た
- 2.26 インド政府、スリランカに対して新州議会選挙ができる環境が整うまで、北・東部に基盤を持つ全ての団体が参加する暫定北・東部州議会を設立することを要求

- 2.28 JVP 撲滅期間中、治安部隊によって拘留されていた 218 人が釈放される。これで 2617 人が釈放されたことになる
- 2.28 政府、6 月 11 日以来、1560 人の警官・兵士が殺害もしくは行方不明になっている、と国防副相報告、インドの提案する北・東部における暫定議会の創設は現行の法の下では不可能であると表明
- 3.1 空軍、ムライティブ県の LTTE 基地を攻撃
- 3.2 ランジャン・ウィジェラトネ国防副相、コロンボ近郊で停車中のバンに積んであった爆弾の爆破により殺害される
- 3.4 ロンドン在住のキトゥ、ランジャン暗殺に LTTE が関与しているという噂を否定
- 3.5 ランジャン暗殺の情報提供者には 100 万ルピーの報奨金が与えられる。LTTE・ゲリラと思われるタミル人 200 人がランジャン暗殺の容疑で職務質問を受ける
- 3.6 D.B.ウジェトンガ首相が国防副相に就任
- 3.6 インド外務次官、インドはスリランカと平和友好条約を結ぶ用意があると表明
- 3.12 DPLF 幹部によると、APC は数ヶ月に及ぶ話し合いにも関わらず民族問題解決に関してタミルとムスリムの合意が得られず、失敗に終わった
- 3.12 インド大使、コロンボでタミル・グループと会談
- 3.14 大統領、ランジャン暗殺に伴い、内閣を一部改造
- 3.14 大統領顧問が最近ジェノバで LTTE 幹部のローレンスと 45 分間対談と *Island* 紙が報道
- 3.18 LTTE、インド大使と会見、南インドで拘留されている 300 人の解放を求める
- 3.18 LTTE、話し合い再開と戦闘終結のためにスリランカ政府が提示した核となる条件(プラバカランの交渉参加) を拒否
- 1991 3.19 マンナール県に外出禁止令公布
- 3.22 タミル 5 党派 (TULF、ACTC、TELO、PLOTE、EPRLF)、北・東部州問題解決のため新たな政策に合意。同法案は 25 日までにムスリム政党に提出される
- 3.28 インド大使館報道官、インドは 3200 万ルピー支出してスリランカ北・東部に難民キャンプを設立すると発表
- 3.28 国防次官、ランジャン暗殺の犯人は LTTE 関係者であると断定
- 3.28 地方選挙の 5 月 11 日実施との発表
- 3.28 政府、5 月にニューデリーでインド・スリランカ共同委員会を開くことを決定
- 3.30 大統領、地方選挙に向けて非常事態宣言緩和
- 3.31 軍、マンナール県ヴィーパンクラムで 100 人以上のゲリラを殺害、軍側の死者は 20 人
- 4.1 大統領、JVP 釈放を約束、バブニヤ、マンナール両県で無期限外出禁止令公布
- 4.3 トリンコマリ沖でシンハラ漁船を LTTE が襲撃。漁民 11 人死亡、9 人負傷、16 人が行方不明。警察はシンハラ人による報復を恐れてタミル人村落を警護
- 4.3 ENDLF 報道官、警察がコロンボの同事務所を急襲、4 人を強盗容疑で連行と発表
- 4.5 バブニヤ、パティカロア、マンナール、トリンコマリ各地で LTTE と政府軍が衝突。併せて 95 人が死亡
- 4.7 国防省、3 月の LTTE の死者は 518 人、政府軍の死者は 83 人、民間人 31 人と発表。単独の戦闘で規模が最大だったのは、3 月 19 ~ 23 日のシルヴァットウライの戦闘であった
- 4.9 パティカロア県トッピガッラで戦闘、タミル・ゲリラ 30 人死亡
- 4.10 軍高官、北・東部での戦闘においてタミル・ゲリラ併せて 107 人を殺害と発表
- 4.13 アンバラ県の農村が LTTE に襲撃され、17 人死亡。この日はシンハラ・タミル正月であった
- 4.19 大統領、新国会の演説で国民のために平和解決に向けて交渉に乗り出すようタミル関係者全てに繰り返し要請、交渉の条件としてプラバカランの話し合い参加、タミル・ゲリラの武装放棄を提示
- 4.20 LTTE、東部のニヤデッラ村を襲撃。21 人が死亡。村のまわりには地雷が仕掛けてあるため、接近が

困難

- 4.25 国防次官、25日よりジャフナ半島全域に無期限外出禁止令公布。対LTTE重点作戦を再開
- 4.29 LTTE、ナナッタン陸軍キャンプのパトロール対を待ち伏せ、45人を殺害、また軍は25日から4日間の作戦でエレファント・バスのLTTE拠点近くでLTTE126人を殺害。約150人死亡。軍兵士では131人死亡、70人負傷
- 5.1 LTTE、ジャフナのメーデーに各国大使を招待したが拒否された
- 5.1 ジャフナに続きムライティブ県にも外出禁止令公布
- 5.4 バブニヤの北2マイルのタンディクラム、ノチモダイのLTTE要塞を政府軍が突破。ジャフナに向けて行軍
- 5.7 バブニヤで政府軍30人、LTTE側LTTE幹部4人を含む20人死亡
- 5.9 政府軍、ジャフナ半島の西カライティヴ、バブニヤのオマンタイのLTTE基地を制圧。基地から武器のほか、食料、制服を押収
- 5.11 地方選挙投票日
- 5.12 国防省、選挙後の秩序維持のため、選挙期間中取り消されていた非常事態宣言の再導入を発表
- 5.12 政府軍、パティカロア県アナンダクラムLTTEキャンプを制圧
- 5.13 5月2日からの戦闘によりバブニヤでLTTE250人死亡。政府軍兵士の死者は35人、バブニヤとマンナールに公布されていた外出禁止令は14日午前6時より解除
- 5.18 ジャフナ半島付近のカライティヴ、カイツ島からLTTEを掃討。島民4万人に帰島が許され、EPDPから50トンの食糧が分配された
- 5.21 **ラジーヴ・ガンディー元首相、暗殺される**
- 1991 5.22 大統領、ガンディー首相暗殺を非難。LTTE以外のタミル諸党派、犯人をLTTEと断定して、LTTEを批判。政府軍はスリランカ北部の海域のパトロールを強化、一方ロンドンのLTTE事務所は犯行を否定
- 5.23 攻防次官、ガンディー暗殺にLTTEの関与容疑があり、政府はインド調査当局の要請があれば捜査に協力すると発表
- 5.24 ガンディー元首相の死を悼んで国の機関では半旗を掲げる
- 5.25 タミル・ナードゥ州でLTTE100人とタミル人活動家3600人が検挙される
- 5.26 タミル・ナードゥ州のスリランカ・タミル難民20万5000人は、ガンディー元首相暗殺の余波による本国送還を危惧、AIADMKのジャヤラリタは、即刻強制送還を主張
- 5.26 スリランカ軍、中国からF-7戦闘機3機を購入。しかしこれらの戦闘機は北・東部州の内戦に使用されることはないを発表
- 5.27 インド警察、ガンディー元首相暗殺に関してタミル・ナードゥ州で30歳のスリランカ・タミル人女性を拘留
- 5.28 在ロンドンのLTTE幹部キトゥ、暗殺前にガンディー元首相に会っていたことが判明。3月5日も会見しており、両者の関係は良好であったと言明
- 5.28 タミル・ゲリラと政府軍の衝突が相次ぐ。LTTE、トリンコマリー県プルモッタイで休戦を破棄して待ち伏せ攻撃。民間人の乗ったバスを誘導中の兵士8人が死亡。パティカロア県では警察の車が放火されたが負傷者はいなかった
- 5.29 スリランカでインド犯罪捜査局とスリランカ国防省がガンディー元首相暗殺を捜査。LTTE以外のタミル諸党派と会談。スリランカにおける過去の爆弾事件についてスリランカ警察から事情聴取
- 5.30 ガンディー元首相暗殺に関して、インド中央調査局員来島
- 6.1 アムネスティ・インターナショナル代表団来島
- 6.2 インド捜査局、ガンディー元首相暗殺の犯人はスリランカ・タミルの女性スングリと断定
- 6.5 バブニヤ地区でLTTE拠点への作戦を開始
- 6.6 タミル・ナードゥ州でガンディー元首相暗殺に関してスリランカ・タミル人47人逮捕

- 6.7 カルナニディ・タミル・ナードゥ州首相、在任中に前首相がマドラスで2度 LTTE と会談したのは嘘だと述べる。しかし彼自身は 89 年 12 月から 90 年 2 月にかけて LTTE 代表団と会見している
- 6.8 米国務省、米国民にスリランカ北・東部への観光を禁止
- 6.8 大統領顧問、APC 民族問題解決案起草委員会は 6 月 25 日までに包括案を作成すると発表
- 6.10 国連難民高等弁務官、マンナール県でテロに襲われるが、辛くも逃れる
- 6.12 中央調査局、ガンディー元首相暗殺犯の写真を公開、
- 6.12 パティカロア県で交戦中に民間人 24 人が死亡
- 6.12 ガンディー元首相暗殺の犯人に宿泊を提供したマドラスの、25 歳の青年とその母親が逮捕される
- 6.13 大統領顧問、LTTE から和平交渉の打診があるという噂を否定、6 月以来の死傷者数は 1369 人
- 6.14 バブニヤ西部で 800 人の LTTE と 4 時間半にわたり戦闘、LTTE 側の損失は多大
- 6.14 パティカロア県とアンバラ県の境の LTTE 最大基地を政府軍が襲撃
- 6.19 大統領顧問、スリランカはインドにいるスリランカ人難民 11 万 5000 人の帰国を歓迎すると語る
- 6.20 トリンコマリ県ヴェリオヤで、LTTE が政府軍兵士 16 人を待ち伏せし、殺害。一方バブニヤの要塞バライヤナクラムの LTTE 基地を政府軍が襲撃。172 人の LTTE グェリラと政府軍兵士 27 人が死亡
- 6.21 コロンボの国防省共同作戦本部付近で車が大爆発。70 人が死亡
- 6.22 スリランカ政府、コロンボのインド大使館の警備を強化
- 6.24 9 人の一般市民がパティカロア県で殺害される。タミル人村落であるが、LTTE は村民が LTTE に関する情報を政府軍に流したと疑っている
- 6.26 ジャヤラリタ・タミル・ナードゥ州首相、マドラスで新しいインド・スリランカ協定を結びたいと語る
- 6.27 LTTE パリ事務所のローレンス、コロンボ市内での爆弾事件を否定したが、結果には満足していると発表
- 7.1 スリランカ政府、チラウにあるボイス・オブ・アメリカ (VOA) 放送局基地はインドの利権を害するものではないと声明
- 1991 7.3 6 月 21 日のコロンボ市内での爆弾は、LTTE がジャフナから持ち込んだものと犯罪捜査局が断定
- 7.5 インド訪問中の外相にインドは権限委譲、国民投票による北・東部州の合併など 87 年のインド・スリランカ合意の実施を強く要求
- 7.5 インド中央捜査局、ガンディー元首相暗殺に関してニューデリー市内で LTTE の 70 歳の男性と 10 代の女性を共犯容疑で逮捕
- 7.10 2000 人の LTTE グェリラ、エレファント・パスの政府軍基地を包囲。北部全体に無期限外出禁止令公布
- 7.13 政府軍エレファント・パスの LTTE 基地を制圧。LTTE 側の犠牲者は 50 人以上。軍の犠牲者は 16 人
- 7.13 ポロンナルワ県とパティカロア県境の 2 村が LTTE に襲撃され、27 人が死亡。大部分の犠牲者はムスリム
- 7.15 アメリカ難民委員会、第三国が LTTE とスリランカ政府の無条件交渉の仲介役になる可能性を示唆
- 7.17 10 日以上のエレファント・パスの攻撃で 100 ~ 200 人が死亡
- 7.18 インド大使と大統領、スリランカ外相のデリー訪問に向けて会談。来る SAARC サミット、インド・スリランカ共同委員会、トリンコマリ県の VOA 基地についても話し合い
- 7.21 大統領、LTTE 以外のタミル諸党派を交渉の相手とする政府方針を示唆
- 7.21 LTTE、北部で独自の行政、通貨を発行と報じられる
- 8.3 大統領、約一ヶ月続いたエレファント・パスの戦闘における軍の勝利を発表し、同時に和平交渉を呼び掛け。非公式筋によると今回の戦闘で軍は 200 人死亡、700 人負傷。LTTE 側は 500 人死亡、900 人負傷
- 8.3 キットゥ、イギリス政府より 7 日までに退去するよう勧告を受けたことが明らかになる
- 8.4 外相、インド首相と会談、インド側はタミル人の権利尊重を主張し、87 年合意の実施を要請

- 8.5 インド国防省、タミル・ナードゥ州で LTTE の拠点を攻撃開始
- 8.7 91 年 8 月 22 日に予定されていた北・東部の国民投票は、大統領令によって 92 年 2 月 22 日に延期
- 8.8 90 年 6 月以来禁止されていた北・東部州への食糧の輸送が解除された
- 8.9 議会は、全会一致で民族問題を解決する議員委員会の任命を決定
- 8.10 大統領顧問、ロンドンに出発。LTTE とヨーロッパで交渉を行うと噂されている
- 8.13 LTTE がジャフナで発券をともなう銀行業務を開始し、スリランカ紙幣を回収していると *Island* 紙が報道
- 8.18 2 人の LTTE グリラ、カルナータカ州で青酸カリを服毒して自殺
- 8.20 ガンディー元首相暗殺犯で、LTTE グリラのシバラサン、タルナータカ州バンガロール郊外で警官隊との銃撃戦の末、拳銃で自殺。共犯の女性を含む 6 人も服毒自殺
- 8.22 LTTE 政治顧問バラシガム、ジャフナで記者団の質問に応じ、政府との和平交渉に応じる用意があると語る。政府側の交渉相手としてトンダマン、交渉場所としてジャフナを指定
- 8.28 ラリト高等教育相ら、大統領弾劾動議を提出
- 8.29 政府軍、トリンコマーリー県で重点攻撃を開始。55 人の軍兵士、400 人以上の LTTE グリラが死亡したと報告されている
- 8.29 軍、大統領弾劾動議に対して中立を保つよう兵士らに警告
- 9.1 ブラバカラン、ジャフナで政府に平和会議を要求
- 9.3 ラリト、IPKF 駐留時に政府が LTTE に武器を供与していたことを暴露
- 9.4 ブラバカラン、BBC のインタビューに答えて、LTTE はいつでも交渉する用意があるが、交渉は無条件で行われなければならないと述べる。また LTTE によるラジーヴ・ガンディー元首相暗殺を否定。しかしインドと LTTE が対立関係にあったことを認め、インドを非難
- 9.5 軍当局、8 月 26 日のヴェリオヤ地区の戦闘で LTTE グリラ 226 人が死亡と発表
- 9.5 大統領顧問、ロンドンで LTTE と話し合いをした事実はないと表明

- 1991 9.12 アムネスティ・インターナショナルが最近の報告書で LTTE の人権侵害を批判と、*Island* 紙が報道
- 9.11 トンダマン、インド首相と会談、北・東部の難民問題、ラジーヴ・ガンディー元首相暗殺問題について協議
- 9.16 大統領、1989 年に LTTE とともに TNA と戦ったことを認める
- 9.17 ジェノバで行われた人権にかんする国連会議で PLOTE の指導者が LTTE の人権侵害、政府軍による強制退去命令に関して報告。また、難民に対する措置の必要性を主張したと *Island* 紙報道
- 9.17 *Island* 紙、トンダマンにインタビュー、9 月 5 日ニューデリーに出発する前に ICRC を通じて LTTE に平和会談を持ちかける書簡を書いたが、今のところ LTTE からの返事はない
- 9.19 政府軍、ヴェリオヤのミハエル基地で戦闘が継続中、LTTE は 3000 人を動員していると発表
- 9.20 政府軍、ムライティブ県の LTTE 最大の基地を掌握。約一カ月の戦闘で LTTE グリラ 620 人、政府軍兵士 60 人が死亡
- 9.23 LTTE、与党内部の造反派支持を表明。また 16 日の大統領による政府軍と LTTE の関係についての発言を否定。政府軍と LTTE は TNA を倒すのに協力していない
- 9.23 EDF (EROS の政治団体)、EROS は LTTE のパートナーではないと否定
- 9.25 野党、LTTE に武器を供与した件で政府に不信任動議を提出、国会議長はニューデリーでの会議に出席するため同日離島
- 9.25 LTTE、ICRC を通じて書簡でトンダマンにジャフナでの和平交渉を呼びかけ。これに対してトンダマンも 27 日に LTTE 幹部のマハッタヤに宛てた書簡で対話条件の提出を要求
- 9.26 LTTE、9 人の EROS 議員の国会復帰を承認
- 9.28 政府軍、全党的な LTTE 撲滅作戦開始。マンナール島を除くマンナール県に無期限夜間外出禁止令公布

- 9.30 インド首相、スリランカ政府の対 LTTE 武器供与を批判
- 9.30 SLFP 総裁、EROS 議員の国会復帰に驚きを表明。議員への便宜が LTTE の活動に使用されるのではと懸念
- 10.5 北部州に外出禁止令布告
- 10.16 政府軍、LTTE の拠点を激しく攻撃。政府軍 30 人、LTTE 側 80 人が死亡
- 10.19 政府軍、ジャフナ半島の戦闘を強化
- 11.1 インド政府、タミル・ナードゥ州のスリランカ難民を 12 月初旬に返還すると決定。5 万 3000 人のうち 1 万 6000 人が帰国を希望している
- 11.3 ムスリム 4 万人がプッタラムで LTTE に対して抗議デモ
- 11.8 インド沿岸警備隊、東南アジアで武器を調達した LTTE の船 2 隻をタミル・ナードゥ州沖で拿捕
- 11.9 トングマン、LTTE から新たな書簡を受理したと発表
- 11.20 キットゥ、スイスに亡命を申請
- 11.23 15 閣僚がバブニヤを視察
- 11.24 政府軍、20 日から 27 日までジャフナで LTTE による戦没者追悼記念式典が開催されると発表
- 11.28 首相、もし LTTE が民主的な方法をとらないのなら、政府は LTTE を撲滅させるまで戦うと宣言
- 12.2 政府軍、軍は北部で LTTE に投降を呼びかけるビラをヘリコプターで散布したが、LTTE 側はこれを拒否と発表
- 12.4 インド国会内に LTTE 調査委員会が設置される
- 12.5 政府軍、コロボ市内で 36 キロの弾薬を積んだ車両が発見されたと発表
- 12.7 大統領、バブニヤを訪問。行政と市民生活の正常化への努力を表明
- 12.8 仏教僧の団体、トングマンの提案はスリランカの独立を脅かすものだとして反対を表明
- 12.9 ジャフナで LTTE とトングマンの話し合いが予定されていたが、大統領の許可がまだ出ていないという理由で延期
- 1991 12.18 復興省次官、タミル・ナードゥ州のスリランカ難民 2 万人が帰国を望んでおり、帰国の第一陣は 92 年 1 月 15 日以降になる見込みと発表
- 1992 1.2 大統領、就任 3 周年式典において、北・東部州の危機に関するいかなる政治的解決も、議会の特別委員会の同意を得ないで実施することはあり得ないと言明
- 1.6 1987 年のインド・スリランカ和平協定に基づいて両国外相が出席する合同委員会がニューデリーにおいて 4 年半ぶりに行われ、約 23 万人のスリランカ難民の帰国問題が話し合われた
- 1.10 LTTE が政府軍の攻撃を予期して 5000 の棺桶を注文したとコロボの ICRC 幹部が述べる
- 1.22 750 人のスリランカ・タミル人がタミル・ナードゥ州からトリンコマリ港に帰還
- 2.1 インド中央捜査局の証拠に基づき、マドラス地方裁判所は、ラジーヴ・ガンディー元首相暗殺事件の被告としてブラバカラン委員長に 2 月 28 日までに同裁判所へ出頭するよう命令した
- 2.15 政府、ジャフナ半島における 72 時間の外出禁止令布告、政府軍の攻勢始まる
- 2.18 オーストラリアでスリランカ・タミル人商人が航空券や通貨を偽造し、イスラエルから LTTE のために武器を購入していたことが判明し、摘発される
- 2.28 LTTE、北・東部州で政府軍と交戦、LTTE 側に 121 人、軍側に 21 人の死者と政府が発表。外出禁止令布告
- 3.2 北部州の前線において LTTE が 30 人の死者を出し、東部州で政府軍兵士 19 人の死体を収容と政府が発表
- 3.5 バブニヤ地区において、LTTE の女性兵士 25 人が爆死したと *Hindu* 紙が報道
- 3.17 ジャフナ沖の海上でインドのトロール船がスリランカ海軍に砲撃され炎上。3 月 26 日の記者会見で海軍司令官がこの事実を認める
- 4.1 政府軍と LTTE、教育省が実施する統一試験の期間中のみ休戦することに合意

- 4.9 元警察庁次長のウドゥガンボラ、公権力が政争による集団的な殺人事件に関与したと言明。この証言を重視した7野党は合同記者会見を行い、大統領と内閣の辞職を求めた
- 4.14 LTTE 幹部キットゥ、ロンドンよりフランス、スイス、インド経由で帰国
- 4.23 シンハラ仏教僧の代表団がジャフナを訪問し、LTTE 幹部と 13 項目の和平条件について話し合うが、合意には至らず
- 4.30 インド大使、大統領がハンバントータで行った演説で IPKF を占領軍と呼んだことに抗議する文書をスリランカ外務省に手交
- 5.4 ノルウェー政府代表団、人権問題の調査のため来島。調査結果を経済援助額に反映させる予定
- 5.14 インド政府、LTTE の政治活動禁止とブラバカランの身柄引き渡しをスリランカ政府に要求。しかしスリランカ政府は LTTE を非合法化しない方針
- 5.24 南部のブーサ収容所において、JVP 運動で拘留されている収監者約 600 人が暴動を起す。警察に 1 人が射殺され、60 人が負傷
- 5.30 政府軍、過去 3 日間に北部州で激しい軍事作戦を展開、この作戦で LTTE ゲリラ 260 人以上、政府軍兵士 33 人が死亡したと政府が発表
- 7.4 ジャフナ上空で中国製軍用輸送機爆破され、6 人の将校を含む 19 人の兵士が死亡
- 7.11 北部州の政府軍基地、LTTE ゲリラによって攻撃され、46 人死亡
- 7.14 キリノッチ、ムライティブの両県で無期限外出禁止令公布
- 7.24 SLMC、政府に対して陸軍にムスリム部隊の新設を要求
- 8.8 ジャフナ沖カイツ島の道路上で走行中のジープが爆破され、コッペカドゥワ陸軍北東部司令官、ジャヤマハ海軍北部司令官等の政府軍幹部 10 人が死亡
- 8.12 コロンボ市における政府軍幹部の葬儀に際して民衆の反政府感情が爆発し、大衆的な暴動となる
- 9.1 自転車に積んだ爆弾がパティカロアで爆発、22 人のムスリム死亡
- 9.4 国際ペン・クラブのキーリー会長、ジャフナで LTTE に拘禁されているタミル人女性詩人セルヴァンティに「執筆自由賞」と授与すると発表
- 9.13 人権タスクフォースの会長報告によれば、7356 人が非常事態宣言によって裁判を受けることなく拘留され、さらに東部州を中心に 3589 人が行方不明
- 1992 10.3 インド首相、ニューデリー訪問中の大統領との首脳会談で、タミル問題の平和的解決はスリランカの内政問題であると言明
- 10.15 東部州メディリギリヤ地区でムスリム農民が LTTE に襲撃され、145 人が殺害され、70 人が負傷
- 11.17 海軍司令長官、車で出勤途中にコロンボのゴルフフェイス・グリーンにて爆死
- 12.2 8 月に爆死したコッペカドゥワ中尉の婦人は、陸軍幹部の死因について国際的な調査団を任命するよう首相に求めて記者会見
- 12.9 政府、ロシアから戦闘用ヘリコプター、チェコから戦車を購入し、戦力を強化することに決めた
- 12.13 LTTE、議会特別委員会の検討を提案するため北部州で政府軍を攻撃しないよう停戦の指令を出した
- 12.31 過去一年間に北・東部州の戦線において、政府軍の兵士 1157 人が死亡し、2004 人が負傷する一方、LTTE 兵士 2876 人の死体を確認したと軍報道官が公表
- 12.31 ロイター電、法相・高等教育相、パリで LTTE 幹部ローレンスと和平交渉と伝える
- 1993 1.2 LTTE 幹部のヨギ、北部州と東部州の統合を認めなければスリランカ政府軍との和解はあり得ないと言明
- 1.10 政府、LTTE の軍事活動を封じ込めるため、ジャフナ・ラグーン内の自由通行を禁止すると布告
- 1.16 LTTE 幹部キットゥ、乗っていた武器輸送船がインド海軍に拿捕され爆破自殺
- 1.16 スリランカ空軍、アルゼンチン製のブカラ爆撃機を 4 機購入、北部基地に配置
- 2.1 政府軍、パバリ空軍基地にて LTTE の捕虜 20 人を釈放し、和平へのジェスチャーを示す。第 45 回独立記念式典の祝賀行事の一環
- 3.3 ブラバカラン、連邦国家制を受け入れることに同意したと伝えられる

- 3.28 政府合同司令本部、過去3カ月間に200人を超えるLTTEゲリラを殲滅したと発表
- 4.23 **統一国民民主戦線のラリト・アトラトムダリ委員長、コロンボの選挙集会で演説中に射殺される。** 政府、真相究明のため英国警視庁の専門家を招くことを決定
- 4.29 政府、外出禁止令布告。アトラトムダリの葬儀に際し、コロンボ市で暴動が発生したため
- 5.1 **ブレマダーサ大統領、メーデー行進の指揮中に爆弾を身につけたタミル人に暗殺される**
- 5.1 ディンギリ・バンダ・ヴィジェトンガ首相が憲法上の規定に従い、大統領代行に就任
- 5.8 新大統領、スリランカ政府が直面しているのは、北部のテロリズム問題であって、民族問題ではないと公式に言明
- 5.17 北・東部州を除く7州で州議会選挙を実施、投票率は75%以上
- 6.17 LTTEの捕虜である警官30人の親族がジャフナを訪問し、釈放を求めてハンストを実施
- 6.18 南インドに亡命中の前警察庁次長ウドゥガンボラが帰国。刑事上の全ての訴追を免責されたうえ、スリランカ港湾公社副理事長に任命される
- 7.28 ジャフナ訪問のウイクレマシン八首相、和平交渉のための扉は今も開かれていると言明
- 8.3 ノーベル賞受賞者4氏が民族抗争の和平案を提示、スリランカ政府は同提示案を拒絶
- 8.23 スリランカ陸軍、大規模な募兵を開始
- 8.29 海軍のイスラエル製最新型巡洋艦、ポイントペドロ沖でLTTEに撃沈される
- 9.2 政府、マンナールからトリンコマリーに至る海峡を立ち入り禁止帯とする非常事態令を布告
- 9.14 タミル人難民7000人が国連の援助プログラムにより南インドから帰国する
- 9.18 イラナヴィラにおけるVOA中継所の建設反対で地域住民1万2000人が抗議活動
- 9.19 LTTE、TULFアミルタリンガム書記長の殺害を初めて認める
- 9.28 政府軍、ジャフナ・ラグーンにおけるLTTE基地を殲滅するため、5日間にわたる「ヤール・デーヴィ」作戦を開始するが失敗に終わる
- 9.30 国連難民弁務官事務所、マドゥー難民キャンプでの活動停止を発表。難民間の対立が激しく、正常な任務の続行が困難なため
- 1993 11.12 プーリネン陸軍基地とナーガテワントライ海軍基地がLTTEに攻撃される、死者675人を出し、LTTEが敗北
- 11.16 英国警視庁チーム、アトラトムダリ銃殺事件に政府が関与していなかったとの調査報告書を提出。同婦人はこの報告を認めず、裁判で争うと言明
- 11.25 LTTE、ジャナカブラ陸軍基地を襲撃、ゲリラ400人以上を殺害し、5000万ルピー相当の武器を奪い取る
- 12.27 空軍機、北部で激しい空爆を実施、LTTEゲリラを含む多数の死者を出す
- 1994 1.15 ウイクレマシン八首相、南部の政治集会でLTTEに人種抗争終結のための提案を呼びかけ
- 1.27 コロンボのローマ・カトリック教会代表団がジャフナ半島でLTTEと紛争を集結させる方法について会談
- 2.2 大統領、UNP大会で大統領選と議会選を一本化する憲法改正案を提案
- 2.4 クリストファー米国務長官、スリランカ政府とLTTEを人権侵害で非難
- 2.13 政府軍、トリンコマリーで「ペルスmana(スリランカ中世の将軍名)作戦」を展開、LTTEの隠れ家などを破壊
- 2.21 首相、LTTEに対しジャフナ半島への地上ルートの妨害をやめれば経済封鎖を解除すると提案
- 3.1 北・東部の4地区で地方自治体選挙実施
- 3.8 ブラバカラン、ラジオ放送を通じて政府との和平会談を提案
- 3.15 大統領、記者会見でLTTEが暴力行為の放棄など3条件を受け入れるなら、和平交渉を開けると言明
- 4.6 国会、中国から軍艦4隻を購入する協定を追認

- 4.8 コロンボ市内で9日にかけてLTTEによると見られる連続爆破事件が5件発生
- 4.29 政府軍、パプニヤ地区で「ジャヤマガ(勝利の道)」作戦を展開、LTTE 支配下のシナタムパナイ村制圧
- 6.24 大統領、国会解散
- 7.15 大統領、総選挙を前に1989年6月から続いた非常事態令を解除
- 7.20 人民連合(PA) 現行大統領制を廃止して、議院内閣制を復活する選挙綱領を発表
- 8.16 **総選挙実施、PAが105議席を獲得して第一党に**
- 8.18 LTTE ロンドン事務所、BBCとのインタビューで同組織は新政権を歓迎すると表明
- 8.31 クマラトゥンガ首相、LTTE 支配地域に対する経済封鎖の緩和を発表
- 9.4 政府、総選挙後に発令していた非常事態令を北・東部を除き解除
- 9.21 LTTE スポークスマン、ジャフナで会見し、新政権との対話に応じる姿勢を示す
- 10.13 政府とLTTEが4年ぶりに和平のための予備交渉を再開
- 10.24 **23日夜からコロンボ市内で開かれていたUNPの政治集会で未明に爆弾テロが発生。ガミニ・ディサナケ大統領候補が暗殺される**
- 10.24 LTTE、爆弾テロへの関与を否定、政府、全土に非常事態宣言公布
- 11.9 大統領選挙実施、クマラトゥンガ首相が大統領に就任。LTTE との和平会談再開を約束
- 11.21 政府、LTTE に和平交渉再開を正式に提案
- 12.12 大統領、LTTE が暫定停戦を受け入れたと発表
- 12.24 スリランカ軍事当局者によると、パティカロアで政府軍兵士の乗ったバスがLTTEによって爆破され、少なくとも5人が死亡
- 1995 1.3 政府とLTTEが和平のための予備交渉を再開
- 1.6 **大統領が国会で演説、LTTE と暫定停戦で合意したと発表**
- 1995 1.8 政府とLTTEの2週間の暫定停戦発効
- 1.14 ジャフナで政府とLTTEが3回目の和平予備交渉。暫定停戦の延長を決定。政府は和平のための包括的な政治解決案を提示したが進展なし
- 1.23 政府、大統領制から議院内閣制への憲法改正案を発表
- 2.24 SLMC とムスリム統一解放戦線が合併
- 3.17 プラバカラン、大統領に書簡を送る。政治交渉受入の条件として、プーネリン陸軍基地の撤去などを再提案
- 4.10 政府とLTTE、4回目の和平予備交渉。政府はLTTE 支配地域への燃料の禁輸を解除すること、包括和平案などを検討する3委員会を設置すること、暫定停戦を継続することなどで合意
- 4.18 LTTE、大統領に対し政府がLTTEの要求に応じないために暫定停戦を破棄すると通告
- 4.19 **未明、LTTE がトリンコマリ軍港に停泊中の政府の艦艇2隻を沈没させ、乗組員12人が死亡。停戦が崩壊**
- 4.23 治安当局、コロンボでタミル人500人を拘留し、LTTE との関係を探問
- 4.28 LTTE、ジャフナの基地から飛び立った政府軍機を撃墜
- 4.29 LTTE、再び政府軍機を撃墜、政府は緊急国家安全保障会議を招集
- 5.12 パティカロアで大規模なLTTE 掃討作戦を開始
- 5.22 大統領、テレビ演説の中で対LTTE 軍事行動を辞さずとの態度を明らかにする
- 5.26 LTTE、東部のシンハラ人村を襲撃、42人を殺害
- 6.2 ゴールでタミル人の商店や住宅約20件が焼き討ちされる
- 6.4 北部海上でICRCのチャーター船が、LTTE が仕掛けたと見られる機雷に触れる。乗組員1人が行方

不明、2人が負傷

- 6.13 コロンボでマナーロンダリング対策会議を開催
- 7.9 政府、1万人以上を動員し、ジャフナ半島のLTTE掃討作戦**Leap Forward**を開始
- 7.10 LTTEのラジオ放送、政府軍の攻撃で民間人150人が死亡し、30万人以上が避難を余儀なくされたと伝える
- 8.3 大統領、各州に大幅な自治権限を与える憲法改正案を発表
- 8.7 コロンボの西部州首相府前で大規模な爆弾テロ。21人が死亡、40人以上が負傷
- 8.8 パティカロアで爆弾テロ
- 8.12 LTTE、憲法改正案を拒否
- 9.4 スリランカ警察のエリートコマンド部隊が囚人21人の変死事件に関与していたことが明るみになる
- 9.13 スリランカ空軍のAN32輸送機がコロンボの北西45キロの海上に墜落し、75人死亡
- 9.17 大統領、LTTEとの内戦が長期化した場合には徴兵制を導入する可能性があるとする
- 10.17 政府、ジャフナ半島の大規模な掃討作戦「サンシャイン作戦」開始
- 10.20 コロンボ近郊の石油貯蔵施設がLTTEによって爆破され、25人が死亡
- 10.21 LTTEが東部のシンハラ人村3カ所を襲撃、住民64人を殺害
- 12.1 政府、内戦激化のため全学校に休校命令。ジャフナ市から大量の住民脱出が始まる
- 12.2 政府軍、LTTE本拠地のジャフナを制圧
- 12.4 パティカロア駅で爆弾テロ、列車などが炎上
- 12.5 パティカロアの警察特殊部隊駐屯地に爆発物を積んだLTTEの車が突入。爆発と銃撃戦で69人が死亡
- 12.5 タミル諸党派、政府とLTTEに対し即時停戦を要求
- 12.8 政府、国防費の大幅増額を盛り込んだ96年度予算を発表
- 1995 12.11 コロンボの国軍総司令部付近で2件の連続爆弾テロ15人が死亡
- 12.18 ジャフナ半島でLTTEが政府軍の輸送機を撃墜
- 12.23 ジャフナ半島で空軍輸送機撃墜される。60人死亡

- 1996 1.21 LTTE、が北部で政府軍のロシア製ヘリを撃墜。39人死亡
- 1.31 LTTEゲリラ、コロンボの中央銀行ビルに突入し、ビルを爆破。92人死亡、500人以上が負傷
- 2.7 コロンボの上水に毒がまかれたとのうわさが広がり、市民がパニックに
- 2.11 政府軍兵士、トリンコマリー地区の村民約30人を殺害
- 2.14 北部海上でスリランカ海軍が武器を積んだLTTEの輸送船を破壊
- 3.2 マレーシア政府、国内でのLTTEの活動を禁止
- 3.5 大統領、仏教教団幹部との会談で、政府の地方への権限委譲案への支持を訴え
- 3.11 バティカロアで、政府軍とLTTEが交戦
- 3.24 LTTE、東部州で待ち伏せ攻撃。政府軍兵士40人を殺害
- 4.12 LTTEが未明にコロンボ港に攻撃を仕掛けたが撃退される
- 4.19 政府軍、ジャフナ半島のテナマラッチとヴァダマラッチで大規模なLTTE掃討作戦開始
- 4.19 政府、軍事ニュースに関する検閲開始
- 5.16 政府軍、LTTEの拠点の一つ、ヴァダマラッチを制圧
- 6.11 LTTE、ブッタラムのシンハラ人村を襲撃14人を殺害
- 7.4 ジャフナ半島でのLTTE自爆攻撃で政府軍将校ら22人が死亡
- 7.14 デヒワラ駅近くで列車爆破、70人死亡、600人が負傷
- 7.18 **LTTE、奇襲作戦で政府軍のムライティブ基地を制圧し、大量の武器弾薬を奪う。戦闘で軍兵士1200人が死亡**
- 8.9 トリンコマリー港で海軍がLTTEの船舶を攻撃し、30人を殺害
- 8.30 リフキンド英外相がスリランカを訪問、英国内でのLTTEの資金集めなどに法的措置をとることを確約
- 9.12 LTTE、アランタラワで民キャンパスを襲撃
- 9.29 **政府軍、北部のLTTE本拠地だったキリノッチを制圧、LTTEをジャングルに追い込む。軍255人、LTTE側750人死亡**
- 10.8 軍事ニュースに関する検閲停止
- 11.11 カンケンサントウライ港へのLTTEの攻撃に海軍が応戦し、LTTEゲリラ30人を殺害
- 12.8 政府軍ヘリコプター、LTTE支配地域に不時着。乗っていた国防副相、R.ダルワッテらは一命を取り留める
- 1997 1.4 EPDP、ジャフナ市に6年ぶりに政党事務所を再開
- 1.9 LTTE、パラントンとエレファント・パスの軍事基地を攻撃。軍側に223、LTTE側は約500人の死傷者
- 1.31 大統領、調査の結果、1988年のヴィジャヤ暗殺に故プレマダーサ大統領とウジェラトナ元国防副相が関与していたと発表
- 2.3 Edi Bala (Brave Force) 作戦、マンナール・バブニヤ間道路を軍が確保
- 2.20 インドに向かう難民150人の乗った漁船がマンナール沖で転覆。130人が死亡
- 2.22 政府軍、2月はじめに開始した作戦の結果、バブニヤとマンナールをつなぐ幹線道路を確保
- 3.3 ヌアラ・エリアでの大統領の別荘近くで爆弾爆発。少なくとも一人が死亡
- 3.6 LTTE、4、5、6日にかけてバブニヤ、トリンコマリー、バティカロアの政府軍施設を襲撃。政府軍76人、LTTE側は168人が死亡
- 1997 3.6 大統領、今年度未までに内戦を終結させると宣言
- 3.9 現地紙、LTTEパリ支部のローレンスが秘密裏にスリランカにやっていると報道。ブラバカラに第三国の仲介による和平の可能性があると伝達か。

- 3.15 政府軍、東部の LTTE 基地（ムライティブ、ヴェリオヤ）を攻撃。LTTE 側 65 人死亡
- 3.17 親 LTTE 団体によるデモストレーションが（国連）人権委員会開催中のジュネーブで行われる
- 3.17 政府内に人権委員会設立
- 3.21 地方選挙、238 地方議会のうち PA（人民連合）が 194 議会で過半数を占める。一方 UNP は 43 議会で過半数を占める
- 3.24 ムライティブ沖で LTTE の船艇 25 隻と海軍が交戦。LTTE は沿岸部の石油施設に自爆攻撃を試みたが失敗
- 3.24 バレスチナ・アラファト議長、スリランカ訪問（～25 日）
- 3.26 憲法改正案の 18 章分を一般に公表
- 4.3 **イギリスの仲介により PA と UNP が民族紛争解決に向けて歴史的合意に達した**
- 4.27 LTTE、北・東部で軍基地などを襲撃。軍側に 31 人の被害
- 5.7 ICRC、コロンボで政府と LTTE に対して民間人の人命尊重を要請する声明文を発表
- 5.13 政府軍、「ジャヤシクルイ（確実な勝利）」作戦開始
- 5.29 大統領、TULF などタミル政党と北部情勢について会談。休戦も考慮すると語る
- 6.10 LTTE、バブニヤの政府軍基地を攻撃。軍側 100 人、ゲリラ側 210 人死亡。（女性兵士が多数参加したとの報道あり）
- 6.24 LTTE と軍、プリヤンクラムで衝突。軍側 118 人、ゲリラ側も多数死亡（～25 日）。軍は作戦を一時停止。7 月 3 日に再開
- 7.1 LTTE、マンナールからジャフナに向かう難民輸送船ミッセンを爆破し、インドネシア人乗員等を拉致。4 日に解放
- 7.1 14 人のムスリム漁民が LTTE に誘拐される。翌日の夕方解放される
- 7.2 トリンコマリエ島の沿岸の村からシンハラ 4 人、ムスリム 37 人が LTTE に誘拐される。LTTE がムスリムコミュニティに対して政府支持を取りやめるよう脅迫
- 7.5 TULF の国会議員タンガトゥライ（61 才）他 5 人がトリンコマリエで移動中に LTTE の襲撃を受けて死亡
- 7.7 LTTE、ジャフナ沖で北朝鮮食糧貨物船モランボン号をハイジャック。船員一人死亡
- 7.9 北朝鮮船員の遺体、ICRC に引き渡される。その他の 37 人船員は 12 日に解放。その後 8 月 21 日、ICRC が交渉にあたり LTTE は船を解放すると合意（実際の引き渡しは 9 月）、2 日に誘拐されたムスリムのうち 10 代の年少者 8 人も ICRC 経由で解放される
- 7.15 LTTE ロンドン事務所、ジャフナに軍事物資を運ぶ船舶は攻撃する、とスリランカ政府に通告
- 7.17 ピーリス副蔵相・法相、UNP に権限委譲案についての対案を早急に提出するよう要求
- 7.20 UNP 国会議員マハルーフ（58 才）、トリンコマリエで暗殺される。2 日に LTTE に誘拐されたムスリム村人の家族を慰問する途中
- 7.21 バティカロアで LTTE が軍施設を襲撃。LTTE 側 58 人死亡
- 7.23 アレキサンダ・ドナー・オーストラリア外相、スリランカ訪問。LTTE を批判（～25 日）
- 7.25 アメリカ政府、LTTE の民間人に対するテロ行為を批判。スリランカ政府の権限移譲案を支持
- 8.1 LTTE、オマンタイを襲撃。LTTE 側 126 人、軍 67 人死亡。ジャヤシクルイ作戦開始以来 LTTE による大規模な攻撃はこれで 3 回目
- 8.2 米国議会上院、LTTE をテロリスト組織に分類することを全会一致でクリントン政権に提言
- 8.6 国連難民弁務官事務所、LTTE が難民の帰還と食糧輸送を妨げていると批判

- 1997 8.9 IHRC（国際人権委員会）LTTE をテロ組織と認定
- 8.19 プリヤンクラムで交戦、LTTE 側 130 人が死亡。21 日に軍、プリヤンクラム駅を掌握

- 8.24 LTTE、パティカロアを襲撃。軍 15 人民間人 4 人が死亡
- 8.25 大統領、和平と憲法改正への理解を深める平和キャラバンのためアヌラダプラで僧侶達に協力を要請。全国を遊説
- 8.28 マンナール、トリンコマリーからジャフナに向かう船の運航が再開
- 8.29 カナダ連邦裁判所、タミル人・スレッシュの入国を拒否する判決を出す
- 9.3 軍と LTTE、ポリオ予防接種のため 4 日間の停戦に合意
- 9.6 LTTE、停戦を破り、ポロンナルワ県で兵士 3 人を殺害
- 9.9 LTTE、ムライティブ沖で作業中の香港船コーディアイティを襲撃。民間人 4 人を含む少なくとも 32 人が死亡
- 9.9 インダーファース南アジア担当米国務次官 スリランカ訪問。政府の権限委譲パッケージ支持を表明
- 9.11 国会権限・特権条例（1978 年制定）国会で廃止を決定
- 9.11 コロンボの EPDP 事務所に手榴弾が投げつけられる
- 9.17 シンハラ委員会中間報告、政府提出の権限委譲案を否定
- 9.23 アンパラのタミル人入植地でムスリムの自警団ら民間人 5 人が殺害される。前日に警官が殺害されたのがきっかけ
- 9.29 大臣会議、全会一致で権限委譲案に賛成（公式声明は発表されず）。権限移譲の単位がほぼ決定。トリンコマリーとパティカロアで国民投票を行うことも決定
- 9.30 プリヤンクラムの北で戦闘
- 10.2 カジルガマル外務大臣、オルブライト国務長官と会談。LTTE テロ指定について議論
- 10.3 外務大臣、国連総会で演説。LTTE が子供を兵士として戦わせていることを非難
- 10.4 LTTE ロンドン支部、ジンバブエ船ハイジャックの疑いを否定
- 10.5 プリヤンクラム周辺で戦闘。LTTE 側 150 人、政府軍 34 人が死亡
- 10.6 アンパラ県で LTTE が警察署を襲撃。警官 6 人が死亡
- 10.7 ラリト・アトラトムダリ暗殺調査委員会、前大統領のブレマダーサが直接関与していたと断定
- 10.8 **アメリカ、LTTE を含む 30 団体をテロリストと見なす公式発表**
- 10.11 カタラガマのバス停が放火され、一人死亡
- 10.15 世界貿易センター裏のホテル駐車場でテロの自爆攻撃。18 人死亡、外国人 36 人を含む 100 人以上が負傷
- 10.19 ムライティブ沖で海軍と LTTE が交戦。LTTE 側に 100 人近い死者
- 10.23 カナガラヤンクラム周辺で、政府軍、LTTE グリラを待ち伏せ攻撃、グリラ側 50 人死亡
- 10.24 ピーリス副蔵相・法相、国会に憲法改正案提出
- 10.27 ピーリス副蔵相・法相、スリランカ国内で LTTE を非合法化することはない、と語る
- 10.28 駐スリランカ・アメリカ大使 S ドネリー、アメリカ政府は LTTE のアメリカの利益に対する攻撃に容赦しないと語る
- 10.29 米軍、スリランカへの医療活動訓練の日程を繰り上げて帰国
- 11.2 空軍、ムライティブ沖で LTTE の輸送船を破壊
- 11.14 ケラニティッサの発電所に爆弾が仕掛けられる
- 11.14 政府軍、ジャヤシクルイ作戦の最終局面に突入
- 11.20 空軍、マンクラム北東の LTTE 基地を爆撃したと報告
- 1997 12.4 マンクラム周辺で交戦、政府軍 157 人死亡。国際赤十字、軍側の 146 人の兵士の遺体を引き渡し
- 12.9 パティカロアの市街地で爆発、4 人死亡

- 1998 1.12 政府軍、カナガラヤンクラムから LTTE を排除
- 1.12 成田発スリランカ行きエアランカ便に LTTE を名乗る男から爆破予告電話があったが、不審物は発見されず
- 1.16 1981 年の暴動で焼失したジャフナ図書館、再開
- 1.25 **LTTE、キャンディの仏歯寺を爆破、16 人死亡**
- 1.26 **政府、スリランカ国内における LTTE の活動を非合法化、活動禁止**
- 1.28 政府、独立 50 周年式典会場をキャンディからコロンボに変更すると決定
- 1.28 1991 年のラジーヴ・ガンディー暗殺容疑でスリランカ人 16 人に死刑判決が下る
- 1.28 国防副相、仏歯寺爆破の責任をとって大統領に辞表を提出するが慰留される
- 1.29 北部州で地方選挙が行われる。投票率は 25% 程度。ジャフナ市長に TULF の女性候補が当選
- 1.29 統一国民党(UNP)、憲法改正案の対案の一部を提出
- 2.1 キリノッチ、エレファント・パス、パラントンの政府軍基地を LTTE が襲撃、軍の反撃により LTTE 側に 350 人の被害
- 2.3 チャールズ英皇太子、独立記念式典に参加するために来訪(~ 6 日)
- 2.4 コロンボで独立 50 周年式典
- 2.6 コロンボ市内の空軍司令部チェックポイント付近で女性の自爆攻撃による爆破のため 9 人死亡
- 2.10 国防省、独立 50 周年を記念して脱走兵に対して恩赦を発表。20 日深夜までに帰還するよう呼びかけ
- 2.12 *Sunday Leader* 紙に戦況レポートを書いているイクバル宅に空軍関係者が侵入、脅迫
- 2.22 ポイントベドロ沖で海軍船 2 隻が LTTE の襲撃を受け、少なくとも 45 人が行方不明。LTTE の女性自爆攻撃で 11 人死亡
- 3.5 コロンボ・マラダーナ駅付近で、LTTE による自爆攻撃により、37 人死亡、250 人余りが負傷
- 3.5 *Island* 紙、南アフリカ政府が LTTE の事務所開設の申請を却下と報道
- 3.9 バティカリア県で爆弾を積んだトラックが爆発。警察官 1 人を含む 5 人が死亡
- 3.9 トリンコマリイ県で LTTE が警察署を襲撃。警官が少なくとも 3 人死亡
- 3.11 TULF のサロンジニ・ヨゲスヴァラン、ジャフナ市長に就任
- 3.14 マンクラム周辺で政府軍と LTTE が激しい戦闘(~ 15 日)。少なくとも 39 人が死亡
- 4.12 ジャフナのマーケットで爆発、1 人死亡、19 人負傷
- 4.14 LTTE、トリンコマリイ県の警察署を襲撃、4 人死亡
- 4.17 英連邦担当大臣スリランカ訪問(~ 20 日)。民族問題解決の仲介を申し出る
- 4.18 アメリカ国連大使ビル・リチャードソン、南アジア担当補佐官インダーファース、スリランカ訪問。LTTE に武装解除と交渉に応じるよう呼びかけ
- 4.27 カルタラの電話交換所爆破される。5000 回線が不通に。以降、電話交換所の爆破が相次ぐ
- 5.4 国防省、1 万 5000 人の脱走兵に対し、5 日間の恩赦期間を与えると発表
- 5.8 スリランカ訪問中のオトゥンヌ国連特使、LTTE が 17 歳以下の少年・少女の徴兵を即時中止すると約束したことを明らかにする
- 5.12 インド、LTTE の国内活動禁止措置を 2 年間延長
- 5.13 ジャヤシクルイ作戦 1 年経過。これに対して、プラバカランはロンドン支部を通して LTTE はゲリラ戦から近代戦に転換した、と声明を発表
- 5.14 軍のバス、マンナールからアヌラーダブラに向かう途中で、地雷を踏み幹部を含む 13 人死亡。ポイントベドロでも、軍幹部が LTTE の自爆攻撃で死亡
- 1998 5.17 ジャフナ市長サロンジニ・ヨゲスヴァラン(60 才)、暗殺される
- 5.22 仏教関係者らの要請で脱走兵に対する恩赦が実施され、4500 人余りが帰還

- 5.30 マンクラムおよびキリノッチ周辺で戦闘があり、政府軍とLTTEの760人が死亡、2200人が負傷
- 6.5 国内外の報道機関に対して戦況に関するすべての報道を国防省が事前に検閲すると発表
- 6.5 ジャフナのTULF事務所の副事務所長、殺害される
- 6.10 国防副大臣、4日から始まった北部の戦闘で433人が死亡と発表
- 6.29 ジャフナ市長にTULFのシバパランが就任
- 6.30 EPDP党首ダグラス、カルタラの刑務所でハンスト中の囚人を慰問中に刺され重傷
- 7.10 新・失跡者調査大統領委員会発足
- 7.20 テロリスト調査局、パブニヤでタミル紙記者を拘束(8月10日に釈放)
- 7.21 政府、警察にジャフナにおける大量虐殺について調査するよう命じる
- 8.5 政府、非常事態宣言を全土に拡大し、28日に予定されていたウバ・中央・北部・サバラガムワ・西部州の地方評議会選挙の実施を延期すると発表
- 8.13 大蔵副大臣、国防費に80億ルピー追加を発表
- 8.15 空軍、ムライティブ沖でLTTEにハイジャックされた民間船を爆撃
- 8.31 南アフリカで開催中の非同盟諸国会議に際し、南ア在住タミル人らがデモ行進
- 9.8 大統領、UNP議員J.ジャヤフルダナとLTTE幹部による人民連合(PA)政府転覆計画があったことを明らかにし、LTTEとの無条件の和平対話は再開はしないと発言
- 9.11 ジャフナ市庁舎で爆弾テロがあり、シバパラン・ジャフナ市長(46才)、軍幹部ら12人が死亡
- 9.17 UNICEF、ポリオ接種のため政府とLTTEゲリラが4日間の休戦に合意したと公表。休戦は18、19日および10月23、24日
- 9.22 大統領、第53回国連総会の一般演説でLTTEが子供をゲリラとして戦わせていると非難
- 9.22 政府、国防費の追加支出122億ルピーの承認を議会に要請
- 9.28 UNDPの在スリランカ代表、ジャフナ半島の地雷除去作業は年末にも始まると語る
- 9.29 ジャフナ発の民間航空機が離陸直後に消息を絶つ。10月1日に機体がジャフナ沖で発見される
- 9.30 国防省発表、27日から続いているパラタン・キリノッチ間の戦闘で、政府・LTTE双方合わせて1000人以上の死者が発生
- 10.2 軍、キリノッチ南部の拠点を失うが、マンクラムを制圧
- 10.16 国防省、脱走兵に対して3日間の恩赦を発表し帰還を促す
- 10.22 経済団体、北・東部州の紛争解決を最優先課題として合意
- 10.24 LTTE、兵士4人を含む22人の捕虜を国際赤十字委員会に引き渡す
- 10.29 LTTEの自爆攻撃、軍の船を爆破。15人行方不明
- 11.4 国連特使オトゥンヌ、LTTEが合意を守らずに依然として子供を徴兵していると非難
- 11.6 南アフリカ外交筋、南アフリカにおけるLTTEの活動について調査中であることを明らかにした
- 11.10 プラバカランらLTTE幹部8人を1996年1月のコロombo・ホテル爆破事件の被告として欠席裁判にかけると高等裁判所が認める
- 11.15 タミル政党、9月に大統領が南アフリカでテレビインタビューを受けた際にスリランカ・タミル人を侮蔑する発言をしたと非難
- 11.15 南アフリカ外相、南アフリカをLTTEの活動の拠点にさせないと言明
- 11.22 大統領、UNPのウイクレマシンハ代表に戦争終結に協力する最後のチャンスを与えると語る
- 11.24 軍幹部、作戦遂行に2万人の増員が必要と語る
- 1998 11.26 プラバカラン、LTTEの英雄週間での演説で仲介者をたてた上での話し合いの可能性を示唆
- 11.26 政府、UNDPに地雷撤去作業に必要な通信機器のジャフナ持ち込みを許可

- 12.1 国防省、マンクラムを制圧してジャヤシクルイ作戦の終了を宣言
- 12.6 国防副相ら軍最高幹部、オッドゥスッタンで LTTE のテロ攻撃にあうが、無事。巻き添えで 5 人死亡
- 12.25 南アフリカ議員代表団、スリランカ外相の招きでスリランカを訪問し、タミル問題についてジャフナの司教と会談。(～14日)
- 12.9 復興副相、前政権時代(1977～94年)の暴動の被害者に 2 億ルピーを割り当てたと語る
- 12.10 *Daily News* 紙、LTTE と関係の深いカナダ連邦大臣の辞任を報道
- 12.28 大統領、インドを訪問し自由貿易協定締結
- 1999 1.1 大統領、新年の挨拶で、平和をもたらすために政治的立場の違いを捨てるべきと各政党に呼びかける
- 1.6 新たに合同作戦本部を設立し、退役したばかりのロハン・ダルワッタを参謀に任命
- 1.6 *Daily News* 紙、年末から北部・東部に降った豪雨で 10 万人以上が家を失ったと報道
- 1.7 国防副大臣、国会で 1999 年内に LTTE を鎮圧し、国内に平和をもたらすと確約
- 1.18 外相、南アフリカ共和国が人種抗争終結への仲介をすることはないと断言
- 2.15 宗教界指導者ら、マドゥーを訪問
- 3.4 バブニヤ・マンクラムの西側における作戦ラナゴサ開始。8 日までに 500 平方キロ以上のゲリラ支配地域を制圧
- 3.9 コロンボ中心部で 2 時間のうちに鉄道、バス停、変電所で 3 回の爆発
- 3.16 コロンボ郊外のマウントラピニヤで警察幹部を狙った女性自爆攻撃で、3 人死亡。15 人が負傷
- 3.16 国防省、バブニヤ解放を宣言。報道関係者らに視察を許可
- 3.17 バブニヤ県で地雷により 6 人死亡
- 3.17 ジャフナのバス停で爆発。3 人が負傷
- 3.18 政府軍、マドゥーへ進行開始。22 日までに 125 平方キロを制圧
- 4.1 国防省、マドゥーで LTTE ゲリラ 250 人が政府軍に投降したことを明らかにする
- 4.6 政府発表、ジャフナ市内の工事現場で 7 日から 12 日に行われた発掘作業で 23 体の人骨が発見される
- 4.26 スリランカ赤十字の職員、LTTE に通信機器などを供与していた疑いで逮捕される
- 4.28 大統領、仏教・キリスト教の高僧らと会談して、和平交渉再開の条件を再度語る。LTTE は独立要求を取り下げて、交渉は期限を切るべき
- 5.3 政府軍、ジャフナでタミル人青年らに対して募集(～22日)
- 5.6 非常事態宣言延長。延長前にラトワッタは UNP と TULF 議員を最近制圧した地域に同行した
- 5.10 政府軍、ペリヤマドゥー周辺においてラナゴサ 3 作戦開始
- 5.11 1991 年 5 月のラジーヴ・ガンディー暗殺でインド最高裁判所が 4 人に死刑判決。3 人に無期懲役、19 人は即時釈放
- 5.15 コロンボ市内で PLOTE 党員が TELO 党員 2 人を殺害。同日バブニヤで TELO 党員が PLOTE 党員 4 人を殺害
- 5.16 軍発表、軍と LTTE が 14 日に衝突、双方で 54 人死亡。14 日までに 102 平方キロを軍が制圧した
- 5.20 コロンボで僧侶と支持者ら 4000 人が和平会談反対、武力による LTTE 鎮圧を訴える抗議集会
- 5.26 僧侶 200 人がマドゥー、ジャフナを訪問
- 6.4 政府、チェンマニ発掘にヨーロッパの監視団参加を承認
- 6.6 バブニヤで、過去 1 週間で 3 回目の変電所爆破
- 6.10 *Island* 紙、LTTE の政治顧問バラシガムがイギリスに入国し、ロンドンに滞在中と報じる
- 1999 6.10 バラントン付近で政府軍と LTTE 衝突、双方で 61 人死亡
- 6.16 人権団体や専門家の立ち会いの下、チェンマニ発掘。2 体の人骨が発見される

- 6.25 アメリカ連邦控訴裁判所、危険テロ組織からの LTTE 除外請求を却下
- 6.26 政府軍、ワンニ地区 61 平方キロを LTTE から奪取
- 6.29 国防省発表、政府軍はワンニ地区で LTTE ゲリラに対する大攻勢をかけ、ゲリラ 250 人以上を殺害した。ワンニ北西部をほぼ制圧
- 6.30 バブニヤで、PLOTE 国会議員宅が何者かに襲撃され、護衛の 2 人が死亡
- 7.5 国連職員、18 カ月遅れていた、ジャフナでの地雷除去作業の準備が完了したと語る
- 7.14 パティカロアの警察署前で時限爆弾が爆発。3 人死亡
- 7.15 政府、食糧不足を解消するために幹線道路沿いを民間人安全地帯とすることを提案するが、LTTE はこれを拒否したと軍が発表
- 7.15 東部および北部ヴェリオヤで戦闘、15 人死亡
- 7.15 ミャンマー外相スリランカ訪問（14 日～）。ミャンマーにおける LTTE の活動を許可しないと語る
- 7.16 ジャフナで、EPDP 党員と PLOTE 党員が LTTE ゲリラに銃撃され死亡
- 7.22 政府、北部における民間人安全地帯を再提案したと発表
- 7.22 オーストラリア沖でスリランカ人密航者 14 人を乗せた船が転覆
- 7.26 PA、8 月 19 日までに地方分権・大統領制廃止を盛り込んだ憲法改正案を国会に提出すると発表
- 7.29 **TULF 副議長ニールン・チルチェルバム（55 才）** コロンボ市内で自爆テロにより死亡
- 8.4 バブニヤ県で、LTTE 女性ゲリラによる自爆攻撃で警察官 10 人、民間人 1 人が死亡
- 8.4 軍発表、LTTE が民間人安全地帯を設けることに同意
- 8.31 ロンドンでおこなわれたタミル・スポーツ祭で暴動。20 人逮捕
- 9.2 PLOTE のバブニヤ事務所爆弾が爆発。2 人死亡
- 9.7 反政府系新聞編集長、何者かに銃撃され死亡
- 9.10 10～11 日、10 月 15～16 日、ポリオ予防接種のために一時停戦
- 9.10 *Daily News* 紙、ジャフナで地雷除去作業中のジンバブエ人国連職員が負傷。作業一時中断と報道
- 9.13 政府発表、マンナール地区で 12 日ラナゴサ 5 を開始。LTTE116 人、政府軍兵士 53 人が死亡
- 9.15 空軍がムライディブ沿岸の町を誤爆。民間人 22 人が死亡、35 人が負傷
- 9.18 アンパラ県の 3 シンハラ村で住民 56 人が虐殺される
- 9.18 カソリック司祭ら LTTE と会談。後に、政府が和平交渉を主体的に始めるべきと LTTE が語ったことを明らかにした
- 9.24 パティカロアで軍輸送バスが爆発、兵士 18 人が死亡
- 9.27 外相、国連記者協会で、民族問題が国内問題であることを強調。仲介を必要ないと断言
- 10.6 2000 年度予算、国会に提出される。国防費は前年度比 11.5%増の 524 億ルピー
- 10.10 スリランカ政府軍、創立 50 周年記念式典
- 10.29 政府軍発表、28 日からの北部各地における戦闘で政府軍兵士と LTTE、あわせて少なくとも 60 人が死亡
- 10.30 CWC 党首トンダマン（86 歳）大統領選挙でチャンドリカ支持を表明した後に死亡
- 11.2 LTTE の作戦、「絶え間ない波 3」オッドゥスダンなどワンニ東部の軍拠点を襲撃し占拠。6 日までの間に軍はプリアンクラムまで後退
- 11.2 EPDP の政治部長でタミル系雑誌の編集者、コロンボで襲撃され、死亡
- 11.7 北部における戦闘に関して報道管制がしかれる
- 1999 11.14 エッパワラで UNP 選挙キャンペーン中に爆発があり、一人死亡。ウイクレマシン八党首は無事
- 11.17 マドゥー周辺、LTTE 支配下に

- 11.20 マドゥーの教会が襲撃され、難民ら 44 人が死亡。軍と LTTE はお互いを非難
- 11.23 大統領、マドゥーの教会から政府軍の引き上げを命令
- 11.26 LTTE、政府軍兵士 6 人を解放すると発表。翌日解放。12 月 6 日に 2 人解放
- 11.27 ブラバカラン LTTE リーダー、恒例の演説。戦争を継続しながらの和平だとして大統領を批判
- 12.6 TULF、大統領選挙における PA 支持を撤回
- 12.6 ウイクレマシンハ、パティカロアで演説、内戦の停止と LTTE が代表する暫定評議会の設立を主張する
- 12.11 エレファント・パスの東で衝突、LTTE 側 230 人死亡と軍が発表
- 12.18 コロンボで選挙演説直後に大統領、自爆攻撃で負傷。ピーリスら大臣も負傷。同日に UNP の選挙キャンペーンでも爆発。あわせて 33 人が死亡
- 12.21 大統領選挙実施
- 12.22 **クマラトゥンガが第 5 代大統領に就任。** ウイクレマシンハ UNP 党首に国民政府の結成を呼びかける
- 12.30 大統領帰国。BBC のインタビューで右目失明の可能性を明らかにした。過去 2 年間の間にイギリスやノルウェー政府による交渉仲介があったことも明らかに
- 2000 1.5 首相官邸前で LTTE の女性自爆攻撃があり 13 人死亡
- 1.5 ACTC 議長ボンナバラム、コロンボ郊外で撃たれ死亡
- 1.19 UNP ウイクレマシンハ党首、大統領宛の書簡で UNP は紛争終結に関して政府に協力すると述べた
- 1.27 バブニヤの郵便局で爆発。10 人死亡、60 人余りが負傷
- 2.3 コロンボ近郊の 2 カ所およびクルネーガラでバスが爆発。30 人余りが負傷
- 2.3 ジャフナ半島アリアライで戦闘。LTTE ゲリラ少なくとも 75 人が死亡
- 2.7 モナラーガラでバス爆破。40 人余りが負傷
- 2.8 コロンボ市内でバス爆破。3 人死亡
- 2.12 ノルウェー外相ヴォッレベック、ロンドンで LTTE 幹部と会談
- 2.15 パティカロアで警官 13 人が LTTE に襲撃され死亡
- 2.15 バランタンで戦闘
- 2.16 ノルウェー外相、来訪
- 3.3 トリンコマリで、LTTE の女性自爆攻撃による軍幹部暗殺未遂事件発生
- 3.10 コロンボ近郊で自爆攻撃。23 人死亡
- 3.26 エレファント・パス近郊で軍と LTTE が衝突し、双方合わせて 200 人死亡
- 3.30 政府軍飛行機、エンジントラブルでアヌラーダブラ近郊に墜落し 40 人死亡
- 4.6 僧侶らがノルウェーの仲介に反対してコロンボ中心部でデモを行う。BBC 特派員が襲われ負傷
- 4.7 LTTE、政府軍のイスラエル製哨戒艇 2 隻を ジャフナ半島北で撃沈
- 4.17 国境なき医師団、LTTE 支配地域における医療品不足を解消するよう、スリランカ政府に要請
- 4.20 シンハラ急進的政党シンハラ・ウルマヤ結成
- 4.23 LTTE の攻撃を受け、エレファント・パス陥落
- 4.25 LTTE、国際赤十字社を經由して軍兵士 126 人の遺体を軍に返還
- 4.30 パッライ軍事基地を LTTE が制圧
- 5.3 大統領、インド空軍に軍事援助を依頼。翌日インド首相がこれを拒否
- 2000 5.3 メディア大臣、テレビ演説で戦時体制を敷いたと宣言
- 5.4 政府、イスラエルとの関係を正常化すると発表

- 5.4 政府、外国メディアに対して報道管制を課すと発表
- 5.6 政府、情報省に新たに情報部局を設置
- 5.9 アナン国連事務総長、一般市民の被害を防ぐためにスリランカ政府に交渉を勧告
- 5.10 アリヤライ付近で軍と LTTE が衝突。双方合わせて 130 人が死亡
- 5.11 国会、120 億ルピーの追加的軍事支出を認める
- 5.11 ノルウェー代表団、インド到着
- 5.11 イスラエルからスリランカに戦闘機 7 機が到着
- 5.14 インド、国内における LTTE の活動禁止をさらに 2 年間継続すると決定
- 5.15 最高裁、報道管制は人権侵害が違憲ではないと判決
- 5.19 政府、タミル日刊紙 *Uthayan* を休刊させる
- 5.22 政府 *Sunday Leader* 紙を 6 カ月の発行停止に。6 月 27 日に 4 カ月に短縮された
- 5.22 ノルウェー副外相、ノルウェー代表ソルヘイムとともに来訪。3 日間滞在してカジルガマル外相、大統領、ウイクレマシンハと会談
- 5.24 榴弾が在スリランカ・ノルウェー大使館に投げ込まれる
- 5.24 ジャフナ半島テンマラッチ地区で軍のヘリコプターが墜落
- 5.26 LTTE、27 日午前 10 時より 12 時間の一方的停戦を宣言
- 5.26 大統領、インドのテレビに出演してジャフナからの政府軍の撤退はないと明言
- 5.29 ビカリング米國務次官、インド訪問後、来訪。大統領、ウイクレマシンハ、タミル人国会議員らと会談。アメリカ政府はタミル人国家の建設に賛成しないと述べる
- 5.30 チェバカッチェリで戦闘、LTTE 側に 100 人ほどの死傷者
- 6.5 外国メディアに対する報道管制を解除。しかし、国内メディアに対する規制は継続
- 6.5 政府軍所有の哨戒艇 2 隻が沈没。うち 1 隻は空軍による誤爆。LTTE 側も 4 隻失う。23 人が行方不明
- 6.7 コロンボ・ラトマラーナ空軍基地近くで、戦費集めの行進中、自爆攻撃でグナラトナ工業開発大臣、その妻ら 20 数人が死亡。10 日に国葬
- 6.9 サラサライで戦闘、24 人死亡
- 6.11 インド外相来訪。大統領、外相、UNP 党首、タミル政党の代表らと会談。12 日、人道的・経済的支援を約束
- 6.14 コロンボ郊外で、空軍兵士を乗せたバスに自爆攻撃未遂。バスは無事だったが、自爆攻撃者を含む数人が死亡
- 6.22 JVP、シンハラ・ウルマヤ、コロンボ中心部で物価高に抗議してデモ
- 6.24 TULF、LTTE に政治的プロセスに参加するように呼びかけ
- 6.26 LTTE、ジャフナに向かう民間船を爆撃
- 6.27 ソルヘイム来訪。29 日にインド訪問
- 6.28 ノルウェーが資金援助している NGO 事務所に手榴弾が投げ込まれる
- 7.1 タミル・ナドゥ州エロードで、ドラヴィダ復興進歩同盟の主催によるスリランカのタミル人支援の集会
- 7.3 政府、国内外のメディアに再び報道管制を敷くことを発表
- 7.4 ナガルコービルで戦闘
- 7.4 仏教振興大臣、大統領の特使としてインド訪問
- 2000 7.7 断続的に行われていた UNP、PA の話し合いで UNP は権限委譲を含む憲法改正に合意
- 7.10 ジャフナ半島アリヤライ付近で戦闘。LTTE 側に死者 20 人余り

- 7.10 ジャフナ大学教員組合、LTTE の少年兵徴集を批判
- 8.3 憲法改正案、国会に提出される
- 8.3 憲法改正案の採択が無期延期される
- 8.10 国会、国防予算に 280 億ルピーを追加承認
- 8.14 政府軍、マドゥピルで LTTE を攻撃。LTTE 側に 40 人ほどの死者が出た模様
- 8.18 大統領、国会を解散し総選挙を宣言
- 8.19 JVP 支持者が選挙活動中襲撃されて死亡
- 8.28 ソルヘイム来訪（～30 日）
- 9.3 コロンブトゥライで戦闘。軍・LTTE 双方合わせて 350 人以上が死亡
- 9.9 大統領、重要問題については高僧に相談すると確約
- 9.15 コロンボ中心部保健省付近で自爆攻撃。7 人死亡
- 9.16 SLMC 党首で港湾大臣アシュラフ（52 才）その他 14 人、ヘリコプター墜落で死亡
- 9.17 政府軍発表、ジャフナ半島第 2 の都市チェバカッチェリを LTTE より奪取。双方合わせて 100 人死亡
- 9.19 トリンコマリー県で地雷により軍のトラックが爆発。約 20 人死亡
- 9.26 政府軍発表、サラサライ周辺で衝突。双方合わせて 30 人死亡
- 10.2 トリンコマリー県で PA の選挙集会中に自爆攻撃。候補者を含む 26 人が死亡
- 10.4 首相、政府は LTTE と交渉する意思はなく戦闘で決着をつけること決定した、と語る
- 10.5 アヌラダプラ県で PA の選挙集会に自爆攻撃。11 人死亡、35 人が負傷
- 10.10 総選挙投票。夜間に外出禁止令発令
- 10.10 シリマヴォ・バンダラナイケ（84 才）投票後、帰宅途中に心臓発作で死亡。14 日国葬
- 10.17 大統領、ノルウェーに仲介継続を依頼する書簡を外相に託す
- 10.19 コロンボ、市庁舎付近で自爆攻撃。アメリカ人 3 人を含む 21 人が負傷し、警官 2 人死亡
- 10.19 ナガルコービルで衝突。軍所有のヘリが LTTE の攻撃を受ける
- 10.19 ジャフナで、新聞記者が襲われ死亡
- 10.23 トリンコマリー港で LTTE 自爆テロにより軍船隻沈没。救援に駆けつけたヘリも攻撃を受けて墜落。24 人死亡
- 10.23 政府軍幹部、さらに新兵が 1 万人必要と語る
- 10.25 未明、バンダラヴェラのタミル・ゲリラ矯正施設がナイフや石を持った暴徒に襲撃され、31 人死亡、14 人負傷
- 10.29 ヌアラ・エリアで暴動。外出禁止令発令。翌日も暴動が再発
- 10.29 ジャフナ、テンマラッチ地区で衝突、LTTE 側で 29 人死亡
- 11.1 ノルウェー代表団、ワンニでプラバカラン LTTE リーダーらと会談
- 11.3 ソルヘイム、大統領に会見の内容を報告。LTTE は無条件で交渉再開を望んでいると伝える
- 11.9 大統領、国会で紛争の終結とノルウェー・LTTE 会談の結果について語り、LTTE が交渉の条件を詳細にすれば、交渉再開の可能性もあると明らかにする
- 11.11 首相、選挙区で開かれた集会で LTTE との休戦はないと語る
- 11.16 シンハラ急進派、ノルウェー大使館付近でソルヘイムをかたどった人形を燃やして、ノルウェーの介入に抗議
- 2000 11.19 政府軍、チェバカッチェリの西に向けて進攻
- 11.27 プラバカラン、英雄週間の演説で無条件和平交渉再開を主張。しかし、交渉再開には環境が整わなければならないとも主張。1982 年以来的 LTTE 側の死者は 1 万 6333 人、2000 年に入って 1742 人、

自爆攻撃は253人であると発表。

- 11.28 来訪中のインダーファース米国務次官補、LTTE に政治的解決の道をとるよう警告。ノルウェーの調整を支持すると表明
- 12.2 バラシנגラム LTTE 政治顧問、ロンドンで交渉開始提案に反応しないスリランカ政府を批判
- 12.5 政府軍、ナバットクリ周辺を制圧
- 12.8 2001 年度予算（4カ月分）が国会を通過。軍事費は全体の20%におよぶ
- 12.12 カジルガマル外相、和平交渉を開始する意思はあるが、停戦や経済封鎖の解除には応じられないと語る
- 12.18 大統領、パリ開発フォーラムで LTTE が無条件で交渉再開に応じるなら、政府も対応すると語る
- 12.21 LTTE ロンドン事務所、クリスマス、正月、ボンガル祭を祝い、交渉再開を促すために24日深夜より1カ月の一方的停戦を宣言。その間、双方が合意の得られる条件を探る、停戦の延長もあり得る
- 12.22 政府軍、チェバカッチェリで新たに軍事行動開始。2日間の戦闘で双方合わせて167人が死亡
- 12.24 首相、LTTE がノルウェー調整の和平交渉を再開するまでは、LTTE 停戦提案を拒否し戦闘を続けると宣言
- 12.24 LTTE は1カ月の停戦を継続すると声明。アメリカ、イギリス、EU、インドなど諸外国にスリランカ政府に対する説得を期待
- 12.25 19日以来行方不明になっていたタミル人民間人8人の遺体がチェバカッチェリ付近で発見される。軍関係者9人が逮捕される
- 12.30 軍、ナバットクリ橋を LTTE より奪取